

特定非営利活動法人

VOL.30

南国暮らしの会

2005 年 秋 季 号



平成 17 年 10 月 22 日



NPO 法人 南国暮らしの会

登録第4810100号
INCORPORATION NUMBER

目 次

表紙			頁
女性特集			
私、ハマッテます ランカウイ島	No.920	國武 順子	1
チェンマイ滞在記	No.625	工藤 キヨ子	3
青い鳥は何処?	No.24	酒匂 愛子	5
ハワイの風に誘われて	No.712	高田 志那子	8
チェンマイで日本食を	No.54	山口 久美子	10
或るモスレムのエリート青年の話	No.427	小川 政子	13
スリランカから日本を覗れば、、、	No.428	岩瀬 光子	14
龍雷の国ブータンから (その2)	No.723	山本 恵美子	15
南の会と出会って	NO.737	山口 美奈子	18
一人でロングステイ	No.613	富樫 則子	22
愛犬と共に海外でロングステイ	No.500	下田 紀美恵	24
クアラルンプールとチェンマイ	No.851	稲田 順子	25
私のミュージ (美神) フィリピン	No.38	橋本 比奈子	27
チェンマイの山奥でウルルン滞在記	No.687	杉山 節子	29
フィリピンらしくないバギオ	No.227	齋木 ガーリィ	33
ヨーロッパ一週 47 日間鉄道ドライブスロンの旅	No.417	木内 玖充子	36
アフリカ紀行 (チュニジア編) 続き	No.40	平澤 信	43
これから滞在地選びをする場合の「期待と満足度」を考える			
	No.554	笠井 幸司	49
東海支部便り	東海支部長	横井 保夫	53
関東支部便り	関東支部長	宮崎 哲郎	55
関西支部便り	関西支部長	三谷 昌鴻	56
北海道支部便り	北海道支部長	工藤 俊一	57
バギオ支部便り	バギオ支部長	齋木 一	58
チェンマイ支部便り	チェンマイ支部長	伊沢 豊	59
友好団体			61
総務報告			2
インターネット委員会	ホームページ担当報告		4
メールリンク情報			17, 23
編集後記			63

私、ハマッテます ランカウイ島

九州支部 920番 國武 順子

軒先で小さな魚の風鈴が涼やかな音をたてています。ランカウイ島で求めたものです。最初は乾季の3月、今回訪れたのは雨季のはじめの7月初旬。朝夕スコールがあり、日差しが前回よりほんの少しだけ弱くなっていました。「どうしてまた、ランカウイなの？」友人がたずねます。

マンゴー大好き、

白くながい砂浜と静かな海に沈む夕日。プールサイドの椰子の木陰でゆったり流れるあの極上の時間。そして、何ととっても果物が豊富な季節、おいしいマンゴー食べたーい！着いた翌朝、早速マンゴーを買ったあのスーパーへ直行。ところが目当てのスーパーが跡形もありません。隣の本格派のステーキの店も、地元の人で賑わっていたマレー料理店も見あたらないのです。のちほど聞いたところによると、区画整理事業が行われるため、立ち退いたとの由。本当にかっかり。

私のおすすめ

昼食は何と言っても、通りに面したオープンなマレー料理の店。最初、大皿にライスを盛り、次に魚・鶏・山羊などの具の入ったココナツカレーを選んで、好きなだけかける。ビタミン不足にならぬ様、野菜もさがして横におき、ウーン、この赤と黄色のツブツブは“what？”何だか分からないけどこれもついでにかけ、忘れない内に小さなお菓子も2、3個チョイス。最後はとても美味しいスイカジュース。これで会計、お願いしまーす。二人分で9リンギット（約270円）安いでしょ。何故か、私一人で食べたときも9リンギット。不思議。でも、そんなこと、さっきの“what？”“を一口食べれば、余りの辛さで吹っ飛び、欲張った罰が口中に広がるのです。

ナイトマーケット最高！

クアタウンのナイトマーケットへ行きました。路上に山積みされたドリアン、サテーを焼く煙、揚げ油の匂い、香辛料の香り。そしてあふれる異国の人々。それらが混沌と夕暮れのなかにありました。初めて夜店に来た子供のように私の胸は躍り、熱いものが体を走る。あの人だかりは“何？”こっちの甲高い呼び声は“何だ？”おまけに、旦那まで負けじと何か言ってる。「わけの分からぬ物を食べて、下痢でもしたら日本に帰れんぞ！」だって。

なにを言うか。「わけが分からぬから、食べるんじゃ！」こちらは興奮状態だから、かなり強気。まず、豆乳を固めて黒蜜をかけた豆腐花は“good・good”。魚のすり身の揚げ物もイケテル、ジャックフルーツの実を揚げたナンカ、これが栗みたいで、もうたまらん。マレー風おでんのヨンタウフだってなかなかいい味だしてる。色よく焼いた鶏の骨付き、これまた結構。いずれも1リンギット（約30円）で新しい味に出会えるのですから、誰が何と言おうとやめられません。

果物も雨季のためか種類も豊富で台からあふれんばかり。私の大好きなマンゴー（今回はグリーンの少し固めの物が主でした）マンガスチン、マタ・クチン、ランプータンなどみんなキロ単位で売っています。もちろん！買いました。ホテルの小さな冷蔵庫も、テーブルの上も、南国フルーツで一杯！帰国日までに食べきるかって？それが問題。

私のお気に入り

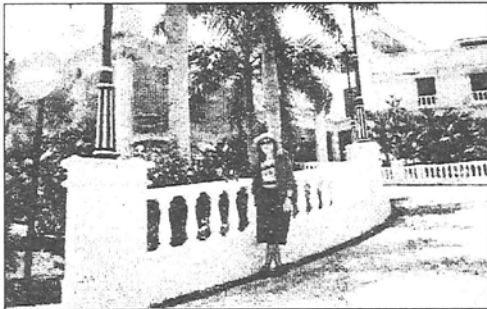
道端でパラソルを広げて、太ったおばちゃんが手作り菓子を売っています。小さなドーナツみたいな揚げ菓子、餅米で作ったウイローみたいなもの、赤や青に着色されたカンテン、蒸しパン？、葉っぱに包まれた

ものなど。形もさまざま、色とりどりクエはどれも5個1リングット。ひとつ、ひとつみんな味見してみたいな、、、と目を輝かせていると、例の声が聞こえます。

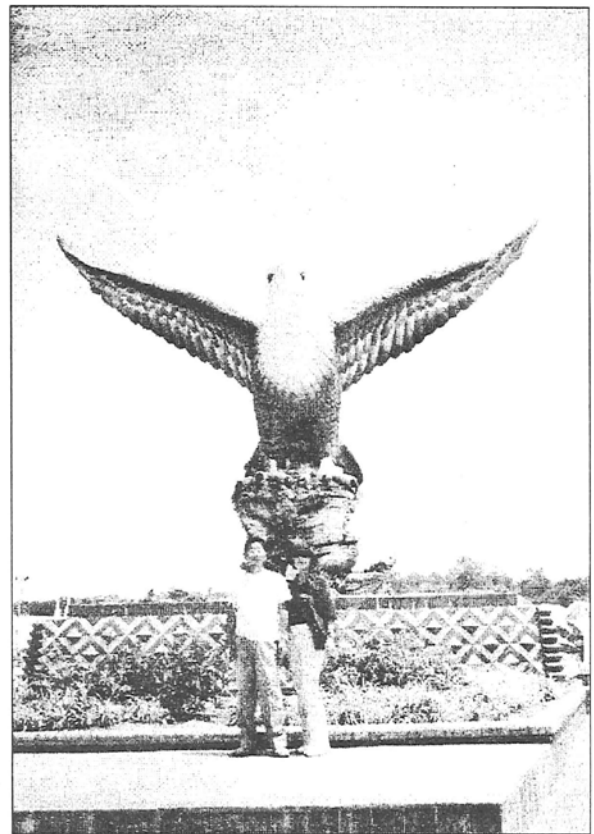
「少しにしておけ、腹こわしたら、、、、」
おまえさん心配なか！うちの胃はこの日の為に鍛えてありますけん。それから浜辺に行き、沈む夕日を眺めながら、いい気分で私一人でゼーンぶ食べたばってん、なんともなか。明日もまた買いに来よーっと。
夫へ一言、“ロングステイするなら、あんたの胃もいちから鍛え直さんと！”

お昼寝はプールサイドで

昼下がり、ひと泳ぎした後は、プールサイドのデッキ・チェアに横になり、木陰にそよぐ風に吹かれ、澄みきった青空に流れる雲を眺めているといつしか心地よい眠りに入る。極楽、極楽……。おばあちゃんみたいって？
本当におばあちゃんなんです。
孫が二人おるとです。名も知らぬ小鳥の声で



フッと目覚め、ここは何処？頭上に椰子の葉がそよいでいる。そうだランカウイだ。ああ、何という開放感、幸せ、幸せ、またウトウト……。
“コケッコウー” 何！目をあけても、椰子



の樹はない。聞きなれた隣のニワトリの声だ。あれっ、福岡の朝だ。いつまでランカウイぼけているの？でも、気持ちよく目覚め“お早う”と云える相手がいる、ごはんも美味しい！これも幸せ……。

数年前の賀状に“いつまでも探求者でありたい！”と記したことがありました。“どのように生きるか”迷いながら、ジタバタしながら……。疲れた時は、ブーゲンビリアの咲く南の島へ、またでかけていいですか。

*総務担当より 担当理事：菊地 功

6月以降の総務部門の主な活動

06月26日：船橋市市役所市民の声を聞く課にてヒアリング。

07月30日：第1回理事会開催。

08月18日：企画委員会開催

08月24日：規定・必携編集委員会開催

09月15日：東京都生活文化局NPO法人担当職員よりヒアリング。

09月17日：第2回理事会開催。

以上。

チエンマイ滞在記

北海道支部 625番 工藤 キヨ子

この度、女性の視野からのチエンマイについて投稿依頼を受けました。こういう機会が巡ってくるとは考えもしていませんでしたので、詳細なメモを残していません、自分なりに感じた事を大まかに記したいと思います。

第一歩、チエンマイ空港に降り立った時に目に入ったのはやはり花でした。空港前のブウゲンビリアや、蘭が強い日差しを跳ね返すようにたくましく花をほころばせ迎えてくれました。ホテル到着までの道すがら花と街並をみて！なかなか好い所じゃない！と好感。

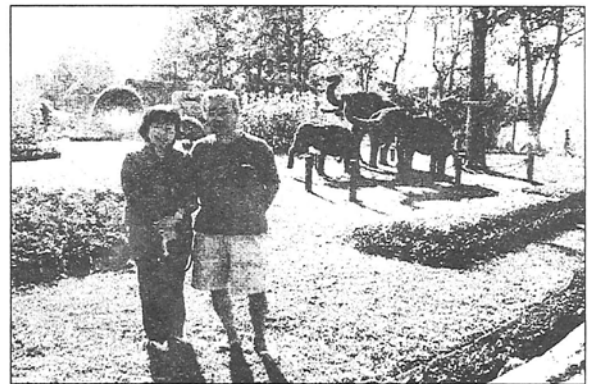
ホテルはドイ・ビューです。〔2月一ヶ月の滞在〕ワンルーム（ツインベット）、冷蔵庫〔小型〕テレビ（NHKなし、少し淋しい）バス、シャワーです。ポットがなく不便だったので後日買いました。朝食は50Bでバイキングがありました。到着後すぐ南国の会伊澤支部長さんに携帯電話が使用できる状態にいただきましたことが何より有難かったです！使用可能になるとメンバーの方々の連絡も密になりタイ語わからずとも、生活のノウハウはもちろん、ソントウの料金交渉、スポーツお食事のお誘い、魚屋さんに買出し、バザール等など誰かが力を貸してくれ楽しいステイが始められました。本当に有難いことと思感謝しています。

日本食は食べようと思うと屋台、デパート、レストランなどでそう苦勞なく美味しい食事ができましたので問題はありませんでしたし、私達がよく食べたのは、日本の“おこわ”によく似たご飯がありましたので朝食用に買って食べていました。これらはあたりの様子が次第にわかってくると簡単に買うことが出来ました。ホテルの近くの店、レストラン、昼にはホテルの前に来る若夫婦の屋台などでした。

朝食はおこわ（カーオニャオ）、味噌汁、つ

けもの（味噌づけ）をよく食べました。

また漬物の野菜、果物などは、チエンマイ広域ロードマップでホテルから近い所にトンパヨム市場あることを発見、朝、まだ車、人通り少なく排気ガスも少ないニマンヘミン通りを散歩しながら行きチエンマイ大学の広場で体操をしている人、歩いている人が居る中にちょっと寄り道をして散策の仲間入りを楽しんで市場まで。そこでは黄色の衣を身に着けた出家僧の托鉢姿と食べ物を渡し合掌する人々にも遭遇、こちらまで徳をいただいた気持ちになりました。ここでは、カーオニャオ、キュウリ、バナナ、マンゴウ、ソウセイジを買うと、又、ブラブラと鶏の鳴き声を聞きながらホテルまで、この時間帯はほとんど一人で出かけていました、この地の住人になっている実感を味わい楽しい時でもありました。



交通に関しては平地ということもあり、ソントウを利用していると不便は感じられませんでしたし、女性だけでも気軽に利用できる便利さがなんといってもうれしい事の一つです。一方、道路の横断は、車、オートバイの数に圧倒されなかなか渡れないのが恐れ所でした。高齢者、障害者には問題ありですね。あの排気ガス汚染はほんとうでした。喉の弱い人には辛いものがありますそんな時は少し離れた温泉（サンカムペン）に行くことを

お薦めします。花と緑に囲まれた美しい公園の中で湯量が豊富でバスタブにたっぷりの湯でリラックスできますし空気がきれいなので深呼吸できます。



花祭りは、つぎつぎと趣向を凝らし様々な花で飾られた山車は圧巻でみごとでした。又、ナイトバザールでの蘭も安く年金で滞在の間、部屋を飾るのも容易です。とにかくクラブト関係やシルク、他布地、土産品などどれを見ても品物の種類が豊富で女性だけで時間を過ごすのに飽きないところと感じました。

洋服の仕立ては日本では忘れかけていましたが布地が安くおまけに仕立て代がやすいのが魅力で作ってみました。(ノースリーワンピース綿 総額600B) (スカート総額410B) デザ

インは製図付きの写真を持っていくのも一つの方法かとおもいました。この時は言葉の問題があり、長期滞在されています奥様方の助けがなくてはとても出来ませんでした。

早く同伴していただきありがとうございます御座いました。

スポーツもゴルフの練習にでかけると、親切に教えてくださる方もいらっしゃり、下手ながらコースでも楽しみ、疲れの後はマッサージを受け、外食をして帰路につく生活で主婦にとっては有難い日々です。その他ボーリングも数十年振りで参加、女性ばかりで楽しめる機会もあるチェンマイに又、レポートしたいそんな気持ちでいます。

疲れたときには、お茶を楽しませてくれるステキなお店もありました、スイカジュースは美味しくて大好きになりました。



南の会ホームページ更新作業中

インターネット委員会 ホームページ担当 平賀國廣

南の会ML会員の皆様、日頃はMLを通して情報交換を楽しまれている事でしょう。

ML会員も400人を超え、ホームページをリニューアルする時期にきました。現在その準備期間として会員の皆様のHPに対してのご意見を伺うべく、各支部長にお願いしてまいりました。10月に入りますといよいよ新しいホームページの作成に着手します。

会員番号1000番の会員を年度内に迎えるまでに成長した南国暮らしの会にふさわしいHPにしようと考えています。

南の会の国内外16支部ごとの活動状況が一目でわかるように、各支部から写真の提供と掲載文を提出して頂き、支部の特色を出せたらと考えています。特に海外支部のページは会員のみならず、一般の方の気を引くような内容に出来ればよいと期待しています。

リニューアルの時期は現在の所12月中の予定で進めています。どうぞご期待ください。

いずこ 青い鳥は何処？

埼玉県春日部市在住
関東支部 24番 酒匂 愛子

私達が南国暮らしを検討し始めてから10数年経過しました。居住を頭に描きながらどの国が私達の肌に合うのか現在も模索中です。検討した国及び地域は米国のハワイ、比国のマニラ界限、(セブ、ダバオ)、馬国のクアラ・ルンプール、ペナン、コタキナバル、タイ国のバンコク、チェンマイ、チェンライ、ノースパタヤ、(豪州のゴールドコースト、パース)等です。()内は夫の訪問地。何れも日本の埼玉県(現住所)を含み帯に短しタスキに長しで、此れからも探し求める事になりそうです。

何故か忘れがたいチェンマイ

チェンマイには3度訪れました。初回訪れたとき自分達にあいそうな所だと思いロングステイして見たくなり、昨年(H16年)1月下旬から4月上旬にかけ70日間滞在しました。その時の色々な体験を主に記します。

住まいについて

2月はチェンマイの一大イベント花祭りが催されるので、ハイシーズンのため住まい探しは容易でないとの情報を得ていました。当初は5日程度ホテル住まいをし、その間に適当な所を探す計画でした。セントラルデパートの近くに適当な良い物件?(コンドミニアム約100㎡で1.5万パーツ/月)を見付け、賃貸物件が少ないと言う情報を得ていたので衝動的に1ヶ年契約をしてしまいました。ところが2月に入ると南西向きのベッドルームは暑さと、午前2時頃までの車の騒音で、私どもには耐え難い環境で、2週間ほど住んで、もう少し良い物件探しが始まりました。

10ヶ所位下見して、眺望が良く、大木の庭に大きなプールもあるコンドミニアム(約100㎡で2.5万パーツ/月)を探し当て翌日仮契約をする段階になりました。ところが

その夜会員の集いがあり、別に適当な物件があるとの情報を貰いました。早速見学し、ドイステープ山脈を真正面にしたチェンマイ大学近くのコンドミニアム(約120㎡で1.5万パーツ/月)で、リビングのガラス窓が180度の素晴らしい見晴らし、価格面や備品などの揃っているのに魅せられ入居する事にしました。最初入居した部屋はベッド、流し等が在るのみでシーツ、タオルケットその他諸々は自分で調達しなければならず、日本円で約10万円程度の買い物をしました。ところが、今回入居した部屋はシーツのスペアまで揃っていて大変気に入りました。この件は今後会員の皆さんが物件探しの場合の物指しにもなると思います。同じ建物でも部屋の持ち主は異なるために、備品等はオーナーにより異なるそうで、これ等もジックリ検討してから契約する事をお勧めします。

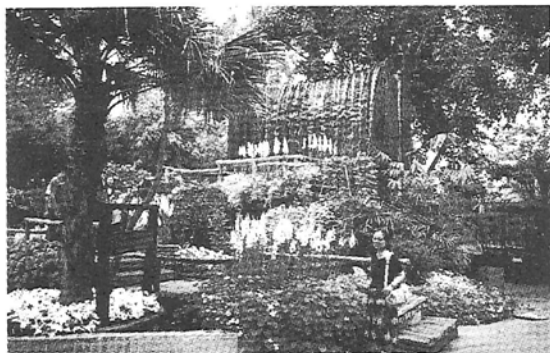
ところで最初の部屋の賃貸料は3週間住んで、デポジット2ヶ月分(1年間居住すれば返済されるが契約不履行で没収)と1ヶ月の家賃で4.5万パーツ(約13万円)、備品等を含むと約20万円程度掛かった事になります。

これを反省材料に、今年の青い鳥探しのチェンマイ、シーラチャ、バンコクの3週間の旅は全てホテル滞在にしました。

何だか、昨年は取り付かれた様に住まい探しをして、つい悪い癖が出て衝動買いならぬ賃貸契約をしてしまった事を大いに反省しております。10年程前にハワイ島の土地(約430坪)を購入し、未だに税金や管理費を払いお荷物になっている事に、懲りずに失敗を繰り返しています。夫は「マイペンライ・マイペンライ」とロずさんで、これも良い勉強で授業料だと思えば良いと言われると、つい自分もその気になってしまいます。

南国での住まい探しは、安価なホテルに滞在し、滞在中の方々の参考意見を十分聞き、ジッ

クリ探すと結構適当な賃貸物件がある事を感じました。



楽しく暮らせる小都市

私達夫婦はゴルフはしないのですが結構忙しく、70日間滞在して夫が持参したパソコンで手解きを受けるつもりでいたのですが、全然手解きを受けず帰国することになりました。

此処は女性には素晴らしい所かも知れませんが、まず食事は殆んど外食で贅沢を言わなければ結構な物を頂けます。掃除、クリーニング

(夫は仕上り品に異臭がすると言いつ自分で下着類は洗っていました。)も殆んどせず、時間が作れるとショッピングに出掛けては、服の生地をあさりオーダー(既製品より安い)したり、またマッサージに出向き、オイルマッサージで恍惚の一時を味わい、戦中戦後を体験した私には考えられない生活が、年金程度で出来るという事は夢のようでした。

男性軍はゴルフ三昧、夕食は1人500円程度出せば仲間とワイワイ喋りながら結構な品を楽しく食べられるのはこの上ない幸せ??? 三度三度の献立を考え、食材を購入、食事の支度、後始末などから開放されるのは、ささやかですが幸せを感じます。帰国後夕食の後始末をしながら、これだけでも夫がしてくれたら・・・と思う事が暫く続きました。

この都市は旧首都で観光施設も結構多く、特にキンキラ金の寺院は圧巻で、見物には事欠きません。特に印象に残ったのはチェンライの観光スポットであるスワン・メー・ファールアン、フラワーガーデンです。機会があったら是非観て下さい。この花園は皇太后が造成推進されたイギリス式庭園で、一年中枯木

や枯れ花が無いそうです。それは従業員が常に摘花や植替えをしているからとの事。

もう一ヶ所サンカムペーンの温泉(温泉が十数米連続自噴)に宿泊しノンビリ庭園の散策など如何でしょう。入浴施設は暑い所のせいか良くありません。が 空気は良く咳は出ませんでした。 ドイ・ステープ山脈の裏側のリゾート地は山間に落ち着いたリゾートホテルが散在しています。近頃は会員同士でのリゾートホテル巡りなど実施されている様です。



風の有難さを痛感

滞在し2月中旬ごろまではそれなりに風があり、ドイ・ステープ山脈も見えていたのですが、下旬頃から殆んど風がなくなり、山脈がスモッグで見えなくなりだしました。部屋から見える椰子ノ木の葉や公園の旗が殆ど揺れない日が続きだし、山脈が隠れだし、私の喉が痛み出し咳と痰が引切り無しに出始めました。余りにも咳が出るので夫婦の寝室も別にする事になりました。勿論カード保険を利用して診察してもらおうと気管支炎との診断でした。薬を頂きましたが住環境を変えるより仕方ないとの事、そうこうする内に夫まで深呼吸が出来ないと言い出し、タイルの床を1日2回ぐらい茶殻や濡れ紙での床掃除が始まりました。しかし症状は悪化するのみでしたので残念乍ら長期滞在を断念する事にしました。日本は島国で常に風が吹いていますが、此処では乾季の5月頃まではこの様な天気が続くとの事、住み替えた Condominium に1ヶ年契約の話をすすめて居たのですが、帰国の10日位前に断りました。

素敵な人々との巡り会い

会員の方々、会員でない日本人の方々も皆さん前向きで楽しく暮らしていらっしやる。

人間関係は少しギクシャクした事を聞きましたが、この様な事柄はどの地に住んでもありますがちな事で、特に加齢された方は自我が強くなり個性丸出しの感があります。が 夫々付き合うと良い方が殆んどでした。外国で暮らそうという方は、それなりに自分の生き方を持っているお方で、人夫々の生き方を尊重して付き合いたいものです。

またコンドミニアムの女性マネジャーが親切で良心的な方で、自宅（素晴らしい環境、警備も厳しいビレッジで、各戸建の庭の片側に10数米幅の小川があり、満水の水面からは所々噴水が吹き上げデッキから魚釣りが出来る。）に3回ほど招待され、営業目的もあつたでしょうが素晴らしい持て成しを受けました。このビレッジの戸建は3万パーツ/月からの物件でした。私達がコンドミニアムの賃貸契約予定を断っても、何ら苦情も言わず快く承諾してくれた上、契約期限後のコンドミニアムに3日のオーバーステイも彼女から提案があり延泊を無料にしてくれました。私もお礼に持参した夏の和服一式をプレゼントし、着付けをしてあげたところ大喜びでした。



今後のステイ先について

夫は海の近くのステイ先をまだまだ探したいと言っていますが、私の気持ちはこの地に落ち着き、乾季には他の国で暮らすのも良いのではと思っています。またノースパタヤの素晴らしいコンドミニアム（白亜の殿堂と云う感じ）も捨てがたい物件です。が 賃貸料が高価で今一つ考えが纏まりません。ステイ先は人夫々のスタイルがあり、一概にこれだ



と言うことは出来ないと思います。

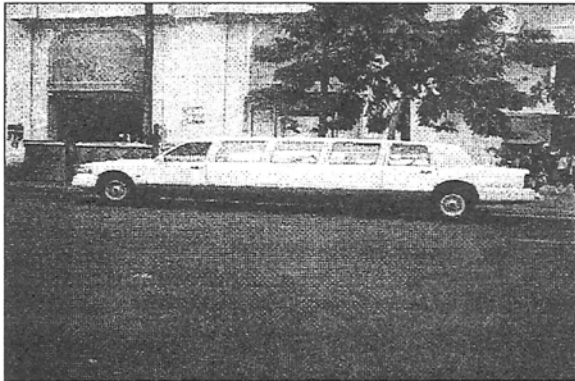
自分が求めている青い鳥を、チェンマイ支部長伊澤様のチェンマイ情報や海外滞在体験会員の皆様方の情報を参考に、今後も飽く事なく楽しみながら探したいと思います。昨年、今年とタイ国を訪ね、チェンマイ、シーラチャ、バンコクで支部長様をはじめ、会員の皆様に変な迷惑をお掛けしました。皆様のサポートのお蔭でこの様な体験記を認める事が出来ました。心よりお礼申し上げます。皆様のご健勝とご多幸をお祈りしております。又お逢い出来る日を楽しみにしております。



ハワイの風に誘われて

関東支部 712番 高田 志那子

私が始めて海外旅行に行ったのは30年位前の夏のこと。未だ幼稚園児だった2人の子供を連れて、夫の単身赴任先である南太平洋バヌアツ共和国のサントへ。その時の飛行機が悪天候でもないのに揺れがひどく急降下と急上昇が何度も繰り返され、乗り物酔いと睡眠不足。2度の乗り換えでやっと着いた時には、出国許可証を書く気力もなく、呆然としていて夫が迎えに来てくれました。それ以来、しばらくは飛行機恐怖症になりましたね。まあそれも年月とともに薄らぎハワイに来たのは今回で三度目、そして初めてロングステイらしき一ヵ月間の滞在でした。



今日のハワイでのスタートはちょっとした新婚気分を味わえるさい先の良いものでした。何と朝のエアポートからリムジンのタクシーでの出発。車の中はお花が飾られ左右に長い椅子と飲み物が用意されて、それに乗りワイキキバニアンへゆったりと向かったのです。

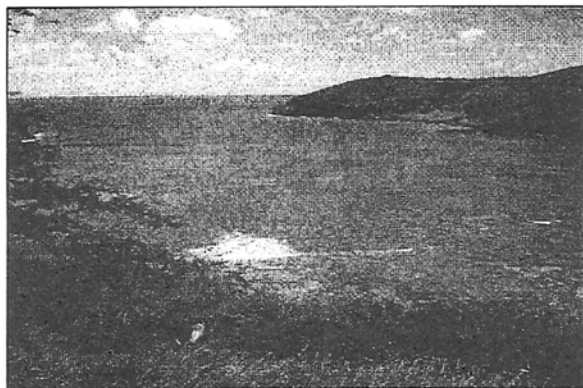
或る日のスケジュール、朝5時半起床、海岸通りからカピオラニ公園まで1時間の散歩、まだ薄暗い夜明けの舗道をウォーキングやジョギングする人たちが昼間の様な賑わいです。公園の広場では太極拳や宗教活動のような集会等があり誰でも気軽に参加出来るような雰囲気、そしてビーチには観光客ともホームレスとも

見分けの付かない人達がゴザをひいて蟹と寝ています。そうそうスクール、はじめの一粒を感じたら、ぬれたくない時は素早く軒下か木陰に駆け込みます。強い雨でかなり濡れますが其のまま濡れて歩いている人が多い様です。その後は綺麗な虹が出ることもしばしば、(夜の虹はもっと幻想的で感動もの)そしてハワイの貿易風の風は肌に心地良く、やはり早起きして良かったと実感できます。

朝食は、パン、コーヒー、目玉焼きに日本から種を持参して作ったカスピ海ヨーグルトそこに朝市で買った新鮮なマンゴやパパイヤを加えラナイ(ベランダ)で頂きます。紺碧の絵の具を流した抜ける様な空、時々刻々とそして日毎に変わるグランデーションの海、海の色はどうして変わるのでしょう。時間のたつのも忘れ眺めていると、飛行機や客船が音もなく通り過ぎて行きます。時計の針は9時、階下に見える6階のプールが子供たちで混まないうちにひと泳ぎ、背泳で広く果てしない空を眺めていると日本でのストレスも消えてしまいそう。昼食後のひる寝中フト眼が覚めると11階の部屋の窓に人影が?それもはっきりと男性の顔、腰も抜けんばかり、それは窓拭きの清掃人だったのです。38階建てのビルをゴンドラに乗るでもなく、一階から屋上まで2本の命綱を登山のザイルの様に取り付け体を支えるというレスキュー隊顔負けの命がけの仕事です。日本では考えられないような光景でした。

午後はワイキキバニ안의すぐ傍にあるコミュニティセンターのフラダンス教室で男の先生によるフラの講習(1時間30分で400円位)に参加してみました。その他ウクレレ、英会話、ヨガ、ソーシャルダンス等があります。因みに夫は英会話に参加、国籍もレベルもまちまちで習う方も教える先生もチョッと大変そう

でしたが、和やかな雰囲気だったそうです。
6時頃早い夕食を済ませた後は持って来たパソコンで娘や友人とのメールのやり取り、その頃は未だスカイプ電話と言う便利なものを知りませんでした。高い電話回線使用になりますからメール文を下書きし出来たら回線を繋ぐ、他から届いたメールは回線を切って見っていました。日進月歩パソコンはどんどん進化し、メロンの糖度や新鮮度まで分かる様です。10年後は人の心の中まで覗かれてしまうのでは、ここまで来たら怖いと言うよりも人類の破滅ですね。テレビはNHKがニュースとドキュメンタリー等を3、4日同じものを繰り返し放映しています。最もこれは無料なので正規契約すればこの限りではありません。



ハワイの夜の街は財布を忘れても楽しめるイベントでいっぱい。フラショーやコンサート、映画、似顔絵書き、アーティストの持ち寄り作品の販売、屋台の食べ物屋有り、子供から大人まで楽しめます。多人種のるつぼである此処は小錦まがいの様な人も多ぜい居ますが、超スタイルの良い女性も多く朝ひるを問わずビキニの水着姿で街を闊歩しているのは見逃せません。まさに男性天国、一度は来島あれ。女性でさえその曲線美には眼を見張るばかり、でも何故か日本の若い女性観光客は心地良い風にあたることなく、殆んどがジーパン姿なのです。

一日の締めは読書です。本を読むと自然に眠れますので睡眠薬いらずです。人は眠りについてもハワイの灯は眠らずに、此れからが本番だとばかりに夜の街をこうこうと照らし続けその夜景は見事なものです。部屋の灯かり

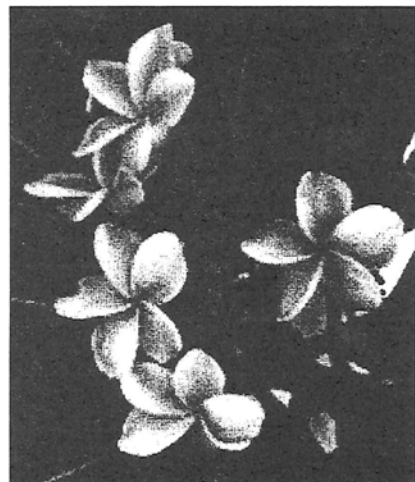


を消しても充分明るく、ふと夜中に眼が覚めてしまい、そっと窓のカーテン開けて夜景を眺めてしまう事もたびたびでした。

ハワイで、ロングステイする事は体の為には良い事ばかり、綺麗な空気と水、温暖な気温、心地良い風そして車イスの障害者には舗道との段差を無くしバスには専用リフトが備えられ、公衆トイレの入口にスロープが付けられ、至れり尽くせりと障害者にも好条件は揃っていますが、あまりにも平和すぎて長期滞在の場合、私達高齢者も目的意識を持って何かに挑戦していないと南洋ボケになって仕舞いそうな気がします。そう思いつつやはり体に優しいハワイにこれからも度々訪れ長生きしたいものです。

日本の暑さの厳しい8月はハワイでの住居費も高騰し気軽に行けませんので。

オークションで見つけたハワイの花ブルメリアの苗を植え、いつかは咲いてくれること期待しつつ水を上げています。



チェンマイで日本食を

チェンマイ支部 54番 山口 久美子

昨年夫が7月に定年退職をした機会に、夫の希望だった海外でのロングステイをすることにしました。候補地としては、皆さんが住みやすい場所の一つといわれていたチェンマイに在住することに決めました。留守宅のことなどいろいろな準備を終え、10月から始めることにしました。そしていよいよ10月6日に日本を出国しました。バンコクで2泊の後にチェンマイに向かいました。飛行機の中から見るチェンマイは、緑に包まれたこじんまりとした落ち着いた町並みに見えました。期待と不安の入り混じった中で、夫と二人でチェンマイ空港に降り立ちました。早速ホテルに向かいチェンマイでの生活を始めました。治安のよさや物価の安さは、皆さんの言われていた通りでした。なんとなく住めるのではと思い、ホテルでの生活を1週間で終え、ヒルサイド3のコンドミニウムに入居しました。

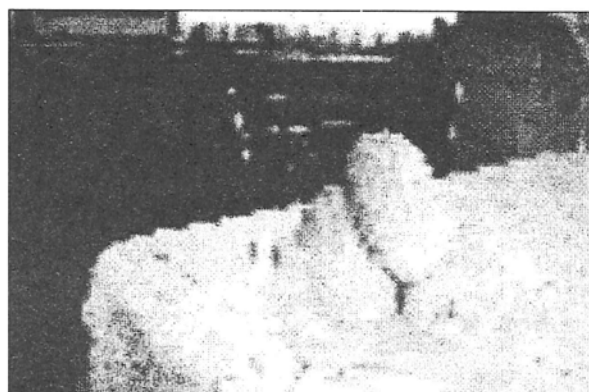
毎日の生活はタイ語を習ったり、南の会の会員の皆さんとの出会いなどもあり、新しい環境に少しずつ適応してゆきました。ただひとつ適応しなかったのがタイの食事でした。特に夫は辛いものはタイ人にも負けないと自負していたのですが、臭いには全くだめでした。

パクチーはもちろん、ナンプラー、香草もだめでした。挙句の果てには、洗濯屋で洗濯した石鹸もくさいと言う始末でした。タイの香り米やトムヤムクンも全くだめでした。それ以後買い物に行っても鼻を近づけて臭いをかぐといった日々が続きました。そんなこともあって、台所付のコンドミニウムに入居したのですが、入居してから夜は自宅で日本食作りです。

調味料などもタイで売られているもので臭いのないものや、少ないものを探して作ってい

ます。こちらに来る前は家事から解放してくれると言っていたのですが、仕方ありませんでした。

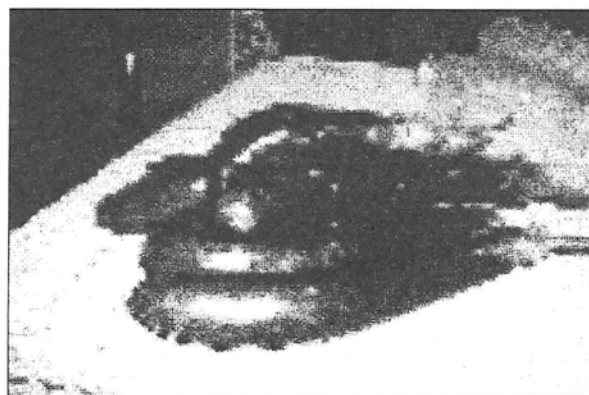
朝はパン食、昼は幸いにして、近くのタイ食堂が臭いが少なく、夫も食べることができました。1食20~30パーツの食事です。そして夜は家庭料理を作っています。最初はどんなものができるかと思案の日々でしたが、探せばあるのですね、日本の食材と同じよう



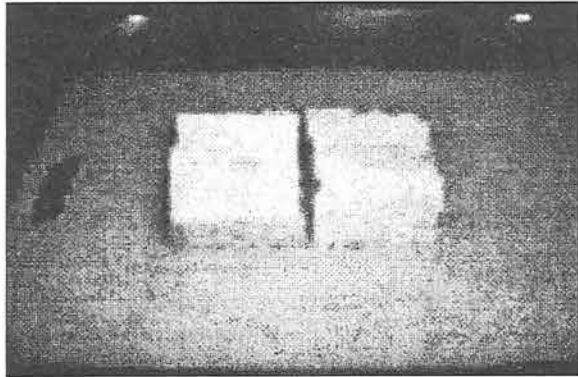
なものが。

野菜は

日本で見かけるおくら、きぬさや、白菜、ほうれん草、なのはな、きのこ類、生姜、たけのこなどがあります。もちろん、ジャガイモやキャベツなどもあります。とうもろこしは甘くておいしいです。おかげで煮物、お浸し、サラダと日本の料理と変わらないおかずが作れるようになりました。値段も1束5パーツから20パーツぐらいで買えます。ほとん



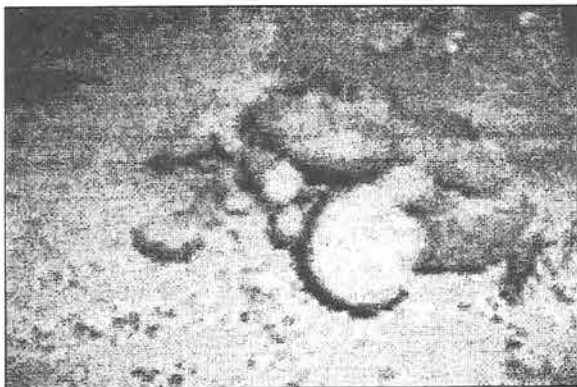
どの食材が1キロ単位で表示されてあるので、必要な量では安くなります。さらに金時豆、あずき、大豆などもあり煮豆も作ることができます。



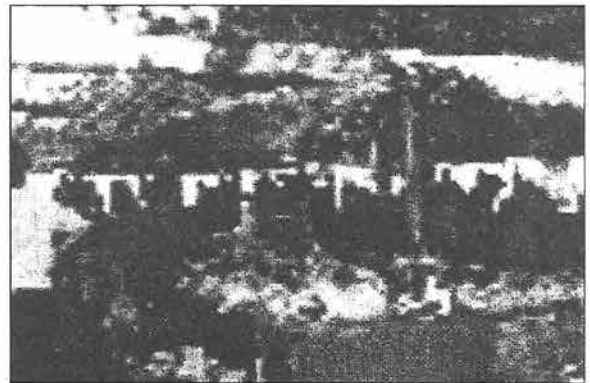
こちらでは豆腐も作っていて、厚揚げ、うす揚げもあります。もちろんこんにやくもあります。豆腐でマーボー豆腐や揚げ出し豆腐などを作っています。もっと驚いたのはチェンライではラッキョ漬けや納豆を作っている方がいました。日本食に欠かせない干しいたけも、大分のどんこにも負けないくらい立派なものが、1キロ300パーツで購入しました。ほかにも蒸し暑いタイでは、中国製のソーメンがあり冷麦に近いですが、安くねぎとわさびで純日本風を味わっています。

調味料は

タイで作られたyamamori製の「日本しょうゆ」を使っています。味はほとんど変わらず、値段も500mlで64パーツとお手ごろです。こんな風にして順調に夕食のメニューが少しずつ増えていきました。ところが一つだけ不満がありました。それは新鮮な魚がほとんどみかけることなく、お刺身や海の魚が食べられないということでした。



スーパーなどで売っているのは、にごった目をしていてただけで、食べる気持ちにはなりませんでした。誰かが「チェンマイが海に近ければ最高」と言われた言葉が身にしみました。そんな日々が続いて魚が恋しかったある日、知人に招待され何うとお料理にお刺身が出されていました。いただくと新鮮でしたし、タイに来てから初めてでした。早速売っている場所を教えてくださいました。チェンマイは海に遠く、前日に上がった魚を一晩かけて、保冷トラックで運んでくるということでした。そのために水曜日と土曜日の販売と聞きました。それから数日後、数名の方たちとソンテウをチャーターして出かけました。ソンテウにのって30分あまり、閑静な住宅街の中に店はありました。車から降りると、かすかに匂う塩の香りがなんとなくうれしくなり、早速店に入り魚の品定めです。



たい、いか、しまあじ、えび等海の魚が並んでいました。刺身用としては、たい、しまあじ、あじ、マグロ（日本みたいに大きくはなく50センチくらい）甲いか、鯖などです。

煮、焼き魚用としてカレイ、きす、とびうおに似た魚、いい蛸、たこ、えび、かに、しゃこ、はまぐり、などがありました。

日本に比べれば数は少ないですが、満足のいくものでした。価格も一キロ100パーツくらいから200パーツくらいでした。えびやかには少し高いですが、必要な数だけ買えるので決して高くありません。

何種類か購入して、その日はたい、甲いか、あじでお刺身をしました、久しぶりの刺身は夫も満足をしていました。きすやえびはフラ

イにさせていただきました。
それからは月に2, 3度買いに行っています。
レポートリーも増え、朝はパン食、昼はタイ食、夕は日本食とバラエティーな食生活を楽しんでいます。

もちろんタイに来ればタイの食事を楽しんでいただけるのが一番良いと思いますが、できないときはタイの食材でいかにおいしくいただけるかということも、必要だと感じました。そしてそれができることを知りました。タイで購入できないものを日本から持ってくるだけで、よりおいしくいただきました。こちらに来て日本食を味わえることによって、食の不満が少なくなり心にもゆとりができました。

チェンマイに来られてタイ料理に飽きたときは、家庭料理でよければ、いつでもお寄りください。手料理でお待ちしています。
チェンマイでお会いできるのを楽しみにしています。

最後にチェンマイでの主な食材の値段をお知らせします。日本からの輸入品は約3倍します。乳製品も高価です。価格は変動しますので、購入時の目安にしてください。

食材の価格

米 (ジャポニカ米)	5キロ	250 B	野菜 玉ねぎ	1キロ	24
食パン (角食)	一本	36	ジャガイモ	1キロ	45
牛乳 [明治]	900 ml	35	白菜	1キロ	40
魚 きす	1キロ	130	キャベツ	1キロ	24
まぐろ (40~50cm)	1キロ	130	ごぼう	1キロ	145
はまぐり	1キロ	45	にんじん	1キロ	49
甲いか	1キロ	190	とうもろこし	3本	20
かにむきみ	1キロ	55	オクラ	10本	5
えび	1キロ	280~420	なす	5~6本	10
あじ	1キロ	90	きのこ	1袋	10
しまあじ	1キロ	170	薬味ねぎ	1束	12
とりもも肉	1キロ	55	生姜	1キロ	97
肉 豚トンカツ用	1キロ	95	とうふ	一丁	15
肩ロース	1キロ	120	薄、厚揚げ	1袋	17
ひき肉	1キロ	115	こんにやく	1袋	26
豚もも肉	1キロ	120	マヨネーズ (Q,Pタイ製)	500 g	117
			ケチャップ	500 g	25
卵	10個	30	砂糖 (グラニュー糖)	1キロ	15
ヤクルト	1本	6	塩	1キロ	5
中国製ソーメン	200 g	17	サラダ油	1000ml	53
スパゲッティー	400 g	40	しょうゆ (やまもり製)	500ml	64

或るモスレムのエリート青年の話

関東支部 427番 小川 政子

これは私の22, 3才の頃の思い出である。当時私は新生満州国の首都、新京（現長春）に住み、駅前の観光協会に務めていた。仕事の関係上、街の様子を知りたいので暇を見ては歩いていた。

中国人街にマホメット教（当時はイスラムと呼ばない）の清真寺がある。寺の前に清める為の水道の蛇口が十箇所以上も並び、信者は顔、手足を、中には石鹸で洗う人もいた。広い出入口から覗くと中は三十畳位、壁は白く何も無い。突き当りに黒い模様が画かれているだけ。壁にそった出入口に座って喋る人達、中央で平伏して祈る人、前のコンクリート広場にある木のベンチで話しこんでる人、皆浅い帽子をかぶった男計り。仕事上の興味から父の頼み、二人で清真寺を訪れることになった。

父は50才台、鼻の下には、チャンと髭があった。一種の威厳があり、恰幅も良く、中国語には堪能だったので、何もわからなかった私は、通訳と護衛を兼ねて頼んだのである。男性優位のモスクに若い女性が尋ねても、相手にされるだろうか。適当にあしらわれる程度だと思う。当時の私は時流に乗った完全な”軍国乙女”であり、外国の宗教に関心は無く、新京神社や忠霊塔への参拝を以って満足していたのである。

父は受付で来訪の意をつけると、やがて奥へ通されお茶が出た。少し待つと、現れた男性執事と見えた色白の若い男に私は驚いてしまった。マホメット寺の幹部である筈なのに、顔はキレイに剃ってあり、細いしなやかな身体を上等な中国服で包んだ彼の美しさ。これ程上品な美男を私は生まれて始めて見たのだった。

話し始めた流暢な日本語は標準語で上手なこと。アラー、マホメット、メッカなど、今更書かなくても皆様ご存じと思う。私の場合、

旅行者の中には無茶なのが居て、清真寺に歓喜仏があると期待する者が出て、私は何一つハッキリ答えられなかった。私を含めて当時のマホメット教への理解とは、そんなものだったのである。せめて基礎なりと知りたいて考えての訪問だったが、彼は私の熱心な態度に気が乗ったのか、話の後、イスラム教とキリスト教との歴史について話をしてくれた。おだやかな話し方ではあったが、心の中の憎しみは隠し様も無く、キリスト教との関係は陰悪であり、思い切った言葉を遣って説明してくれたのである。当時の日本は神道で、キリスト教は迫害を受けていた安心感かも知れない。別れる間に彼は、「マホメット教とキリスト教は十字軍の昔から戦って来ました。これから先、子孫の代まで何百年かかってもキリスト教と戦い、マホメット教は必ず勝ちます。」と静かにハッキリと断言したのである。十字軍は千年も昔の話で、今更そんなこと言ったって・・・幻想かと、その時は考えたが、広い、ひろいイスラム圏の中、長春の、ミナレット一本無いモスクで聞く断固とした言葉に私は大きなショックを受けた。彼にとっては、千年前も昨日の事も、重さは同じ現実であったのだ。

あの頃日本は国際連盟を脱退し、独、伊と共に戦争に進んでいた。米、英とは同じキリスト教同志の争いなので、イスラムは見物していれば別に問題は無かったであろう。

しかし最近イスラエルの独立（殊に第三次中東戦争後）アフガニスタン、イラクへの米、英、オランダその他（いずれもキリスト教）が進攻、駐留するに及んで、彼等にイスラム教とキリスト教の戦いの歴史が思い出されたのではないか。長春の小さなモスクに迄キリスト教を敵とする（彼はハッキリ敵と言った）徹底した思想がしみこんでいる姿に、宗教の

怖さと組織の強さに恐れを感じてしまった。帰り道、父と私は一言も口を利かなかつた。寺は優遇してくれ、時間をかけて充分説明して貰えたのは、男である父が一緒に来てくれたこと。男の力の大きさを知り、父の愛情に心から感謝すると共に、あまり大きな話に私の頭は一杯になっていた。

先般イギリスで百人余りの犠牲者が出た地下鉄テロの犯人は、難民キャンプで育ち、イギ

リス国籍を持つ。イギリスは自分の国となり、ふるさとにもなった筈なのに事件を起こしている。昔、あの清真寺で話を聞いてから約65年、イスラム教徒の心の底辺に、「必ずキリスト教に勝つ。」との信念が、連綿と今も受けつがれて来ているのだろうか。

清真寺の幹部が口にすべきでない事を、何故私達に告げたのか、今でも不思議でならない。

以上

スリランカから日本を觀ればー

関東支部 428番 岩瀬 光子

ある正月、コロンボの老ギリシャ哲学者ご夫妻から、ディナーのご招待をうけた事がありました。食事の出来上がるまでご主人と私は、広い応接間で二人だけで待つことになったのです。彼は新聞を見ておられました。スポーツ欄の大きな写真を指差しながら、次のように仰言いました。「ミスいわせ、これをご覧下さい。柔道の山下選手がチャンピオンを取り返した写真ですよ。柔道王国であった筈の日本は、チャンピオンを一時オランダに奪われていましたね。しかし今年の国際試合で山下がやっとそれを取り戻してくれて、非常に嬉しいです」。

「その昔、日本は日露戦争で白人の大国”ロシア”に勝ちました。第二次世界大戦では再び白人の国々”英米”と戦って負けた。負けはしたが、その善戦振りに我々は陰ながら声援を送っていたのです。わが国は約5世紀にわたってポルトガル、オランダ、イギリスの支配下にあり、民族の誇りと自主独立の精神の殆どを失ってしまいました。またそうせねば生きてこれなかったという悲しい歴史があります。その白人に有色人種の日本人は敢然と立ち向かった。我々の出来なかつた事をやってくれたのですから、日本人の強い精神力に深い敬意を払っています。」と仰言いました。

そこで私は、「日本人は決して好戦的な民族ではなく、本質は平和を愛する国民なのです」と弁

解したところ、彼は居ずまいを正して次のように仰言いました。「敗戦後の日本には世界一立派な平和憲法が出来、見事に平和国家に変身しましたね。戦うエネルギーの凡てを平和産業に転化し、彼らの英知と努力はドイツの光学器械、スイスの時計、アメリカの電気製品や自動車を駆逐した。その健闘ぶりに我々は日本人の逞しい根性に再び眼を見張る思いがします」。私はうろたえ、「お褒め頂き有り難いですが、資源に乏しい日本は今後エネルギー問題など現実には厳しく、将来は決して明るくないのが心配です。」と申しました。彼は「賢明な日本の人々はどの様なハードルも飛び越せるでしょう。ミスいわせ、心配しなくても大丈夫、大丈夫。」と優しく微笑んで下さいました。

これは26年前(1979年)のことで日本とスリランカが、現在ほど交流のなかつた時代の話です。

彼の日本についての強い関心、広い知識と深い洞察力に較べ、私はスリランカについて如何ほどのことを知っているか? 彼からの啓発を受けて以来、私のスリランカ通いが始まりました。

以上



龍雷の国ブータンから (その2)

ブータン在住 723番 山本 恵美子

早いものでJICA随伴家族としてブータンに住んで、9ヶ月が経過しようとしています。日本の沖縄とはほぼ同緯度に有ります居住地の首都テンブーは標高2400mの高地で、空気が薄い為、年2回の国外での短期間の静養が認められています。

5月に健康休暇として日本に一時帰国し、十分とまではいきませんが多少の充電と、バンコクで食材を仕入てきました。その際日本からも60kgの食料を携行しその後は、気持ちも楽になり献立もすぐに決まる様になりました。

その後のブータンでの体験を紹介致します。

ーブータンではミーハーになっていますー

王国に来たのですから、やはり写真だけでなく本物の国王を見たいと思うのは私だけでしょうか？ブータンではVIPが移動する時は、先頭護衛車がライトの点滅又は、サイレンを鳴らしてロイヤルで有ることを知らせます。周りの車、歩いている人はその場に止りひざに頭が付くぐらい下げて通り過ぎ去るのを待つらしいのですが、外国人には義務づけられていないので、2台目のランドクルーザの助手席にすぐ目をやり誰で有るかを確認します。国王には3台の護衛車が付きますが王女には3台目の護衛車がないと言う事が最近分かりました。外国人の特権でしっかりと国王と王女のお顔を拝見致しました。しかしブータンでは一般人が地位の高い人と面会する場合には、必ず守るべきマナーがある様です。

ーブータンの夏ー

ブータンは6、7、8月は雨期ですが今年は、異常気象と言う事で余り雨は降らず、数日間は30度迄気温が上がりました。直射日光が強いため、外では頭が熱くなるほどですが、家の中は22～23度と涼しく、日本の熱帯夜など想像できません。8月に入ってからは待望の雨が降っています。夜激しい雨が降っていても朝には止んでいます。この頃になると松茸が出て来て、日本では考えられない値段ですが味の方もこれが松茸かと思う程

で、とても日本の方々には送れないものでした。それには、本当にかっかりしてしまいました。夏に日本人を悩ませているのは、蚤、ダニ、サウンドフライの出現です。この時期に暖かい地方の山に行くと蛭が凄いです。私達はまだ被害に合っておりませんが、殆どの人は腕、足に無数のさされた跡があります。

ーブータン人は英語が上手いー

ブータンの教育は英語でなされ英語、国語の授業があります。小学校には4歳半から入学出来る小さな子がリュックを背負い登校しています。その子に何歳と尋ねて見るのですが英語は通じません、なのに高校生ともなると非常に上手で、多分、青年協力隊、シニアボランティアの方々も苦々しく思っているのではないのでしょうか？小学校2年と3年生の英語のワークブックを見せて貰いましたが、その中で地理、道徳が身につく様になっていてレベルの高いものでした。本当に小学校用なのと念を押しした程です。高校では毎日の朝礼で3人づつ何かを発表しています。何を話しているのか聞き取りたいのですが、私の英語力ではかないません。ちなみに、セカンダリースクールとハイスクールの裏に我が家が有り、バルコニーからハイスクールの校庭が見えます。勿論ブータンでも学校に行っていない人は英語を話せません。日本でも、英語教育を考え直す時期ではないのかな？

ーブータン人の食感覚ー

夫の職場の人たち7人を招待してバーベキューと日本料理を出してみました。先輩に聞いてブータン人も好きと言う物を出してみました。余り食べて貰えませんでした。アメリカ人もピザを出したら一つも手をつけて貰えなかったそうで、奥さんがショックを受けたと言うことを聞きました。でも首都テンブーにもピザ屋さんが1軒有り種類も豊富、味も日本と変わらず日本の奥さん達の人気ナンバーワンの店ですが、ブータン人は余り利用していないようです。

ブータン人も海外に出たことの有る人は好奇心が有り、比較的なんでも食べるそうです。夫が東の方へ出張する事になり私もコックとして同行致しました。夫は、全くブータン料理が食べられず出張から戻ると痩せて来るので、食材、食器等持ち込みました。ブータン人の若者2人との1週間の生活でしたが、如何にブータン人がチリ（唐辛子）料理が好きなのか、毎日三度同じものを食べて飽きないのか驚くばかりでした。ランチの時はレストランを利用しましたが2種類しか選択肢がないのです。一つは、豚の脂身の角煮^{パクシャ}と牛肉の干した煮物^{シャカム}で、私達はちょっと手ができません。これでは、夫も痩せて帰るのも無理はないと納得しました。念のため地方ではこうですがテンプーのレストラン、ホテルでは沢山のメニューがありますよ。

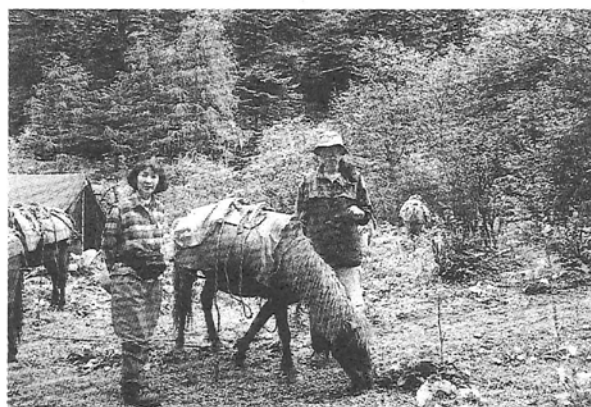
—ブータンのお葬式—

ハウスオーナーの弟さんが亡くなりお葬式に参列することになりました。ブータンでは輪廻転生を信じている為か42歳の仏に対して泣いている人は誰もいません。外のテントに棺を置き、傍に小さな祭壇が有り真ん中に缶が置いて有り、そこにお賽銭程度のお香典を入れます。地位の高い人だけは封筒にお香典を入れ、棺に白いマフラー程の布を掛けてお香典をいれて終わりです。立派な仏間があるのに全く別個にお経を上げて、お参りした人も合掌するでもなく、喪服もない事に驚きました。翌々日は火葬する日です、直接火葬場に行き同じ事をします。ショックだったのは、目の前で野焼きの様な形で茶毘に付す事です。私達日本人にはとても考えられない事ですが、フィジーでも同じだったと聞きました。死亡してから6日目の夜外が騒がしいので覗いてみましたら、仮面を付けた数人の人が松明を持って奇声を上げ、オーナーの家の周りと当事者の家の周りを回り仏間に入って行きました。多分厄払いなのでしょう、文化の違いですね。

—トレッキング、ブルーポピー見ました—

ブータンの国花であるブルーポピーを見る

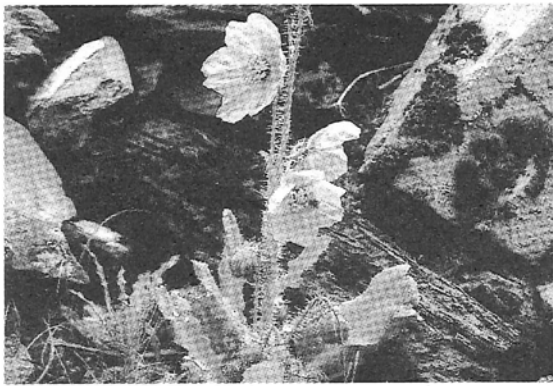
為に、雨期ではありますが、7月16日～24日に8泊9日のトレッキングを決行致しました。こちらでは、旅行会社にトレッキングを頼むとガイド、コック、馬が付き私達はワンデイパック1つで歩けばよいのです。3組の夫婦とガイド1、コック1、馬方2、アシスタント4名、馬12頭での大名行列です。このトレッキングを日本人は大名行列と呼んでいます。客1名、1日約8000円です（ちなみに、ブータン人公務員の初任給は2万円程度）。



ジョモラリ山（キャンプ地標高4100m）トレッキング

一番の問題は高山病です。ブルーポピーを見る為には4200m迄登らなければなりません。私は日本から酸素スプレー1本、夫は高山病の薬3種類購入し備えました。又、同行者とは誰かが調子悪くなったらその時点で引き返す事を申し合わせました。と言うのも同じコースで4月にアメリカ人が高山病で死亡しているからです。5日間は雨に降られ、ハードな日は20km、9時間歩きました。岩だらけの道や橋のない川を渡るのに、ガイドさんが石を並べそこを歩き、気の抜けない所も何箇所かありましたが、周りのお花畑の可憐な高山植物の花がいっぱい咲いて、疲れを癒してくれました。高山植物の花の種類は30種以上で一面に咲き乱れ、又それがずっと続き、日本の山では見ることは出来ないと思います。ペースがゆっくりだったので全員無事最終キャンプ地4100mまでたどり着く事が出来ました。

念願のブルーポピーを見に行く日は雨も降ら



ブータン国花 ブルーポピー

ず、150m登ったガレ場にブルーポピー発見！皆の顔もほころび歓声を上げシャッター切り、沢山の可憐で神々しいブルーポピーを見る事が出来ました。脳裏にしっかりと焼き

付けました。ちなみに、夫は標高4700m迄登はんしました。

—終わりに—

8月末にはペナン行き、ペナンの方々とお会いするのを楽しみにしています。

9月にはテンプー最大のお祭りツエチュが3日間有り、ウォーキング、ヨガ、ゴルフ、英会話と共に、ブータンの移り変わりを楽しみたいと思っています。又、外国で暮らして居ると人の親切が身にしみます。

南国暮らしの会の方々、バンコクのスーパーの方、ブータンの方々、本当に有難うございます。そして、ブータンへ行くよとメール下さってる方どうぞお越してください。

お待ちしております！！

メールリンクより一部抜粋 (バンコク支部 村上 安様)

No.423村上です。ロングステイに欠かせない情報を2つばかり紹介します。

バンコクテレビ事情：海外生活でどうしても物足りないのは、日本のテレビがNHKのニュースとつまらないドラマぐらいしか見ることが出来ないからではないでしょうか？それを一挙に解消してくれるテレビが登場しました。なんと、日本の民放5局(4, 6, 8, 10, 12)がリアルタイムで視聴できるようになりました。バンコクが世界初だそうです。

ADSL回線を利用した「WEBテレビ」なるものです。要するに夕方の5時からビールを飲みながらプロ野球放送などを見ることが出来るということです。これって凄いいと思いませんか？これによって日本に居る時と何も変わらない生活が可能になりました。寒さの無い事と生活費の安い分お得じゃないでしょうか？

気になる費用はテレビに繋ぐPCルーター代10,000B(デポジットなので解約時返還ただし1年以上の契約)ADSLモデム代月1,150B(2.5MB)、設置代1,000B、月2,500Bのサービス料です。今、妻は12チャンネルの洋画を見てます。

もう一つは、団塊の世代の定年退職に伴って益々増えるであろう海外ロングステイ者のサポート機関として「ロングステイ・タイ暮らしの会」を7月30日に発足させました。タイでロングステイ仲間を増やし、ともに生きがいを広げる、ロングステイを始める仲間を支援し、ボランティア活動を通し社会に貢献することが設立の目的です。

暮らしの相談分科会：「医療、保険、ビザ、住居、法律、人材紹介などの諸問題の相談」。語学分科会：「タイ語教室、日本語教室の開催」タイ人も多数参加してます。

情報分科会：「会員が気軽に集えるサロン会、飲み会」月1回開催、南の会の会員の参加も大歓迎です。

趣味の分科会：「ゴルフ、テニス、釣り、料理、囲碁、生花、ダンス、旅行」ゴルフはコンペが月1回、プライベートで週1、2回行います。

パソコン分科会：「パソコン教室の開催」など。そして、月例会を「ホテル・グランドタワーイン」にて毎月第4土曜日午後6時から行います。日本食ビュッフェ1人150Bです。30日の設立総会で食しましたが、素晴らしい内容に一同驚愕でした。どこかの会のタイのぶっ掛け飯、会員250B、ゲスト350Bとは雲泥の差でした。

南の会と出会って

東海支部 737番 山口 美奈子

東海支部の総務の山田氏から、会報秋季号の原稿依頼メールを受け取った。「女性特集」で山口さんがぴったりとのことでした。何がぴったり？カカア天下特集なの？と勝手に解釈してお受けすることにした。

南の会に入会させていただいて、定例会は主婦の私としては、数少ない異性に接する機会なので心うきうき、時にはスキップをして会場に向く。ヨンさまを数十年早送りした感じの素敵な紳士方にお会いできるのが楽しみだ。東海支部は支部長さんを始めとして男前揃いなので定例会に向かう時もつい鼻歌が出てしまう。さて冗談はこれくらいにして、夫に元チェ・ジウにいっぱい会えると誘っても中々参加したがない。夫は一度だけ会にデビューしたが、下見旅行に行こうにも中小企業に籍を置く身では休みを取ることが不可能なので、本人も諦めて私に任せてくれている。

海外には若い頃から興味があった。カナダへの移住相談会にも出た、31年前に英国での1ヶ月のホームステイの体験をきっかけに、我が家で3度のホームステイ、受け入れをした。私の生まれ故郷が昔「アメリカ村」と呼ばれたこともあるそうで、祖父がカナダに住んでいたことや、親戚がアメリカに数人在米していたので、子供の頃からモダンなアメリカの洋服を着て育った。馬子にも衣装で田舎の黒い顔をしたおてんば娘をそこそこカバーしてくれた。おてんば娘は長じてからは海外一人旅も平気なたくましい大和撫子？へと成長した。台湾以外はアジアとは縁のない国ばかり訪ね、アジアを身近に感じたのはやはりこの南の会と出会ってからだ。

実際に退職をされて時間をどのようにでも設計できる方、私のように自身は退職したが、夫がまだまだ定年まで時間があるが、歳相応に体の不都合を抱える夫には早くお疲れ様と

リタイアさせてあげたい。でもそれまでにクリアしなければならない老親問題、子供の事などがあるが、悩んでもなるようにしかならないと精神衛生の為に運命任せにしようと思う。53歳の夫には「早期退職」の人参をぶら下げつつもう少し走ってもらわねばならない。早期、早期と念仏を唱えながら気が付いたら定年だった、と言う可能性もありだ。そもそもこの会と出会った経緯は偶然だった。TVでクアラルンプールにお住まいの末支部長ご夫妻の紹介を観て、こんな生き方があるのだと新鮮な驚きだった。将来に暗雲たちこめる一組の夫婦に、そう光が差し込んできた感じがした。それ以後も東京TVで放映された海外ロングスティビデオを手に入れ夫と共に観て気分が盛り上がった。隙間風が吹き始めた夫婦の接着剤？二人の間に横たわる深くて暗い川の中の渡し舟を得たような感じだった。目標に向かって走りだした、そしてインターネットで見つけたペナン島の木村氏の煌めくような引退生活、HPを拝見していてよだれが止まらない。奥様は18歳も若いなんて、これは犯罪だ（笑）私だってできるものならこの人生、リセットしてどこかの馬の骨は嫌だけど、素性の知れたフィーリングの合う男性と、無人島ではいやだけどどこか南で暮らせたらと妄想してしまう。HPで拝見して木村氏にメールを送らせていただいた。そしてこの南の会を教えていただいて電光石火で入会手続きを取った。

そういえば若い「貴方が命」と思えたあのころ、夫婦はセットで行動するべきものと固く信じていた。海外旅行は同じシーンを脳裏に焼き付けて、老後はお茶を飲みながらその思い出話をするの、よけいな説明はいらない、同じ光景を共有して反芻すればそのワンシーンのコストは安いものだと話していたのだ。ああそれなのに何が私を変えたのよ。「許す

こと」「愛すること」が夫婦の目的など心に決心しても、それとは共存できない「非難」や「愚痴」エゴがモースピードでやってくる。あの美しい夫婦愛は何処に行ってしまったの。時間が流れ何時しか、二度と夫婦で海外旅行は行きたくないと心に刻んでからはや数十年。でも共通の目的を持つのは素敵なこと、今は夫婦で一応同じ方向を向いて歩いている。喧嘩はしなくなった、何の小言を言われようが「そんなに褒められるとてれちゃう」と私が返すので、呆れて後の言葉が続かないようだ。海外で過ごすにも健康が大切、器械体操をはじめ運動神経は五つ星だったのは遥か古の話。今達者なのは口だけ？と気付いた私。夫から「朝起きて鳥の鳴かない日があっても、あなたの今日はここが痛いあそこが痛いと言わない日がない」と・・・そんなに褒められては照れますな、ほんとに・・・。ダンプカーに追突され鞭打ち症にもなった、去年は長くも無い足が階段でもつれ、つんのめって落ちたこともある、共働きで走ってきた満身創痕の身体、こんなことではいけない、肉体改造を本気でやらねばと決心した。

米国式のカイロプラクティック院の荒療治で、首も背骨もどこもかもボッキボキに鳴らしてもらった（癖になりそうです）。それから長年の硬直した錆を取るために熱心にリハビリ体操をやり、今では毎日プールで、水泳、水中エアロビクスなど毎日体力づくりに努めている。頭の錆もひどいもの、脳の若返りのためにとっても効果がるという速聴をやっている。4倍速で聴くのだが慣れると聞き取れるものである。この速聴CDと英会話CDが運転中の私のBGMとなっている。ゴマがいいと知ればそれに飛びつき、カスピ海ヨーグルト、蘇生水だの「健康」をキーワードに日が暮れていく。我が家の労働大臣、国土交通大臣は夫で、それ以外の防衛も大蔵金融財政、厚生、農林水産、環境、法務、総務、文部科学は妻。手近なものが眼鏡無しでは見えない妻に、遠くが見えない夫。私はドライブの時は遠くの交通標識を読み取る係り。買い物ではここなんて書いてある？と訊く私、夫婦で補い合っああ美しきかなこの光景。

マレーシア旅行

下見旅行では昨年マレーシアのペナンとキャメロンハイランド、ランカウイ島に11日間従姉妹と個人旅行をしてきた。その際の出来事から



★ クアラルンプールからペナンへの乗り換え便がスコールの為遅れた。ペナンで受け取った荷物は雨で中まで濡れていた。殆どの物はビニールで包んであったので助かったが、そうでないものは濡れていた。何故？

★ ペナンの空港からバツーフイリングのホテルまでタクシーを使った。順番で乗ったタクシーの車内は猛烈な排ガスの臭さでハンカチでは駄目で、濡れオシボリで鼻と口を覆っていたが呼吸困難で、まるでゆっくりと自殺をしているようなもの、50分後ホテルに着くころにはこと切れているのではないかと真剣に思った。それにしても毎日この環境で運転手が生きているのが不思議だ（相当古いタクシーは避けた方がいいかも）

★ ホテルに着いた。鍵をもらって入った部屋は道路側でうるさくて暗い、5泊もするのでフロントに戻り若いお兄さんに海側の部屋にチェンジを申し出たが、一杯だという。

「貴方って本当にナイスガイで背も高くていい男だわね」と言うので照れている、フロント内の隣にいる同僚のお姉さまが現地語で「煽てられていい気になってんじゃないわよ」と注意をしている風である。すかさずそのお姉さまに「誰かに似ていると思っていたら、そう日本の女優さんにそっくりよ」と従姉妹にも同意を求め「素敵！本当にきれいね！！」と言うとまんざらでもないようで褒められて怒る人はいないので、一気に場はいい雰囲気

になった。渡された鍵を受け取り、「まだ決めた訳じゃないから、部屋を見て気に入らなければ又戻ってくるからね」と言う。「貴女は絶対に戻ってこない、なぜならその部屋はこのホテルの中の最高のオーシャンビューの部屋だから」との事、弧状形のホテルの最上階のど真ん中で全く彼の言ったとおりで、満足のいくものであった。私は本質的に冗談は言っても絶対と言っていいほどお世辞の言えない人間だ、でも本当にそう思ったことは言えるので、フロントのお姉さま、お兄様にはお世辞ではなく冗談を言ったことになる。言われた方はハッピーになり、言った方も場が盛り上がり結果としてオーライである。日本のホテルではそんなことは言えないが・

★ キャメロンまではタクシーを利用した。これが山道で20～25キロ程しかスピードが出ずに猛烈臭い排ガスを出し、(前からも出てくので窓が開けられない)音は異常だから運転手に止まるように言っても(I do best)と答え、以前からなにやら唱えている声が一段と大きく聞こえてきた。「南無妙法蓮華經、南無妙法蓮華經・」しかし車は今にも止まりそうな速度のまま、と、突然車の前のボンネットから煙が猛烈に噴出し、ワーン、ワーン車から大きな警報音が鳴り響いた。座席で宴もたけなわ状態の私達は荷物をあわてて抱えて飛び出し、トランクを開けて!と叫んでトランクからも荷物を何度も運び出した。痛いはず手の事も忘れて火事場の馬鹿力を発揮した。運転手は消火器で消火活動、結局7時間半後(バスで行くより遅く)ホテルに到着、その間いろいろあったが長くなるので省略、涙が出るほど大笑いしながら面白がってこの珍事を過ごした。

★ バツーフリンギの夜店では日によって答える値段が違う。欲しそうな顔で訊くと高く、時間つぶしの感じで見ていると言いついてきてささやく値段は安い。「この店ではいくら」の聞き方をすると安かったりする。ラブ人の値切り方は半端ではない、えげつない程で店主に同情を覚えた。夜店より同じもの(衣類)が格段に安かったのはランカウイ島だった。

★ ランカウイ島への船のクーラーは半端ではない。貴方の想像の2倍は寒いです。ガイド本で知ってはいたが甘かった。まるで鮮魚か新鮮野菜を運ぶ感覚で島へ運んでくれる。ここは何処?冷蔵庫の中?の世界でたまたま甲板に出れば船員が「アローアロー」と言いながら両手を広げ家畜追いの要領で又船内に無理やり誘ってくれる。頭はガンガン、身はブルブル従姉妹は天然の脂肪と云う名の保温材料+羽織物だったが、到底太刀打ちできなかった。適温とか調節の言葉が彼らの辞書には無いのかもしれない・スイッチをONかOFFか非常にシンプルに解かりやすく?できているのだと思った。(晴れていない日は特に船内は寒いので重装備をお勧めします)

南の会は人生学校の先輩たちが、バラエティで積極的な生き方を紹介して下さり、発信して下さる情報にも感謝している。時の流れは年々加速度を増してくるよう感じている。この間まで中年予備軍だと思っていたら、



中年正規軍どころか気が付けば堂々の実年正規軍の仲間入りをしている。シルバー正規軍が手招きして待ち構えているような気がする。夫はゴルフができるなら妻の選んだ地で良いようである、日本では年に数えるほど、しかも社用接待ゴルフが主なので、気を使わずに一度はもう嫌になるほどゴルフをやらせてあげたい。野球、卓球、水泳、元来運動センスがいいのでゴルフももっと上達しそうだと思ふ私、どこに居ても自称綾小路マシュマロの妻が傍にいれば退屈はしないだろう。私は一人でどこに居ようと「退屈」などしたくてもできない性質である。瞑想が好きで「私」はどこから来てどこに行くのか?時空

や宇宙の不思議、三次元を超えた話に興味がある。勿論こういった精神世界（宗教が絡まない）に興味を持つ人間の人口分布はまばらである。夫婦でも「貴方の知らない世界」である。

HPからの情報

個人のHPが充実してきている昨今は、現地に住んでいる方の詳細な情報が得られるようになった。生活に根ざした詳細な情報にちょっと夢が覚めるのも事実だ。正しくは「盗難アジア」と書く・・なるほど。賞味期限は何の意味もない・・日本人の初心な胃腸はどう鍛えていけばよいのだろうか、現地に住んでから体を張ってやわな胃腸に体験でヤキを入れるとするか？まずは準備運動で抗菌だのご清潔主義から縁を切り、0-157にも耐えうる胃腸を作り上げねば（賞味期限に目くじらを立てないところから入門してみようかな）。信号は青が「どンドン行け」黄色は「行ってよし」赤は「注意して行け」ただし交差点にポリスマンが居るときは「止まれ」。道路交通法は運転手のそれぞれのオリジナルの交通法がある、高速道路は逆走すると日本ではニュースになるが、そんなのはニュースにはならないとか、サイドミラーは無しで走っても問題はない、私も実際目にしたしそう説明を受けた、ウインカーはそもそも出すものではなく、気分にもよるが仕舞っておくものらしい。

「接触事故」なんて日本語があるが、接触程度では「事故」とは言わない、「OKノープロブレム」とはぶつけた方が言う、間違い電話は掛けた方が「ネバーマインド！」・・・ムムムこの丈夫な神経に付いていけるだろうか・・鍛えなければならないのは胃腸だけでなく神経の方が重要かもしれない。「正しいぼられ方」も参考になった。状況により命をかけてまで抗議をしてはならない・・

フムフム

しかし恋する相手（国）をあまりに詳しく調査すると、見たくない面、知りたくない面も知ってしまい、ちょっと水をかけられた感じになったりする。相手の事は何でも知りたい、でもアラも見えてちょっとがっかりしたりするこの頃だ。長所も短所も総合して多様な価

値観を受け入れ、自分の価値観と折り合いをつけていく。「あばたもえくぼ」に思える日が来るのだろう。価値観と言えば、あるアメリカのビジネスマンが南の島に休暇で来ていた。毎日ビーチの長椅子で寝そべり読書をしたり日がな一日をのんびりと過ごしていた。しかし彼の目には地元の若者が毎日のほほんとビーチで寝そべり、おしゃべりで無駄に日を過ごしている姿に我慢がならなかった。「君たちはどうして働かないのだ？」「働くとか何かいいことがあるのかい？」「私みたいにして一生懸命働くと、お金持ちになり長い休みを取ってこうして遠い南の島で自由に過ごすことができる」「な～んだ、俺たちはそれを毎日やっているんだぜ」う～ん素敵、一本取られた感じだ。またアメリカ市民と旧ソ連のモスクワ市民が討論をした。「君たちは食料を買うのもそうやって何時間も並ばなければならないなんて、本当に気の毒だ」「俺たちは勤務時間中に並んでいるんだぜ、どうだ羨ましいだろう」なるほど・・価値観はとても重要な軸だ、それによってハッピーになるのだから面白い。こんなジョークを見つけると嬉しくなる私である。

最近TVの国内版「移住さんいらっしゃい」も熱心に見ている。暑いのは嫌、寒いのも嫌、空気はきれいもいい、物価が安くて治安が良くてフレンドリーで・・温泉もいいな～、価値観の軸もヨロヨロと定まらない、灯台もと暗しかもと思ってみたり、全く移り気で毎週？食前食後に？コロコロと気が変わる。政治、年金、為替、地球は狭くなたので諸外国の出来事にもアンテナをはっていかうと思う。しかし南の会と出合ったことでおぼろげだった未来が、目的を持ちキャンパスに大まかな図面を描きつつ充実した時間を持つことになった。時間の余裕がありまだまだ心の漂流は続くが、南の会の人生の達人、大先輩方の中で末席にてしばし人間ウォッチングもさせていただいて、生き方にヒントを得て、また交友を深めさせていただければ望外の喜びである。夫婦関係の再構築に寄与してくださり南の会には感謝状をお贈りしたい心境である・

・Viva! 南の会

一人でロングステイ

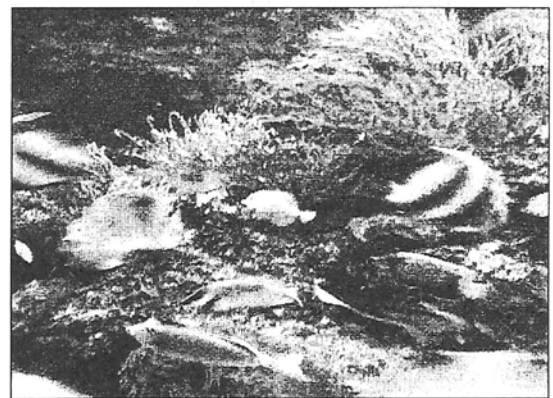
北海道支部 613番 富樫 則子

私は昨年2週間のタイ旅行の経験から、今回のロングステイはバンコクでと決めました。交通が便利で一人で自分の行きたい所へ出掛けられる事。病院の設備が整っている事。少しタイ語を勉強していた事。さらに会員の村上さんのメールで「どのようなサポートでもしますので」との言葉に背中をポンと押して貰いました。24時間セキュリティのしっかりしたサービスアパートで、モノレールの近く、25000パーツ位の台所付等の条件を示し、3カ月契約を一時帰国する親しい留学生にお願いしました。モノレールから3分の凄く便利なところで台所付、週5回掃除付、デポジット1カ月の部屋を予算内で契約して貰いました。

出発の1月5日は凄く吹雪で、千歳空港へのアクセスは電車以外は交通止めとの事で大きなサムソナイト、パソコンを抱えやっとの思いで東京へ発ちました。東京で2泊し、成田から念願の地バンコクへ向いました。空港にはタイ語の先生の家族が花束を持って迎えてくれました。まずアパートへ案内された後は料理学校の入学手続きをしに同行して貰いました。日本人の入学は初めてなので7日間体験コースを薦められ通うことにしました。(教室はクーラが効き過ぎ体調を崩し本当に体験コースで次のクラスには進めませんでした)生徒はアメリカ、韓国、中国、アフリカ人と男性もいましたが皆さん和気藹々でした。「日本では食事の前後に何か挨拶していますか」と尋ねられたので「いただきます」と「ご馳走様」を食事の前後に皆で手を合わせて行いました。この学校の後には元食堂をしていた人が先生で、2品200パーツで自分の希望する料理を習えると言うラマ4世通りの民宿日出の教室に帰国する迄通いました。現地の村上さん、大瀬戸さんと三人で朝はそ

れぞれタクシーで、帰りは近くのスーパーから私の住まいの一駅前まで無料で送ってくれるバスを利用しました。タイのタクシーは怖いと聞いていましたが1度も怖い思いはしたことはありませんでした。滞在中はタクシーと10パーツでモノレールを随分利用しました。余談ですがタトゥの凄く運転手さんに当たった時は嫌だなーと思い「タイ人て親切で優しいよね〜」って言うと、彼は凄く照れて5パーツおまけしてくれました。又携帯電話を忘れて借りたこともありました。私は運に恵まれただけかも知れませんが。料理教室の無い日は一人で地図を片手に、サンデーマーケット、伊勢丹、市場と本当に札幌にいるのと同じ生活をしていました。但し夜の外出は注意し、帰りは必ずアパートまで送って貰いました。

少しバンコクの生活に慣れたところでシンガポールに行き、セントリーサー島のピンクイルカを見たり、アンダーウォーターワールドでは83メートルのアクリルトンネルを潜りました。トンネル内は動く歩道で珊瑚礁の世界を案内してくれます。其処でシードラゴンを初めて観ました。私の旅行は大抵の場合、特に目的を定めず、朝、目が覚めたら今日は何処へ行こうかとノンビリしたペースです。3泊4日のシンガポールも後はオーチャード



ロードをチョロチョロしていました。食事は中国、マレー、タイ、インドなど美味しい品々がありますが、一人では何を頼んでも余りの量の多さに閉口しました。空港でタイに戻る搭乗手続きをしていると窓口の人が「この搭乗券だけではタイには入国出来ない。」と言ひ「ヴィザの日にちが未だ大丈夫です。」と話してもきつと駄目と言ひます。後で解かった事ですがタイから日本に帰る搭乗券も必要だったようです。でも入国時のドンムアン空港ではすんなりオーケーでした。いまだに不思議です。



次はまた3泊4日の予定で南の会の会員さんが多数ステイしているペナンに前会員さんの女性を訪ねることにしました。メールで都合を聞き、私の住まい近くのチケットショップで搭乗券の手配をしました。一人でロングステイしている彼女に色々な情報を頂き、住

宅、ロングステイヤーの人気のホテルを案内して貰い一人での暮らし方等を教えて頂きました。やはりペナンの空港でもシンガポールの時と同じ事を言われタイ発成田のオープンチケットを見せるとオーケーでした。ヴィザがあっても帰国する時のチケットを持参する事を学びました。それと何故か沢山のお客さんの中から私だけ荷物とボディチェックを受けました。怪しい女に見えたのか不思議です。本当は上品なのに？

3月14日にはタイ人の知人の家族がアユタヤに連れて行ってくれました。写真でしか見たことが無い神聖な木トンボに眠る仏頭、ワット・プラ・マハタート、大きなカヌンの木に凄く大きな実をつけていた事など驚きの連続でした。車で1日かけてあの広大な所を回ってくれた親切に感謝感謝です。

札幌からの緊急連絡で残念ながら予定を少し早め帰国することに成りました。南の会の村上御夫妻や知人の家族のサポートで本当に楽しいロングステイが出来ました。私が滞在中に気を付けた事はふらふら夜は出歩かない、自分で聞いて何でもトライしてみるなどです。次は10月の末から2ヶ月のステイを予定しています。今度はホテルでのステイです。女性1人でも「安全で楽しく」をモットーに南の会の皆さんの助言をいただきながら再トライしようと思います。

メールリンクより一部抜粋 (ペナン支部 小野様)

ペナンに滞在中の方や、ペナン訪問を予定されている方で、ゴルフ愛好家への朗報です。クリスタル ゴルフ リゾート社及び、トロピカル リゾート ライフスタイル社からの提供です。1. 毎週水曜日のゴルフ親睦会がスタートしました。(仮称ハリラブ会) 2. ゴルフパック料金 RM 90 グリーンフィー、バギーフィー、昼食、ゴルフ保険付。シャトルバスの運行 往復一人RM 70 運行時間、ピックアップ場所等の詳細は、トロピカル社に確認願ひます。4. 55才以上のシニアは、フェアウエイへのバギー乗り入れが可。楽々と余裕のゴルフが請合ひです。以上は、水曜日の親睦会ですが、水曜日以外の平日(月は休み)はトロピカル社に依頼をすれば、下記料金にて車の手配をしてくれます。尚、上記の2. 4. は同様の適用です。中型車(4人、4バッグ) RM 360 小型車(2人、2バッグ) RM 180 詳しくは、料金の確認を含め、トロピカル社に確認下さい。

トロピカル社 TEL 04-228-6540

FAX 04-228-8540

以上、ご紹介でした。

尚、これによりまして従来ペナン支部で行っておりましたゴルフ木曜会は解消することになりましたのでお知らせします。ペナン支部 総務担当 鈴木 伸一 ゴルフ会幹事 小野 雅敏

愛犬と共に海外でロングステイ

チェンマイ支部 500番 下田 紀美恵

私達夫婦は、日本を離れてタイのチェンマイで愛犬（マルチーズ8歳メス）と共にロングステイを始めて一年と2ヶ月に成ります。最近では海外へ犬を連れて共に暮らしたいと言う方が、かなり多く成って来た様ですメール、電話等での問い合わせも来ております。その様な方々の為に私共の拙い経験が少しでもお役に立てればと願っております。海外へ犬を持ち込む場合は検疫の手続きが必要です必要書類を揃えて空港内の検疫所で検査の結果に於いて異常無しと認められて初めて国外へ出る事が出来ます検疫は日本を出る時よりも帰る時の方が厳しく大変です。

検疫に必要な書類

・狂犬病予防注射済み証、混合ワクチン接種済み証・動物病院で発行する健康証明書（英文）・動物輸送証明書・先方国の検疫所に提出する動物申告書

輸送に関して

10kg以内（小型犬）は機内持ち込みOK 大型犬は貨物室、・小型犬を機内持ち込みの場合は、その旨航空会社への予約が必要で有り必ず確認する事。

予約が確認されたら犬のクーポン券を空港で重さによって料金を支払い受け取る、ペットケージは犬の大きさに依って決められたサイズのケージを使用する事。

郵送の方法は宛先国に依り必要書類が異なり上記のデータは一年前の物で有り、現在では多少その方法も異なっている点も有るかも知れませんが、いずれにしてもこれは参考データですので事前にお調べ下さい。尚、日通でペット輸送の代行をしております。

動物検疫所 成田空港内検疫課（第2ターミナル） TEL 0476-32-6664、6667、6655

大阪出張所・・・06-6575-3466

チェンマイには設備の整った動物病院が有り勿論医薬品も揃っております。料金・5種混合ワクチン（800パーツ）¥2400-

耳掃除、健康チェック、フィラリア、ノミ薬（550パーツ）¥1650-

チェンマイには予防注射をしていないノラ犬が沢山います。多少の四季が有るとは言っても南国の照りつける熱い太陽は犬にとってはかなり厳しいと思います。

本当に犬の幸せを思ったら日本に置いて来るのが一番と思いますが諸事情でどうしても連れて来なければ成らない場合は散歩もままならない状況で有る事を頭に入れてストレスが溜まらない様に気を遣い健康に注意し愛情を注いであげる事が重要です。

ノラ犬が街中をウロウロしていますので飼い犬が散歩する光景は殆ど見られません。

整備された公園に行きますと時々歩いている犬がいますが、コンドミニウムも犬OKの処は少ないですし特に大型犬は一戸建てでなければ無理と思って間違い有りません。我が家の愛犬は病気ひとつしないで元気にしております。

毎月一回の定期健診（健康チェック）は欠かせません。日本に居て仲良しだった友達のワンちゃん達とも別れて寂しい思いをさせ人間の勝手に異国の地に連れて来てしまい、いつも心の何処かでゴメンネと謝っています。



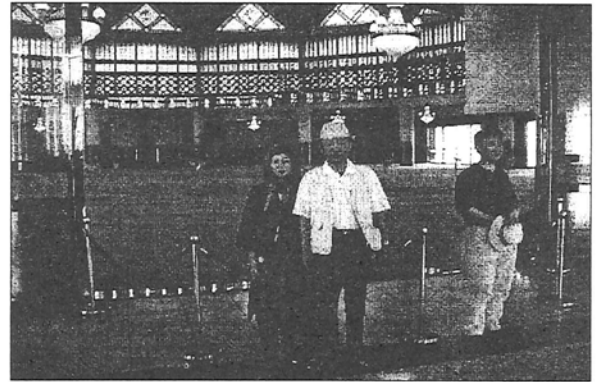
クアラルンプールとチェンマイ

九州支部 851番 稲田 順子

昨年6月、マレーシアロングステイ下見のツアーに参加しました。マレーシア訪問は2度目で、1回目は9年も前のことでした。このときはペナン島、マラッカ、クアラルンプールをみてまわる単なるツアーで、首都クアラルンプールのツインタワーを始め大きな建物など建設ラッシュの真っ只中にありました。また、一步路地に入るとスラム然のようでとてもアンバランスなのが印象的でした。もちろんこのときロングステイなどという言葉も知りませんでした。ただ、ペナン島では、高層マンションにはイギリス人などが部屋を購入して住んでるとガイドが話すのを他人事のように思ったことを覚えております。

昨年初め、テレビを通じてロングステイというものがあることを知りました。そうこうするうち、JTB福岡企画の下見ツアーが目に残り、参加したのでした。8年ぶりのマレーシアの発展振りは目を見張るものがございました。ペナン島、ジョージタウンの高層マンション群、ガーニードライブの屋台がすっかり清潔になっているのに驚きました。見せていただいた賃貸マンションは3ベッドルームのすばらしい部屋で感心しました。

常春のキャメロンハイランドは、賃貸マンションもお値段お手ごろで住み心地も良さそうでしたが、ゴルフはしないし、山歩きも苦手な私は何をすればよいの？と気になりました。BOHの紅茶は香り、お味ともすばらしくもつと沢山買ってくるのでした。クアラルンプールは、すっかり見違えました。ツインタワーはもちろん、大都会にふさわしい姿になり、何よりもとても綺麗になってました。見せていただいたマンションは東京で言えば、銀座の真ん中の感じでとても便利そうで気に入りました。ここならロングステ



イもと思いました。

同行した同じ福岡の方、ちょっと親しくなり最後の日の夕食をご一緒した折、ご主人がチェンマイに行ったことがあり、良いですよのお言葉に主人はすっかりその気になり、まずチェンマイも見てということになったのでした。

帰国後、情報収集とかでインターネットを見てるうち、南の会に入会させていただくことになりました。そして半年、この6月末チェンマイに行くことができました。

バンコクから、寝台車に乗り朝、チェンマイ駅に着きました。ツクツクに乗り、とりあえず、パシフィックマンションに落ち着きました。翌日丁度ついでがあつて伊沢支部長さまにチャイマンションにご案内いただき、そのまま契約入居いたしました。ありがとうございました。

確かにチャイマンションはセンターン（セントラルデパート、いろんなテナント、劇場映画館、レストランなどが入っていて、2つのホテルと廊下でつながれた大きなコンプレックス）に近く大変便利なところでした。私は、用事があり10日で帰国することになっており、主人1人あと1ヵ月半この部屋で暮



らすこととなります。1人で住むには問題はないと思いますが、ロングステイのためには、マレーシアみたいに2～3ベッドルームは不要としても二人では狭すぎるし、快適さがほしいと思いました。

タイの人たちは3食外食で、家にはキッチンもないそうですが、炊事の苦勞から解放されるといっても、日本人にとってタイ料理の外食だけでは耐えられないのではないのでしょうか。

タイ料理も種類豊富だそうですが、短期間で知ることは難しく、又タイ語ができないのが致命的です。次に行くときはタイ語をある程度勉強して、向こうでもタイ語教室と料理教室に行って、たまには部屋で料理もできるようになり、現地の人とも交流ができるようになれば楽しいステイができるのではないかと思います。



今回私は滞在期間が短く、ドイステーブとメオ族の村を訪れ、カントーク・ショーを見ただけでした。主人は西北部のメーホンソン方面やお隣りのラオスに行きましたが、国内旅行やマレーシアやバリなど海外旅行を楽しむこともステイを充実したものにできないのではないのでしょうか。

帰国したのは7月6日ですが、福岡はバン

コクと同じ暑さでチェンマイの涼しさが実感できました。主人がいうようにチェンマイは避寒先というより、避暑先にふさわしいのではないのでしょうか。



微笑みの国タイと聞いておりましたが、本当に笑顔がすばらしく日本人も見習いたいものと思いました。

最後に、伊沢支部長様始め南の会の皆様のおかげを持ちまして、有意義な下見とショートステイができましたこと心から御礼を申し上げ拙い筆を擱きます。



私のミュージズ（美神）フィリピン

関東支部 38番 橋本 比奈子

— プエルト・アズール —

私とフィリピンとの出会いは1997年の春の事です。ある朝、新聞の投稿欄の中で1つの投書を見つけました。まるで私のために書かれたような・・・。

「庭のヒスイカヅラが満開です。ここは南洋の国フィリピンです。リタイアしてからこちらに家を建て庭造りをしています。南国の植物に興味のある方を歓迎します。」こんな内容でした。

当時、私は身の回りにある花や植物を描いていましたが、大きな温室にあるような豊かな熱帯の植物にあこがれていました。すぐに手紙を書いて夏休みに行きたいとお願いしました。フィリピンや東南アジアについては何の知識も無く、全く知らない方を頼りにして出掛

けたわけですから、今考えれば随分大胆な事でした。ただ主人と2人だし、ヨーロッパには何度も行っていましたから、躊躇がなかったのかも知れません。

この投書をされた方が、その後「南の会」の前身である「南国暮らし夢の会」を立ち上げ、初代会長になられた竹内司さんでした。

フィリピンの竹内家で過ごした3週間は、想像以上で夢のようでした。お宅はマニラから南に車で2時間位のプエルト・アズールという高級リゾートの中にありました。

描くものはいっぱいありました。テラスに

は植物ばかりでなく幾つかの鳥かごに綺麗なインコや小鳥たちが遊んでいました。庭の椰子やアボカドの樹には沢山の実がなり、バナナは薄紫の大きな花を付けています。

日射しの強い日中はテラスや庭の四阿でスケッチをして過ごし、夕方には庭続きの海辺に出て、小魚が群をなして噴水のように吹き上がるのを眺めたり、沈み行くマニラ湾の夕陽にみとれて時を忘れたりしました。

私達は1年に1度の旅行を習慣としていましたので（体力的にも経済的にも制約がありまして）、その後2回、すなわち3年にわたりプエルト・アズールを訪ね、南国の魅力を満喫させて頂きました。

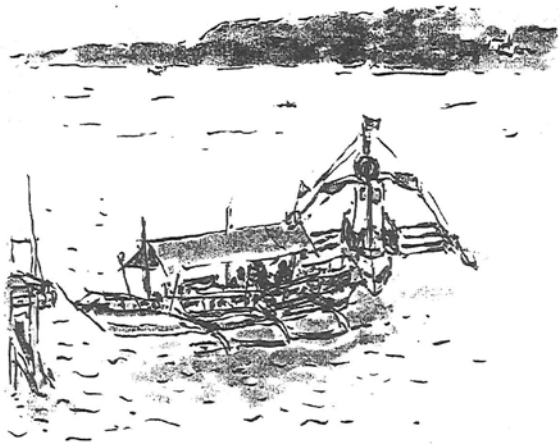
— ダバオ —

勿論、南国だからといって天国ではありません。マニラから南に下る沿道には小さな小屋が建ち並び、貧しい人々の生活がかいま見えて心が痛みます。少しフィリピンに慣れたところで、リゾートから外に出て普通の街中で暮らしてみたいと思うようになりました。マニラのような大都会ではなく、といってあまり田舎でも不安だし・・・。そんな事を考えていた時、今度は「南の会」の会報でダバオを知りました。「おいでよ、常夏の国ダバオへ！」という文章に誘われて、その後の5年間はダバオ一筋となりました。

ダバオの素晴らしいところは第1に気候の



竹内邸のテラス（プエルト・アズール）



アウトリガーのついた渡し舟 (ダバオ)

良いこと、第2に南にダバオ湾、西にアポ山という雄大な地形、そしてフィリピンの南端であるためか、いろいろな民族の人達がいって親しみやすい・・・等々でしょうか。

ダバオでは「南の会」会員の方にお世話になり、ホテルの予約から街の案内までして戴き、フィリピンでの街中の生活に少しずつ慣れていきました。

絵に関してはモチーフが又大きく広がりました。常宿となったインシュラー・ホテルは敷地が広く、中庭はダバオ湾に面して開けています。向かい側にはサマル島があり、右手はるかにタリクド島がかすんでいます。

浜の近くには漁をしている小舟が浮かび、ホテルの船着き場からは両側にアウトリガーを付けて屋根を綺麗な色に塗った渡し船がサマル島に向かいます。突然、思いがけない大きな船が目の前を横切ることもあります。あわてて描き始めても終わらないうちに行ってしまうが・・・。

ホテルの部屋のベランダから、あるいは中庭の浜辺から、そして船着き場の2階のカフェから、海や空を眺めたり、スケッチをしたりして時を過ごします。

毎日同じ事をしているので、ホテルの敷地内で働く人達とは顔なじみになります。朝夕椰子の木に登って椰子酒を取る人、中庭や浜辺の掃除をする人、観光客に真珠を売るスールー諸島の人達や中庭の小屋でアカバ麻を織

る女性など。また厳めしい制服に銃を持った警備員も・・・。毎年行くうちに又会うのが楽しみになります。(自分の家に来て子供達を見てくれと誘われて行った事もあります)

この働く人達の着ている服の色が実に魅力的なのです。ほとんどTシャツに短パンだけです、その鮮やかな色は遠くから見ると熱帯の花のようです。風景を描いていても、椰子の樹に登る人や庭を掃除している人が目に入って来れば急いで描き加えます。

こうして熱帯植物から始まったフィリピンでの絵の仕事は、楽しく発展してきました。海から少し離れたマンションでは、一面緑の

風景やアポ山と周りの山々を毎日描くことも出来ました。ただ確かに歳は取って行くわけで、昨夏は



椰子酒を取る人 (ダバオ)

帰途2人とも熱中症で倒れ、乗り継ぎの必要なダバオはもう無理だろうと話合いました。行く前から道中は一寸キツイなあと感じていたのです。

でもまだフィリピンをあきらめたわけでもありません。直行便のある所なら・・・なんて考えています。運が良ければ、また描きに行けるでしょう。新しい所へ・・・。「南の会」があるのですから・・・。

チェンマイの山奥でウルルン滞在記

関東支部 687番 杉山 節子

事の始まりはひよんな事からだった、昨年の11月下旬から私たち夫婦は、親しくさせていただいている会員番号6番石川さんご夫妻 会員番号239番伊藤寛さんにいろいろ教えていただいて、はじめてのチェンマイ旅行に踏み切りました。

出発前から主人は50肩の病に苦しんでいましたので、有名なタイマッサージにかかれれば楽になると希望と期待に満ちあふれて居ました。チェンマイに落ち着いて、早速いそいそと出かけた先はマッサージ店でした。そこで私の夫(暢孝)は宜しくない結果に寝込む始末となりました。心配した石川さんと伊藤さんから朗報が飛び込んできました、今夕6時ごろから王様マッサージの有名な先生(50歳位女医、国立病院リハビリ室責任者)がホテルに来て夫を診察してくれることになったとの事、こちらも緊張し部屋ベット周辺を整理し待ちました 先生がこられ早速診察とマッサージを行い、結果 二人とも早速10日間私の所で宿泊治療をなささい、そうすれば見違える程良くなるとの事でした(全て通訳を介しての会話)。それからが大変です、二人ともタイ語は出来ない、先生他家族はもちろん村人達も日本語 英語が出来ない意思の疎通は皆目だめ、しかも場所はチェンマイの山奥の小村、トイレは、治療方法は、チェンマイのホテル連絡は、交通手段は、、、

10日間もステイ出来るか、、難問山積です。皆様とも相談の結果 良くなればの一念で治療を受ける決断いたしました。

11月28日

夫は朝から先生の治療を受ける、(因みに朝食は小さなクッキー4~5片にインスタントコーヒーのみ、 時々たま卵や薄いサンドイッチが付く時もあった) 私は先生のお孫さん(小学2年位女の子)と、折り紙で鶴、クリスマス

ツリー、サンタクロス、等折っていると、お孫さんの友達が二人三人と集まってきました、折り紙を教えたりままごとをしたりしていると、子供たちの目が段々輝いてきて、お互い言葉は通じないのに段々と意志の疎通が出来る様になりました。本日はタイの有名な行事ローイカートンの日です、カートンで使う3cm位のローソク皿が門柱の隅に沢山置いてありました。お孫さんたちはこのお皿をままごとのお皿とばかりに、きれいな砂を入れた上にお花を摘んで飾り「どうぞ」と言って私にくれる。「ありがとう頂戴します」と合掌して頂く、お孫さんたちにも私が「どうぞ召し上がれ」と言って渡すと戴いて食べるまねをする、お友達も次々にお花を摘んでくる。道端に花びらが散らかってしまった、台所近くにあった古い部屋箒が合ったので道路をきれいに掃除していたら近所の方が驚きの目で見えていました あまり道路を掃除しないらしい、この箒は室内用で、あとで先生の息子さんが外用の箒をわざわざ買いに行った。

午後親族、子供達がリビングルームに集まってバナナの幹を輪切りにした高さ7糎位の台を作りその上にバナナの葉を飾りローソクを立てた物を20本位作る。夕食後先生の号令で親族、子供たち私たち二人トラックの助手席や荷台に鈴なりに乗り役場の前の川岸に到着、ローソクに火をつけ川に流す、暗闇の中数多くの灯籠がゆらゆら流れ下ってゆく様は、幻想的で美しく、幽玄の世界に迷い込んだ気がして人間の原罪が洗い流されて行く様な気持ちでした。楽しかった。

11月29日

早朝洗顔して着替えしていると紹介者のタイ人と夫が話し合っている。昨夜夫は明日帰るから、荷物をまとめるように言っていた(夫は菜食の食事とトイレがだめ)チェンマ

イに用事が出来たと先生に話し、二泊三日で帰ることになった。私はどうするということで私は先生の治療を続けたいと話す。「私は菜食が好きで一人でも大丈夫よ、言葉もタイの指差し会話の本と料理の本があるから何とかなると話す」夫は驚愕していた。

朝食はケーキとミルクというお茶。7時30分先生の息子さんが運転する軽トラックで先生が勤めている病院に行く。夫が最初に治療を受ける。先生いわく「今年から来年まで死ぬ様な思いをする、まだまだ痛い痛いが続く、先祖のお墓参りをしないと駄目ですよ、胸の肺が真っ黒で心臓も悪い」と宣告された。先生はレントゲン、エコー、CT検査などしてないのですよ、英語、日本語も出来ずタイ語だけです夫と私は通訳なしでなんとなく会話って出来るんですね。先生と売店で昼食弁当を買う、竹管の中にもち米、小豆、甘い味付けになっている。初めて食べる煮玉子、空心采の炒め物、小鯛を串に刺したみりん干し、先生やお弟子さんが魚の骨を取って私の皿に入れてくれる、皆優しい人たちです、「ありがとう」今まで魚の骨をとってあげた事はあったが、私のために骨を取ってもらったのは初めてだった。食事のあと、お弟子さんが足のマッサージをしてくれた、香草を丸めて蒸してあるのでポタポタ、背中から足先までポタポタ、気持ちが良いととうと、、、。着替えて外で待っていると先生が竹管の餅米のおやつを持ってきてくれた、美味しかった。夫の治療は先生が長時間集中治療してくれた、その間薬草を蒸して患部に当てたり大きな木の葉の薬草を使ったり先生（村長夫人で50歳位の人）のエネルギーは物凄い。夫をチェンマイまで送ってくれた車がなかなか帰ってこない、隣のおじさんがニコニコしながら私に「椅子に掛けなさい」と言っている、「ありがとう」と言って椅子に座った。先生は忙しく出たり入ったりしている。先生を待つて家路に着く、先生は途中で降りる。家に戻ると間もなく夕飯、中学生のお孫さん（男）小学生のお孫さん（女）もお皿を持ってきてお付き合い、チャーハン、煮玉子、豚肉の煮物、空心采の炒め物、地元のお茶、満腹、

ご馳走様、、、

お嫁さんがシャワーを浴びるようにと勧めてくれる。中学生のお孫さんは「小母さん（ヤー）が寂しければ、僕と一緒に寝ますか」と言う。

「ありがとう私は一人で大丈夫です」と言った。その後お孫さんたちとビーズ玉を糸に通して遊んだ。先生は7時30分過ぎに帰ってきた。昼休みに病院でお弟子たちと鶴（折り紙）を折ったのを持ち帰り又鶴を折り始めた。

「ヤー 携帯電話は？」と先生が言った。携帯電話は夫の荷物と一緒にチェンマイに帰ったと答えたが、先生には通じない、指差し本を持ってきて、やっと通じた。今日から私は” 姨捨山のおばあさん”

11月30日

午前7時、先生は病院へ、私は別の車で小学校へ、小学1、2年生の女の子が大勢集まってきた。朝礼後、私は折り紙の先生となる、5、6年生の女の子30人位にサンタさん、もみの木、鶴を折った。タイ流に折る子供が何人か居た、手仕事は早い鶴でなく白鳥に見える、子供たちは鶴を見たことが無いのかなー、今度来る機会があれば「鳥の図鑑」をお土産にしよう。11時過ぎお嫁さんがバイクで迎えに来てくれた。昼食が終わり休んでいるとお嫁さんと息子さんが山に遊びに行きましょうと誘ってくれる。

息子さんの軽トラックに乗り山に向かう。途中道端にパパイヤ、バナナがたわわに実っている「うわーパパイヤだ、あ、バナナだ」と喜んでいる日本の小母さんに、これはみんな我が家のですと言って車を止め棒で突いて大きなパパイヤを3ヶ落とした、よく熟れている、山に着きすぐ皮をむき切ってくれた。美味しかった。

犬が鶏を追いかけている、鶏は大声を出し犬に向かってとびかかった、犬は驚き逃げ出した、この鶏は子供（ひよこ）5羽を連れ散歩中、小さい鶏なのに親鳥の強さにびっくり。

日向は暑い日陰は涼しい。山には小屋が作ってあって、山口さんという日本の老人と村長さんが住んでいる。（村長さんは時々ましか家に帰らない）山口さんが朗々と尺八の稽古

を始めた、この山奥で尺八の音を聞かれるとは夢にも思わなかった。夕方になって、焚き火をしているとバナナを火の中に入れて焼きバナナにしてくれた、灰の中から取り出したバナナは、すごく甘く、美味しくて3本食べたらず皆さん、あきれ顔で見ていた、夕食はいらない、満腹、初めて食べた焼きバナナは美味しかった。

12月1日

6時先生が孫を起こす声、シャワーの音、水をかぶる音、朝食を済ませ先生と一緒に病院へ出発だと思ったら先生の雷が落ちている、凄いい雷だ。息子さんが寝坊したらしい、病院に着くまで、息子さんは先生に叱られていた、息子さんは叱られても叱られてもニコニコと笑顔で本当に素晴らしい、、、杉山家の子供だったらどうだろう？

先生は幸福だ。娘さんも息子さんもお嫁さんも皆いい人ばかりで、、、

治療室では隣の事務所に仏様が祀ってあり朝皆でお経を唱え、お祈りをしてから治療が始まります。昼食は焼きそば、チマキのような物、焼き魚、砂糖をつけて食べるお団子等を皆で持ち寄り4人で仲良く食べた、美味しかった。

食後、薬(蒸し香草もあり)でべたべた、ぼたぼた、、、夕方治療が終わり、次々にお弟子さんたちが帰っていく、先生とスクールバスで家に帰る、息子さん夫婦はまだ帰っていなかった。先生が食事の支度をしてくれて9時ごろ夕飯を食べた、大変美味しかった。食後、食器を台所へ持っていった。。大変な散らかり様、「天は二物を与えず」、食器を洗い、台所を片付けシャワーを浴び布団の中にもぐり込む。

12月2日

午前7時 先生が今朝は冷えるからとトレーナーを持ってきてくれた、先生ありがとう。今日も病院に行く、今日は村長さんも病院に行くらしい、息子さんが台所で掃除をしていた、よく働く息子さんだ。隣の家には長女が住み先生のお弟子さんで病院で働いている。

皆が揃い車に乗り込み出発する、先生は昨日と同じように怒鳴りぼやきが始まった、村長さんは一言も言わない、先生は病院の玄関に着くまでぼやき続け降りた。車は奥の治療室前で止まった。私は指差し本を出し「先生(アーチャン)は大変疲れている。昨晚も遅くまで患者が来て手も痛いと言っていた。貴方は我慢して先生の言うこと聞いてあげてね」と言った。息子さんは涙を浮かべ、私の話を聞いてくれた。村長さんにも同じ事を言うと私の言うことがわかったらしく握手をして有難うと言った。事務所でお祈りが始まり私も一緒にお祈りをした。

診療が始まると、先生は眠い眠いとの仕草をしている、11時40分頃、私の治療が始まる、私は指差し本を出して「アーチャは今日は私の治療をしなくていいから、ネンネコして」と私の枕を出して先生を寝かせジャパンの子守唄を歌うからと背中を軽くたたきながら「ネンネコさっしやりませ、寝た子の可愛さ、起きて泣く子のネンコロリ、、、」どんな顔をしているかなと覗くと、大きな目に涙を一杯溜めていた、言葉がわからなくても気持ちは通じる。先生の大変なことを少しでも理解してくれる人がいたと、先生も嬉しく思ってくれたのだと思う。すると先生はガバッーと起きて私に抱きついて泣いた、私も泣いた、先生は疲れている。

12月3日

午前8時車で先生と病院に行く、今日も先生は忙しそうだ。患者さんが3人待っていた、軍服を着た人、消防士のような服装の人、もう一人は年配のご婦人。お弟子さんと指差し本を開いて日本語、タイ語の勉強をしていると、「コップンカー」、「ありがとう」そのご婦人が「ありがとう味の素」と言ったので皆で大笑いした、その後「味の素おばさん」とあだ名をつけた。治療後先生はお弟子さんたち(13人)を家に招いた。私は車の助手席で道案内、家に着いてからは勝手知ったる他人の家で、、、お茶を入れたり、バナナを枝ごと出し「これは先生の家で取れた物です」と説明、皆さんおいしいおいしいと食べ

てくれた。

12月4日

今日は先生が家族 皆できれいな景色、素敵などころに目の保養に行きましようと提案、お化粧しきれいな洋服で盛装して出かけました。車でチェンマイ市内に向かっていているらしい。きれいな花市場がある、見たことのある市場に似ているなど思いながら車窓を見てみると、なんと、私たちが泊まっているナイトバザールのホテル前を通過。目の保養とはチェンマイ市内に来ることだった様です。皆で写真屋に行き家族写真を撮ったり市内観光をしたり楽しそうでした。

12月5日

今日はタイ国王のお誕生日、おめでとうございます。朝から大掃除、ガラス拭き、カーテンを洗い、最後にタイヤを見ると私の靴が泳いでいた、嗚呼、、型もくずれ、大変、、とても忙しかった。午後先生とお弟子さんからマッサージ治療を受ける。

12月6日

村長さん達と山に行く、焼畑にしてそばを蒔くらしい、私もこの山はそばが良いと思った。村長さんが「ヤー（小母さん）もここに家を建てなさい」と言ってくれた。有難うお気持ちだけでもありがたく感謝します、暖かい心の人たちです。息子さんがバナナやパイヤを取ってきてくれた、おいしかった。夕飯は青菜の炒め物、魚のスープ他4品位のご馳走、みんなおいしかった。夕食後先生に挨拶に行くと二階の先生の部屋に呼ばれる、広い部屋の奥に大きなベツトルームがあり「今夜はここで一緒に休みましよう」という。横になったが寝付かれず暫くして先生の静かな寝息が聞こえる。そつと起きて、トイレに行き、住み慣れた寝台にもどり夢の中へ、。

12月7日

今日はチェンマイに帰る日、荷物をまとめ帰る支度、サワデーカー、サワデーカー「もう一泊泊まれ」と息子が言ってくれる、有難

う。

朝食を済ませ外に出ると大勢車に乗って待っている。先生のお孫さんが手に花を持って、こんなお婆さんでも別れるのが悲しいのか、泣き出した。私も思わず涙がこぼれた。又遊びに来るから逢える日まで元気でねと、背中をさする。言葉がわからないのに気持ちで付き合った小さな友達、家の前でお花を摘んで、おままごとをしたり、折り紙で遊んだ可愛い小さな友達、一人でアイスを食べず私にも買って来てくれた、あのアイスの味忘れないよ、美味しかった、、あの優しい気持ちを何時までも忘れないで下さい。さようなら、、私は絶対忘れません。やがて車はチェンマイ市内に向かい出発、見覚えの或る懐かしい風景が次々に通りすぎ、ホテルに着きました。別れる時、先生は、杉山さんが居なくなると寂しいと泣き出した、息子さんも泣いていた。優しい息子さん「我慢する」のよと背中をさすり又逢える日まで元気でさようならと見送った。車が見えなくなるまで、、

こうして私のウルルン滞在も終わった。皆優しかった。



橋本比奈子 作

フィリピンらしくないバギオ

バギオ支部 227番 齋木 ガーリィ

南の会の皆様、私の名は齋木ガーリィと言います。齋木一の妻です。結婚して5年10ヶ月、4才半の一人娘ナオミと3人でバギオからケノンロードを下ったパンガシナン州ウルダネータに住んでいます。私の生まれ故郷です。

バギオに住んでいないのに、主人が勝手に私がバギオを紹介すると約束をしまして困っていました。でも、私ももう1年以上毎月バギオの日系人の子供達に日本語を教える為に必ずバギオに来ていますから、少しずつバギオの事が判って来ました。段々バギオが好きになっています。

私が最初にバギオに来たのは、まだ高校生の頃ですから、もう随分前になります。その時は寒いだけで、バスにも酔ってしまって余りいい思い出はありませんでした。

バギオを好きになったのは、主人と結婚して主人がバギオの日本人会に入り、何日か続けてバギオに泊る様になってからです。海に近く暑い私達の家と違ってとても良く眠れます。

バギオは、私達フィリピン人からは、まるで外国の様です。それは、多分家の作り方なのでしょう。私達の国は昔長い間スペイン人が力を持っていたので、どの町にもスペイン系の人の家や、スペイン風の家が沢山あります。バギオは、そのスペイン人を私達の国から追い出したアメリカ人が作った町ですから、何処にでもあるスペイン風の建物が余りありません。

町の中心にある大聖堂も、普通の私達の町の教会とは全然違います。新しい感じのする教会です。

町を歩いていても、同じフィリピン人でもバギオの人達は着てる服も違います。私達は1



年中だいたいTシャツ、ジーンズですが、バギオの人達はいろいろの服を着ています。多分寒いのでそうするのでしょう。

家も、着ている服も違うので、私には「フィリピンらしくない町」に見えてしまいます。家からたった1時間半の近くなのに、バギオに来ると何となく外国に行ったような気持ちになります。

私が、最近バギオをどんどん好きになっているのは、私の国では珍しくこの町にいと「お洒落」が出来る為もあります。私達の住む町では暑くて着れない日本に居る時に買った日本の秋や冬の服もバギオでは着る事が出来ます。

朝晩と日中の気温が随分違うので、1日にいろいろ着替えられます。沢山着る物が要るので、主人は大変です。バギオに来るとお金が掛るとよく文句を言っています。

その主人は、バギオが日本の家のある長野県の蓼科に似ているとよく言います。空気がドライでも、風に水分が沢山入っているので、湿度があって健康にいいそうです。

家では、11月から約半年続くドライシーズンには、肌が乾燥するので、化粧品も沢山使いますがバギオにいと適当にウエットで、素肌でもあまり心配しません。余り安心してすぎると日焼けしてしまいますけれど。

それと、バギオの名物、高原野菜が安く、新鮮なので、それも健康には、大変いい事だと思います。バギオに居る時は、毎日欠かさず主人にサラダを作ります。

レストランのサラダも多分フィリピンでバギオが一番安く、新鮮です。ここで食べる野菜炒めはとても美味しいのでお勧めです。

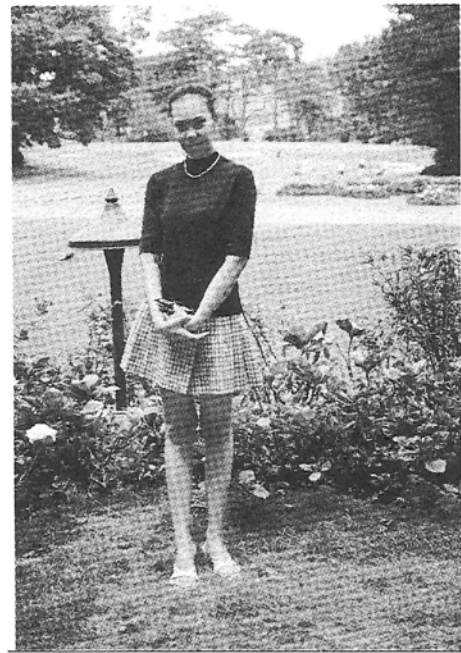
チャプスイと言う名前です。バギオに来られたら是非召し上がって見て下さい。チャプスイは私の自慢料理です。皆さんに一度ご用意したいですね。レタスやサニーレタスも新鮮ですから、鉄板焼きも美味しく感じます。屋外でのバーベキューも気持ちいいですね。食べ物の話になると、何時までも止まらなると主人に文句を言われますから、別の話にします。

2年程前にバギオにもSMショッピングモールが出来ました。SMは日本のイトーヨーカ堂の様にフィリピンNO1のショッピングセンターです。バギオもSMモールが出来てから町が変わりました。

半年続く雨期の間もSMモールには何でもありますから、SMだけで全部用意が出来ます。ショッピング街や映画館も沢山ありますから1日中いても飽きません。日本レストランも3軒あります。

スーパーマーケットには、日本の食材も沢山置いてあります。日本酒が高いのに直ぐに売り切れてしまうと主人が嘆いています。バギオに住む日本人はお酒好きなのではないでしょうか？

そのSMには、主人やバギオの山田さんが、南の会の会員の方々とよく行く場所があります。



いろいろな食べ物の店が集っているエスカレーター前のフードコートです。

どの店も安く、一人100円から200円で充分食事が出来ます。でも主人達の目的は、そこにあるフィリピン製のサン・ミゲルビールの様です。ジョッキ1杯90円でとても安いと喜んでいます。

簡単なおつまみだけで、2時間も3時間も話をしています。その中身は判りませんが、私にはその間にゆっくりショッピングが出来るので、お互いにいい事なのでしょう。

安いビールを飲んでいる間に私がいろいろ買物をして、それは長い間話をしている方に問題があるので、文句はないでしょう。でも日本と違ってそれ程高いものは売っていないので主人も安心していると思います。

天気がよければ、バギオで一番賑やかなセクションロードのパラパラ（ウインドウショッピング）もいいですね。1本の傘を日傘にして二人でのんびりと歩いているとこんな時がずっと続くといいな、なんて、考えてしまいます。

このごろは、娘のナオミが必ず一緒に、あれが欲しい、これがいいと言うので、私への予



算が無くなるのではと、心配しています。
その内に私の大変なライバルになりそうです。

バギオにいと、そうして家族3人安心して
何処でも歩けます。マニラに居る時には、何
時も周りを心配していましたが、バギオでは、
危ないと思った事はありません。

綺麗な町と、美味しい空気、それに何時も安
心して楽しめる事もバギオに来るとずっと続
けて居たくなる理由です。娘もとても気に入
っています。家にいると一週間に何回もバギオ
に行こうと私にお願いします。

私が大好きなバギオの為に、会員の皆様にお
願いがあります。バギオには昔、日本の兵隊
さんが沢山いて、フィリピン人は随分怖い思
いをしたそうです。
今でもその時の事を憶えている人もいます。
年寄りから聞いた人は日本人は皆怖い人だと
今でも思っています。でも、今の日本人はそ
の時とは違って、とても優しい人ばかりです。

この頃よく家に来られる南の会の方々は、皆
とても優しい方ばかりです。バギオには、余
り日本人が住んでいないのでまだ日本人は怖
いと思っているフィリピン人が多いのでしょ
う。
南の会の会員の方々が沢山バギオに来られて、
日本人が優しい事をバギオのフィリピン人達
に教えてあげて下さい。それが、私からのお
願いです。

私が毎月日本語を教えているアボンの日系人
達も自分のルーツに誇りを持てると思います。
今のバギオの日系人達は、自分の血に日本人
の血が入っている事は知っていても、日本語
も日本の文化も知りません。教えてくれる人
がいないのです。

優しい日本人が沢山来て、日系人に日本の事
を教えれば、バギオのフィリピン人達の日本
人のイメージが変わります。今の日本人の本
当の姿を、来て、見せて、教えて下さい。

バギオをフィリピンらしくない町に作ったの
は、日本人の力も大きかったとアボンで教え
てもらいました。そのバギオをまた今の日本
人の力で「日本人が思っているフィリピン」
らしくない町になる様に手伝って下さい。

バギオで、何時の日か会員の方々と楽しいパー
ティをする事を主人とナオミと3人で楽しみ
にお待ちしています。

では、皆さん「See You in BAGUIO」
「Merry X'mas and A Happy New Year」
Girlie U. Saiki



ヨーロッパ一周47日間鉄道トライアスロンの旅

……おじさんとお婆さんの修学旅行……

関東支部 417番 木内 玖充子

ヨーロッパに何回も行かれたことのある会員の皆様には、私の拙い体験談はちょっと物足りないと思いますが、普通の主婦の感じたまを綴らせて戴きました。

主人は若い頃、仕事で訪れたドイツで、アメリカ人の老人団体旅行を目にして「リタイア後の老夫婦が、仲良くヨーロッパ旅行をしていて羨ましかった。いつか私達も夫婦でヨーロッパ旅行をしたい」と永年想っていたようです。また昨夏、チェンマイで知り合ったある人が「ヨーロッパ旅行をすると、ますますアジアの良さが解りますよ」と話された言葉も心に響きました。そしてまた、今冬のサロン会で、三神ご夫妻(会員NO.734)とお話をさせていただく機会があったのですが、ご夫妻は昨年6月にユーレイルパスを使い、2ヶ月間の気ままなヨーロッパの旅をされたそうです。お二人は、口を揃えて「楽しかった!」とおっしゃいました。その時、主人の中に眠っていた「いつか私達もヨーロッパへ夫婦で行きたい!」という強い想いが具体的に動き出したのです。

主人の方は大変乗り気になっていたのですが、私の方は今一つでした。元気とはいえ、高齢な両親がおり、ほったらかして出かけて良いものか悩みました。正直、ヨーロッパ旅行といっても、最初はツアーぐらいで行くとしか考えておりませんでした。主人の希望する2ヶ月間のヨーロッパ個人旅行となりますと、1カ所に滞在するよりも費用がかさみますし、ましてアジアに比べたら大変な額になるでしょう。そんな私の気持ちとは裏腹に、安いチケットだけは早く押さえねばならず、4月末に航空券だけを購入いたしました。

10年前に、大学主催のヨーロッパ美術館巡り(約1ヶ月)に参加したことがある長女が「足腰の丈夫な内に行った方がいいよ」と勧めてくれたり、両親も「行って来たら」と申しますので、私もようやく気持ちが固まったのでした。ゴールデンウィーク明けに

2日程、都内の各国政府観光局を2人で回り、10カ国分の資料や地図を集めました。その後2ヶ月間、夫婦各々パソコンを駆使して準備に追われました。

*ルーティング

先ずどこに行きたいかから始まり、鉄道で行く場合はどのルートでどのぐらいの時間がかかるのかを検討しました。その際「地球の歩き方」編集の各種の本やトーマス・クック社の時刻表、「白川純の鉄道旅行」のサイト等を参考にしました。主人は「2年前、豪州でルームメイトだった若い友人達と会いたい」とか、私は「ロマンチック街道に行きたい」等と、あつという間に時間が過ぎていきました。

*ユーレイルパス

ヨーロッパの列車(1等車)が乗り放題というユーレイルパスには、連続乗车型とフレキシ型(有効期間内で利用日数が選べる)の2種類がありました。またヨーロッパ17ヶ国で使えるユーレイルパスに対し、地域限定型(スイスパス、トレインイタリアパス等)があり、旅行社にも相談しました。私達の場合は、新宿にあるトラベルデザイナーというJTБの個人旅行部門を使いました。(何社か調べましたが、ユーレイルパスに詳しいのは、地球の歩き方プラザとトラベルデザイナーでした)。私達は、ユーレイルパスセーバー券1ヶ月連続使用1名約¥90,000の所を1割引¥81,000で購入しました(ユーレイルパスセーバー券は二人以上で購入、別行動は不可)。ベルギーに入国時点で1ヶ月の有効期限が無くなるため、その後のオランダまでの普通乗車券は別途購入致しました。

いろいろ調べ始めると、夏に行くということはハイシーズンに当たり、ホテルは混んでいる上に高くなり、列車も混むことが予想されました。各都市の駅前の案内所で聞いても、当日泊まる所が無かったら困るし、指定券が無いと列車には乗れても立ち詰

めでは困る等の問題点が見えて来ました。そのため「行く先々でスケジュールを変更する気ままな旅」という旅行では無く、ある程度、日程を決めて宿や指定券も必要な所は押さえることにしました。旅行社が扱う宿はツアー向けの高い所が多いので、40泊(27ホテル)をインターネットのサイトで旅ウェブ等の5社ほどを使い、自分達で自宅から予約しました。他の6泊は機中泊3日と個室寝台車(2等)の車中泊3日です。行く場所は 前後にシンガポールに滞在した後、英・仏・スペイン・ポルトガル・伊・パチカン・スイス・独・ベルギー・オランダの計11ヶ国になりました。大きな都市は3~4日観光して、他は前進あるのみで、バスや船の所もあり、私は思わず<トライアスロン旅行>と命名してしまいました。平均的な1日は、午前中に数時間列車で移動し、宿に着いたら午後を観光に当てるといふものです。(現地では午後9時過ぎまで明るいので、1日がとても長く感じられました)。

*シンガポール(7月13日~17日)

いよいよ日程も7月13日から8月28日までと決まり、南の会の皆様に様々なアドバイスを戴き、出発の日が参りました。東南アジアには、両親と共に5回ほど訪れたことがございますが、シンガポールは初めてです。空港を出ますと、南国特有の色鮮やかな花々と緑が目につき、ホッと致しました。街はとても清潔で、地下鉄の案内も分かり易く、治安も良く、女性だけでも一人歩きが出来そうでした。市内を自由に乗り降り出来る周遊バスで、市内各所を見物しました。シンガポール航空のチケットを見せると周遊バス料金一人6シンガポールドルが3sドルになりました(1sドルは約¥66)。植物園やマーライオン公園、中華街、ナイトサファリを楽しみ、美味しい中華を食べるなどして大満足でした。タイやベトナムほど安くはありませんが、大変居心地の良い所でした。4日ほど楽しんで、物価の高いヨーロッパに行く前の息抜き(?)をしました。

*ロンドン(7月17日~21日)

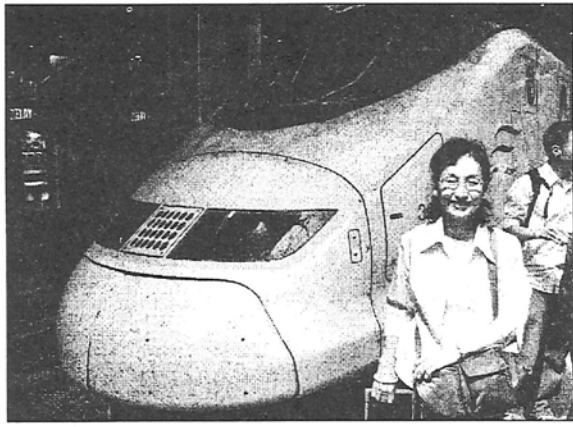
ヒースロー空港に早朝に着き、案内のまま歩くと地下鉄に直結していました。地下鉄アールズコート駅を降りて、歩いて行ける場所にホテルがありました。外観は英国風の素敵で建物は、バスルームの狭さには閉口しました。地下鉄やバスも使い



易く、初日は丸1日をかけて大英博物館を見学し、翌日は二階建て周遊バスで、主な観光名所を効率良く回ることにしました。バッキンガム宮殿、ウェストミンスター寺院、タワーブリッジ、ビッグベン、ロンドン塔、ロンドンアイ等です。乗ったり降りたりが自由なので、じっくり見たい場所は降りたり、食事をしたりして、次のバスに乗れば良く、とても重宝しました。彫刻等で飾られた英国の古風な建物の軒先すれすれに移動するので面白く見所満載です。あちらを見たり、こちらを見たりでお上りさん丸出しの2人でした。主人の希望で近くの自然史博物館にも参りましたが、建物自体が私達にとっては珍しい歴史的な物でした。丸3日半ロンドンで過ごし、夜9時まで明るい日常に慣れた頃、パリへ移動しました。

*パリ(7月21日~25日)

ロンドンウォーターlooー駅で出国手続きを済ませ、3時間程でパリのノルド駅に到着。隣国なのに時差が1時間有り、妙な気分でした。後で分かったのですが、私達がドーバー海峡を渡っている頃 先程までいたロンドンで2度目のテロが起き、大変な混乱だったそうです。そんな事とは露知らず、車窓から緑豊かな大地に色々な作物が植えられているのを見て「フランスは農業大国なのね」とノンキに実感しておりました。パリで泊まった最初のホテルは、道路に面した石造りのビルの奥、中庭をはさんでホテルが建っていました。部屋は広くはないのですが、中庭の緑の効果と奥まった効果で落ち着きました。ここは中心部から少し離れた住宅街でしたので、朝市等の庶民の生活が垣間見え、私にとっては新鮮な光景でした。しかし6月に宿の手配を始めた頃、観光のためにはもう少し中心部の宿の方が効率が良いと思い、2日目からはオペラ座近くの



ホテルを予約していました。メロを乗り継いで到着したこの小さなホテルにも焼きたてクロワッサンと美味しいコーヒー等の朝食が屋外でも楽しめました。(ヴィラフェネロン：ツイン約¥11000)。シンガポールやロンドンで乗り降り自由の観光バスに味をしめた私達は、パリでも2日券を買って各所を回りました。これにより沢山の名所巡りも、暑い日中に体力を消耗しないですみ、イヤホンの日本語解説で色々な知識を得ることも出来ました。4つのルートに乗ったり降りたりして全部回り、オペラ座、ノートルダム寺院、ルーブル美術館、凱旋門、ブルボン宮、コンコルド広場、ポンヌフ橋、シャンゼリゼ、ロダン美術館、エッフェル塔、サンジェルマン、モンパルナスの丘、サクレクール寺院等の名所を見学できました。その後、4日目の早朝にメロでルーブル美術館に行き、1日かけてルーブルを堪能することが出来ました。5日目はナイトレインの出発まで時間があるので、チェックアウト後に荷物だけホテルに預け、オペラ座の見学をしたり、土産物を買ったりいたしました。

*マドリッド(7月26日～27日)

前日の夜7時43分、パリからマドリッドに向かう夜行寝台車に乗りました。今回寝台車には3回乗りましたが、夕食が摂れる時間に乗るのはこの列車だけでした。そこで食堂車に行き、メニューから料理を注文。お味は上々でした。(寝台車は2等6人用と、1等と2等の寝台個室があります。私達は2等個室を取りました)。一夜明けると車窓は一変し、荒涼とした赤い大地と岩山が続き、植物はオリーブの木しか生えていません。部屋に付いている洗面台で身

支度をして食堂車に行くと、温かい卵料理を作ってくれました。早朝にマドリッドのホテルへ到着後、マイヨール広場に歩いて向かいました。途中ビルバオ銀行でアルファンブラ宮殿のチケットを入手でき、一安心いたしました。(入場日時を指定して購入するのですが、他国のビルバオ銀行でも買えると聞いてロンドンのビルバオ銀行に行ったら、スペイン国内のビルバオ銀行のみと言われた、いわく付きのチケット。是非とも事前に入手したかった代物です)。そろそろお腹が空いたと思っていた所、沢山の人が出入りする不思議な店がありました。壁一面に大きな干し肉の塊がぶら下がっています。カウンターでは、大勢の人が飲んだり食べたりしています。中に入ると美味しそうなお肉やサラミ、チーズ等をつまみにジョッキを傾ける人、パンにはさんで食べる人でごった返していました。私達もお皿を指さして注文し、余りの美味しさと安さに大満足しました。(ミュゼオ ハモンというお店で、マドリッド市内に何軒かありました)。マイヨール広場の回りに沢山の飲食店があり、観光客で賑わっていました。その先にメルカートと言うのですが市場があり、沢山の食料品店や日用品店が軒を並べています。肉屋にはウサギや鳩があり、魚屋には新鮮な鯛や鮭、鱈やカジキもあり、果物や野菜も豊富でした。フラメンコショーのお店は閉まっており、ハリ紙には6時から開店でショーは、なんと10時からと書いてありました。午後は王宮に行き、贅を尽くした収集体や建物を見学。スペインのかつての栄光が偲ばれました。地下鉄でホテルに戻り、シャワーを浴びて一休みです。これは、暑い国での観光で疲労しないための私達なりのコツです。パエリアの夕食後、予約しておいたフラメンコショーを見てほろ酔い気分で就寝。翌日はプラド美術館、植物園、レティー



ロ公園に行き、夜はバルという居酒屋の初体験。蛸や鯛、ムール貝などを食べて満腹です。夜11時近くに寝台列車に乗り込み、マドリッドを離れました。

* リスボン(7月28日~29日)

目が覚めて自室の洗面台で身支度をしてますと、車掌が呼びに来て朝食です。乾いた大地に生えたコルク樫や朝日に輝く風車に目を奪われていると、もうリスボンでした。

到着したホテルは¥7,300なのに5つ星でした。夫婦共に高級志向は全く無いのですが、1日おきの寝台車の旅でしたので居心地の良いホテルは嬉しかったです。インターネットで予約した時、ホテルの外観の写真はあったのですが部屋の写真が無かったので、これほど豪華とは思っていませんでした。今回40泊のため、ツイン1室¥10,000ぐらいを目安に予約しました。中でもお得なのはバンコテルという会社で、ヨーロッパのホテル供給会社なのですが、シーズン前に大量に部屋を押さえて安く提供するシステムようです。クーポン1枚は¥7,500ですが、クーポン2枚のホテルやクーポン3枚必要な高級ホテルもあります。私達はクーポン1枚で泊まれる4つ星ホテルだけを探し出し、日程と合えば予約しました。クーポンは5枚1冊綴りで購入すると1枚¥7,300でした。5つ星ホテルで体力を回復した私達はリスボン観光に出かけました。サンルケ教会と付属美術館を見た後、小さなトロリー電車で山の上のサンジョルジュ城に向かいました。この電車は、急な坂道をデズニーランドのアトラクションを想わせる動きで縦横に走り、スリル満点でした。

* ファロ(7月29日~30日)

昼前にファロに着きましたが、案内所も無い小さな駅で驚きました。ポルトガル南部には鉄道が無い地域があるのですが、マドリッドに戻らず直接グラナダに行こうとすると、ファロからセビリアまでの長距離バスに乗ることになります。ファロは駅前には何も無かったのですが、旧市街近くの広場付近には有名ブテックが建ち並び、軽井沢銀座のようでした。入り江の対岸に高級別荘地帯があり、避暑に来る別荘族や観光客で賑わっていました。バスのチケットを購入後、念願のポルトガル名物の鯛の塩焼きを食べました。非常に口に合い美味しかったのですが、大きな鯛が一皿に8匹も出てきて持て

余してしまいました。

* セビリア(7月30日~31日)

ファロから揺れるバスに3時間半乗って(時差があり、マイナス1時間)セビリアに到着。バンコテルで予約したスペイン広場近くの4つ星ホテルへ。一休みしてからスペイン広場、カテドラル、アルカーサ、ヒルダの塔等を見学。スペイン広場は、美しいタイルと巨大な建造物に圧倒されました。暑さでバテた私達は、途中のレストランで昼食。ガスパッチョ(冷たいトマトポタージュ)を食べましたが、その美味しいこと！やはり夏は40度近くになる風土に根付いた食べ物だと実感しました。主人の希望で闘牛場も見学。残念ながら夏場は闘牛は行われていませんでしたが、闘牛ミュージアムを見て主人は大満足でした。

* グラナダ(7月31日~8月1日)

早く出発する日が続いたので、セビリアを11時50分発の列車に乗り、午前中ゆっくりしました。グラナダのホテル(Alixares Del Generalife)は¥5,800ですが4つ星で、しかもアルファンブラ宮殿の入り口まで徒歩5分と至近。窓を開ければ山々が見え、樹木しかないので人目が気にならないという素晴らしい宿でした。夏場は暑いので、アルファンブラ宮殿の入場は朝か夕方が良いと聞いていたので、4時過ぎに入場。夜8時までいられるそうなので、ゆっくり見学しました。山の上なのに水を引き、花々が咲き乱れ、美しい装飾に彩られた建物には魅了されました。8時頃ホテルに帰り、外のレストランに出かけようとする屋上にレストランがあり、夕陽が見えるではありませんか。席に着くと、今まさにアンダルシアの山並みを赤く染めて夕陽が落ちようとしています。そこにいた客は皆酔いしれたように大自然の繰り広げるショーを楽しみました。翌日は駅のコインロッカーに荷物を預けた後、グラナダの街を観光しました。

* バルセロナ(8月2日~5日)

3回目の寝台車でバルセロナ入りした私達はホテル到着後、近くのサクラダファミリア教会に行き、小1時間程並んで尖塔に登りました。狭い螺旋階段を少人数ずつ上まで登ると、市内が一望できました。降りる時は階段の両サイドが所々空いているの

で、かなり恐かったです。翌日は地下鉄を乗り継いでグエル公園、ミラ邸、バトリョ邸とガウディの作品を堪能。3日目はカテドラル、王の広場、カタルーニャ音楽堂、ピカソ美術館を見学しました。カタルーニャ広場では、大勢の大道芸人が様々なコスチュームで繰り広げるパフォーマンスに目を奪われました。

* マルセイユ(8月5日~6日)

モンペリエで乗り換え、マルセイユに夕方に到着。本場のブイヤベースに挑戦したかった私達はホテルでお薦めのレストランを教えて貰い、予約もお願いしました。そうしたのは、安い店だと冷凍の魚を使っているとガイドブックに書いてあったためです。レストランのある海岸の辺りは流れ者が多いのか「治安が良くないから気を付けて」とフロントで念を押されました。確かに外には、人相の悪い男がうろうろしています。そこで行き帰りタクシーで、併せて14ユーロ(約¥2,000)。(毎日歩き通して数キロ歩くのは当たり前旅なので、荷物を持って遠い駅か遠いホテルに行く以外はタクシーは使いませんでした)。今回の旅は長期なので、身の丈に合った街の普通のレストランで名物を食べるのが私達のコンセプトでした。しかしその晩だけは特例のつもりでした。(パエリアの時もそうでしたが、1人前は無く2人前からとのこと)ブイヤベースだけで、なんと100ユーロ(約¥14,000)です。でも美味しければ一度体験するのも良いかなと思っていました。ところが不味い。塩辛いのです。海老等はプリプリしていて美味しいのですが…しかも量が多い。どう頑張っても、塩辛くて食べられない。飲み物を入れて全部で110ユーロ(約¥15,400)。いつもなら少し置くチップも、満足しなかったので無し！ 出費の割に「とほほ…」の体験でした。

* ニース(8月6日~7日)

マルセイユの駅で電光掲示板に列車到着が遅れるとは出ていましたが、30分もホームで待つとは思いませんでした。しかもこれは序の口で、その後イタリアでは50分、1時間と大幅な遅れに悩まされ、時刻表通りのスイス、ドイツでは本当にホッといたしました。日本で言えば新幹線クラスの列車が平気で遅れるのですから堪りません。(だって5分や10分じゃ無いんですよ!)。陽光きらめくニースの海岸では

トップレスの女性達にドギマギ。足だけ水に浸けてもかなり冷たいため、出来たら泳ぎたいと言っていた主人も水着に着替えるのは断念。オモチャのような市内周遊トラムカーがあったので乗り込むと、あちこち回りながら山の上の城跡まで連れて行ってくれました。南仏らしい街並みと青い海が見下ろせ、いとも簡単に市内見物が堪能できました。帰路には結婚式の行列に何組も出くわし、何だかこちらまで幸福な気分になりました。

* ピサ(8月7日~8日)

ピサの斜塔は、時間を予約しガイドと共に少人数ずつが登っていました。夕方の到着だったので今回は7時以降でした。8時の予約をして、先にドゥオーモ見学と夕食。余りにも多くの観光客が登ったために、つるつるに光った大理石の階段を登って頂上に着くと、360度ピサの街が見渡せました。規制されているのでしょうか? 余り高いビルは無く、ほとんど中世そのままの街並みです。折しも夕陽で茜色に染まったドゥオーモが美しく、悠久の時の流れを感じました。

* ローマ(8月8日~11日)

初日はスペイン広場、トレビの泉等の歩いて行ける場所を観光。2日目は朝から地下鉄でバチカン市国へ。流石にバチカン美術館は見応えがありました。サンピエトロ寺院では、前法王パウロヨハネ二世のご遺体が安置されていてびっくり! 3日目はカラカラ浴場、真実の口、コロッセオ等を見学。歩いていると、こちらは〇〇宮、あちらは△△門という具合で、右を向いても左を向いても遺跡だらけ。ローマ市そのものが、世界遺産ということを実感できました。

* フィレンツェ(8月11日~12日)

近くのドゥオーモとウッフィ美術館を見学。ウッフィ美術館に並んでいる時、凄い嵐となってしまいました。屋根のある所でしたので濡れませんでした。外にいた人はずぶ濡れ。2時間以上も並び、替わりばんこで列を離れ、隣のベッキオ橋などを見物。(やはり込み合う夏は避け、春秋に訪れた方が良いでしょう…)

* ベネツィア(8月12日~13日)

サンタ・ルチア駅から水上バスに乗り、サンマルコ

広場で下船。途中、船上から見るベネツィアの家々は美しく、胸躍りました。ところが現実には狭い島の上にホテルやお店が密集しているため、息苦しいほどでした。迷路のような小路に付けられた番地は解りづらく、ホテルを探すのも一苦勞でした。サンマルコ寺院、ドゥカーレ宮(7m×22mの油絵は見応えあり)…などを見学しました。

*ミラノ(8月13日～14日)

サンタマリアデッレグラツィエ教会、ドゥオーモ、ダビンチ博物館を見学。ダビンチ博物館の様々な展示物が江戸時代後期の発明だと思ふと驚き！ ガラスの巨大なアーケード(ピットリオエマヌエーレ2世ガレリア)を散策。グッチやプラダ等の有名店がずらり。セールになっててもお値段の桁が違っていました。

*インターラーケン(8月14日～8月15日)

この旅で最大の列車遅延(ミラノで発車が、なんと1時間5分遅れ)で、インターラーケンに午後3時到着予定が5時になってしまいました。(列車の中で時刻表をめくり、トゥーン駅での乗り換え後の接続車を変更又変更し、ようやく到着できました)。インターラーケンは絵に描いたような山間の可愛らしい、美しい村でした。翌日は早起きして山岳鉄道でユングフラウヨッホへ。ハイジの世界からアイガーの氷河の世界へ可愛い電車で行け大満足でした。下山する頃に雨が降って来ましたが、その後10日以上雨が降り続き、後日そこが大洪水に見舞われたとTVニュースで知りました。私達が事も無く登れたのは幸運でした。

*ベルン(8月15日～16日)

スイスの首都ですから、もっと近代的な都市かと思いましたが意外に中世の色濃い雰囲気でした。時計塔や大聖堂を見学。大聖堂の裏手は公園のように整備され、清流のアーレ川が見下ろせました。

*ミュンヘン(8月16日～17日)

主人が2年前オーストラリアに熟年語学留学した際、パースで同じ家にホームステイしていたクラウドという青年と待ち合わせをしました。彼が7月始めに東京を訪れた時に主人が彼を案内したので、そのお返しで、今度は私達をミュンヘンで案



内してくれました。流石、土地っ子です。ブラウエン教会、市庁舎、王宮、デパート等を効率良く見せてくれました。夕食は アウグスチーナというビアレストランで仲良く3人で乾杯！ 楽しい、美味しいミュンヘンを体験できました。

*ローテンブルグ(8月17日～18日)

同じく主人がシドニーでホームステイしていた時、同じ家にいたキアラとクバのカップルが、車を飛ばしてプラハから会いに来てくれ



ました。私は2人と初対面でしたが、写真やメールのやりとりで知ってましたのですぐ打ち解け、4人で観光や食事を致しました。ローテンブルグの街は中世そのままのお伽の国のような所でした。スイス人のキアラがチェコ人のクバとプラハで同棲しているのですが、我が家の子供達と同じ年齢の彼等の生活ぶりは興味深いものでした。(主人は仕事で昔、ここを訪れたことがあったのと、二人の同級生に会えて、感無量の様子)。

*マインツ(8月18日～19日)

大きな駅には電光掲示板があり、外国人の私達でも分かり易いのですが、ローカル線は危険でした。駅員に確認して乗車するのですが、シュタインナハでは同時刻に列車が2本到着したのにアナウンスなど無いので間違えそうになりました。私達の隣にいた老シスターが教えてくださり、事無きを得ました。マインツはライン川下りの起点の落ち着いた街でした。夕方、大聖堂を見たり、川べりを散歩しました。

*ケルン(8月19日~20日)

5時間半のライン川下りはKDラインの船を使ったので、ユーレイルパスで無料でした。右に左に古城が見え、飽きることはありませんでした。前日のTVのニュースでベネディクト新法王様が故郷のドイツ入りをし、ケルンでミサを挙げられることは知っていました。また6月にホテルを予約した時にワールドユースデーというイベントがあることも判っていたのですが、実際にケルン入りして驚きました。各国の若い学生で身動きが出来ないほど溢れかえていたのです。浅はかな私達は、そこで初めてワールドユースデーの何たるかを知ったのです。世界中から集まったカトリック信者の若人が法王様と共にミサを挙げるために2年に一度、集う催しだそうで、駅の構内から人、人、人が繋がり、歩くことも出来ませんでした。主人の「昔、あのレストランで食事をした」とか「ケルンの聖堂には〇〇さんに行った」などのノスタルジックな話はすっかり吹き飛んでしまいました。翌朝、おじさんとおばさんは、這々の体でケルンを脱出しました。

*ブリュッセル(8月21日~22日)

町中路面電車が走っており、近代的なビルと古い建物が見事に調和している不思議な街でした。地下鉄だけでなく路面電車も地下を走る部分があり、路線図を見ていると頭が混乱しそうでした。サンミッシェル大聖堂、王立美術館、グランプラス等を観光。至る所にチョコレート屋があり、誘惑されっぱなしでした。

*アムステルダム(8月22日~25日)

列車が、ブレーキ故障とかでアムステルダムの手前で降ろされ、2回乗り換えて、ようやくアムステルダムの駅に辿り着きました。運河が縦横に張り巡らされた景色は物珍しく、運河沿いにぶらぶら歩くだけでも楽しいものでした。近くの国立博物館や、オランダらしい風車見物にザーンセ・スカンス(電車で20分程)にも行きました。この夏はヨーロッパは天候不順だそうで、南欧はとても暑く、ヨーロッパ中部は雨が多くて寒い日が続いているとのことでした。昼間は良いのですが、朝晩は10度を切る寒さでした。そんな訳で日光が恋しいというのでしょうか、2人共そろそろアジアへの里心が付き始めていました。(駆け足でしたが、それだけヨーロッパを満喫したともいえます)。26日、27日とシンガポールで美味しい中華を食べ、ヨーロッパでの疲れと時差を癒し(?)、日本に1ヶ月半ぶりに帰ってまいりました。

今回の旅は、駆け足のトライアスロン旅行でしたが、私達にとっては掛け替えのない楽しい旅となりました。5年後では体力的にきついでしょうから、今しか出来ない旅だったようにも思います。ヨーロッパのエキスパートの方から見れば、妙な旅だったかもしれませんが、私達にとってはオンリーワンの旅となり、企画してくれた主人と、支えてくれた皆様方に深く感謝したい気持ちでいっぱいです。

総日数47日間 ホテル宿泊数40泊 ホテル数7軒 機内泊3日 列車泊3日
旅行総費用 83万円×2 (内訳 航空券14万円×2、空港諸税2万円×2、ユーレイルパス9万円×2、寝台/座席指定券、手配料二人分19万円、ホテル代40万円、食費32万、アクティビティ代25万円)。
食費1日平均2名分 7,084円(昼食、夕食、飲み物)
アクティビティ代1日平均2名分 5,310円(地下鉄、観光バス、美術館等の入場料など)
ホテル代1日平均 10,080円(ほとんど朝食付)

以上

アフリカ紀行（チュニジア編）前号の続き

関東支部 40番 平澤 信

古都ケロアンへ

12月23日（日）。ホテル従業員達の勧めに従って、バスで1時間30分のケロアンへ。バス代2,34D（213円）。

ここで貰ったパンフレットによれば、「北アフリカにおける、イスラム発祥の地として、チュニスに首都が移るまでの9～11世紀頃までアラブ王朝の首都として栄えた。」と、書かれているが、今のケロアンは往時の面影はなく、オリーブ畑に囲まれた静かで、のどかな街であった。かつて栄えた街だけに、立派なグランドモスクだの貯水池だのと歴史を感じさせる建造物は数多く残っている、日本の団体ツアーも必ず立寄る観光名所だ。

モスクや霊廟は宗教を持たない私には、猫に小判なのだが、珍しく興味をそそられる物が2～3あった。その一つは、モハメッドが眠ると言う「シディ・サバブ霊廟」だ。宗教的にどれほどの価値を持つ物かは分からないが、壁、床、天井に見る、美しく統一の取れたアラベスク模様は、ギラつきも、てらいもなく、多分、誰が見ても心地よく感じる配色だったのではないだろうか。ここを見るだけでもケロアンに来る価値があると思った。今一つは、メッカからの水を、目隠ししたラクダが、20mの深さの井戸から水を汲み上げ、観光客に飲ませると言う、明らかな作り話の「ビル・バルータ」。嘘と知りつつ行って見る。モスクのような古い建物の中は、嘘をホントと言い包められる雰囲気があった。嘘メッカからの水を有難く頂いてみたら、癖のない中々マイルドな水であった。目隠しされて、1日中水を汲んでいるラクダを気の毒に思ったが、過酷な砂漠の生活よりは少し良いのかな？ラクダさんの生活も決したラクじゃない。

そして、ここはカーペットの産地でもある。女性が数人掛りで、1カ月も掛けて織り上げるという絨毯の実演を見た。コンピュータもな



メディナの若奥さんと

いの、複雑な文様がまるで手品のように織られていく、私は、見ただけで感動を通り越して、肩こりと目まいを感じた。この仕事を強制的に1カ月間やらされたら、多分、私は、即ノイローゼになり、生きてはいないと思う。

スファックス（日本人3人のホテルの値段）

12月25日（水）。ケロアンより列車でスファックスへ1時間30分の旅。

チュニジア第2の都市だけに、かなり活気が感じられる。長年の私自身の生活習慣からかビジネス街に来ると何となく落ち着く。現代的な街の創りとメディナが一体化していて、好きな街だ。観光の目玉があまりないので、日本人はいないと思ったのだが、メディナで関西系の日本の観光団に会った（私は始め、この野暮ったくて、がさがさした人達を中国人かと思った。私の偏見でした。）ほか、ホテルで夕食時2人の日本人男性にあった。1人は公務員、今1人は高校教師。冬休みを少し早めての旅だという。言われてみれば、この日はクリスマス。ここはイスラムの国なので、ジングルベルも鳴っていない。日本の暮れの街の喧騒を常々苦々しく思っている私にとってこの静けさは好ましいものに思える。

3人で旅の情報交換をしているうちに、「このホテル、いくらで泊まったか？」という話題になった。値引き交渉をしなかった公務員は29D（2,633円）、一応交渉をした教師は25D

(2,270円)、「長旅なので…」と真剣にお願いした私は20D (1,816円)。3人とも同じツインの部屋なのに、公務員氏とは1泊で817円の差が出た。ちなみに、西洋人達は25D (2,270円)が相場であった。公務員氏は「ホテルに値引きがあるとは知らなかった」との事。どうりで日本人は評判が良いと思った。2人とも40代後半の男性。

親切の押し売りさんと、日本製のラジオ

翌日、魚をモチーフにした美術品が展示されている港町らしい博物館に行ってみる。素朴で感じの良い博物館なのだが、受付嬢が、ガーガーと頭に響く酷い音のトランジスタ・ラジオを鳴らし、居たたまれない。「もう少しボリューム落として」と言ってしまうと解決するのかも知れない。でも、よそ者があまり大きな顔をして…。と、思って、「そのラジオどこ製？」と聞いたら、間髪いれずに「勿論日本製よ！」と言った。そして、日本のSONYについて、とうとうと弁じた後、「私の名前もソニアよ」と落ちもついた。話しながら彼女はラジオを止めたので、私は目的を果たしたのだが、今度は、ぴったり寄り添って、展示品の説明を始めた。ラジオは止まったのだが、スイッチの壊れたラジオのように話し続ける彼女の口は止められない。結局、彼女の無邪気な親切に付き合うこと小1時間。静かに楽しもうと思ったのに…。

しかし、日本人の前でSONYの説明してくれた彼女の度胸を思うと、「あのラジオは日本製ではない」とは言いそびれた。やっぱり正統派な言い方で、「ボリューム落として」と、始にお願いするのが正解だったと後悔することしきり。

魚市場とエルジェムの円形闘技場

12月27日(金)。朝、魚市場を見に行く。種類も量も鮮度も抜群。どうりで、この街のレストランの魚料理が美味しかった訳だ。見慣れた魚市場風景ではあるが、年配の男性が捻り鉢巻で、魚を高く持ち上げ「ササラ・ディナール(と私には聞こえた)」と言って体をくねらせて売っているのを見た。彼が何と言って

いるのか意味は分からないが、体ごと魚になり切っているように見えて飽きない。「安いよ!安いよ!」かな? アラビア語をお分かりの方はお教え願いたい。この後、バスに乗り、日帰りでエルジェムの闘技場に出掛ける。バス代3D (273円)。

エルジェムは、「かつてのローマ帝国の中では、最も豊かな都市として、2世紀頃は4万人が住むほど繁栄していた」。というが、今は砂漠化が進み、荒涼とした街の中にコロセウムだけが当時の面影を残している異様な風景だ。当時のコロセウムは、剣闘士の闘い、奴隷や罪人と猛獣との闘いなど残忍な闘技が行われていたと言う。本家ローマの物よりも遥かに保存状態がよく、アリーナの直径も65mと堂々としていて、見応えがある。

「7世紀、ベルベル人(この地の先住民)の女王カヒナは、アラブとの戦いに敗れ、追いつめられてコロセウムに立てこもり、炎に身を投じて自らの命を絶った。」と言う。虐げられたベルベルの民の大半は、今も貧しく、少数民族となってしまった。歴史とは、遺跡とは惨い過去を秘めている。燃えるような夕陽を浴びながら、数千年昔の女王カヒナとベルベルの民に思いをはせた。観光客はこれだけを見るために足を運ぶ。この壮大さは一見に値する。今このコロセウムは、世界遺産にも登録され、毎年夏には、フェスティバルが開かれ多くの人々を楽しませていると言う。やっと平和利用されたことに安堵感を覚える。

砂漠の巨大竜巻を見た

12月28日(土) スファックスから列車に乗る。美しい海岸線を走るのだが、30分も走ると緑はなくなり、荒涼とした砂の中を列車はひた走る。途中砂嵐で、線路が砂に埋まりはしないかと心細い。すぐ近くで、砂の巨大竜巻を見たときは列車ごと空を飛ぶのかと思ったほどだ。しっかり閉められた列車の窓の隙間から、砂が蛇のような生き物が舞うように入ってきたときは驚いた。列車の中は薄暗くなり、外は1メートル先も見えないという恐ろしい光景だ。列車は最徐行になったり、止まったりして砂嵐をやり過ごす。乗客は、巨大竜巻を見た



ホテルで結婚式 花ムコは53才

ときだけは少し驚いたが、列車がのろのろと走り出すと、物を食べ始めた。こんな状況の中で、よく物が食べられると驚いたが、砂漠の民は、強くなければ生きていけない。凄い物を見た。旅をする度に真摯な気持になる。

ガベス (男の結婚適齢期53歳!?)

列車の終点ガベスは、特に見たいものもない。が、時間長者も体力はなく、マトマタへ一挙に行くのは疲れるからしばし逗留したと言うのが本音。ホテルは、ガイドブック掲載のホテル。レジナ (普通のビジネスホテル風) 11D (1,044円)。「夜結婚式があるため、夜中の2時頃までかなりうるさいが良いか?」と念を押された。そしてホテル代をかなり安くしてくれた。「結婚式を見せてもらって良いか?」と尋ねたら、「一緒に祝福してあげて欲しい」とのこと。私は内心「しめた!これで今夜はご馳走にありつける」と思った。

結婚式は夜8時半頃から大音響の生演奏と共に始まり、とても部屋でくつろぐ事など出来ない。仕方なしに中庭に出てみたら、美しく着飾った大勢の男女が輪になって踊っている。9時頃、皆の拍手の中、雑壇に28歳くらいのセクシーな花嫁さんが1人座っているが、花婿はいない。大勢集まった人達にはお茶一杯、食べ物一口振舞われる事はなかった。晩ご飯食べておいて良かった!あてにしていたら食べ損なうところだった。10時頃、花婿らしき男性が現れた。しかし、その男性は、花嫁の父親かと思うほどの年齢(53歳)であった。バンドマンの若い男達に、「第3夫人か?」と聞いてみたら、「いや、彼は初婚だ。チュニジアは豊かではないので、きちんと花嫁を迎えようとするれば、あのくらいの年齢になる」との返

事だったが、本当かどうかは分からない。花嫁さんの艶やかさにくらべて、あまりにも貧相な花婿の姿に「人間容姿ではない」とばかりも言い切れな気がした。結婚式も終わりに近づいた夜中の1時頃、大皿に山盛りのクッキーが、一枚ずつ参加者に振舞われた。今夜のご馳走はこれだけ。どうりで、どんなに大勢の人が来ても平気なのだと思う。

ベルベルの民が住むマトマタへ

12月29日(日)マトマタは、ベルベルの民が、ひっそり暮らす砂漠の中の集落だ。広大な砂原に各自が大きな穴を掘り、更に横穴を掘って住まいにしている横穴式住居。だから、どのくらいの戸数があるのか数えられない。電気も水道も引かれていて、住みにくくは無さそうだが、では、住んでみたいか?と言われれば、それは別問題だ。

ベルベルの家を買取り、ホテルに改造している所に泊まって見たいと思ったのだが、マトマタへ行くバスの中で、一緒だったご機嫌なハンサム氏(45歳位?)が、「あんな所、シャワーも水で、食べ物もベッドも最悪!旅の印象が悪くなる」と言う。「お勧めはどこですか?」と聞いたら、ガイドブック掲載の、砂漠の中なのにプールも付いている良いホテルを勧められた。ベルベルの横穴式ホテルへの未練もあったのだが、長旅なので、風邪でも引いたら一大事との思いから、彼の助言に従う事にした。ホテルの前にバスが着くと、かいがいしく私の荷物を運んだり、従業員に指示を出している。

「貴方は誰?」。彼はニッコリ笑って「私、ここのホテルのオーナー、よろしく...」。どうりで、普通の地元の人より、一味も二味も対応が違っていた。してやられた!の感も無い訳ではなかったが、客に対する暖かい気配りが感じられたので、腹立たしい気分にはならなかった。ホテル代は1泊20D(1,822円)。朝食付き。ここに住むベルベルの民は、何を持って生業としているのか?誰に聞いても、幾ら聞いてもはっきりとしない。観光客に家の中を見せてお金を貰っている人も居たが、生活の足しになるほどではないと思う。オフ・シーズンで観光客も少ないこの地で、ベルベルの民と素

朴で、懐かしいような不思議な数日間を過ごした。

砂の界ドーズ（砂漠で風邪を引く）

1月1日（水）。朝10：30ホテルを出て、午後1：30ドーズ着。バスで移動中、お昼休みに気温を見たら36℃あった。乾燥しているせいか日陰は暑くない。ドーズの街は、砂砂砂の正に砂漠の街だ。日中36℃あった気温も、夜になると20℃以下に下がる。こんな所にも、人は住まなければならないのか？ 緑と言えば、砂埃をかぶった椰子の木だけ。街全体が鉛色。家畜にやる草も、草専門の農家から買って与えている。

ドーズへ着いた翌日の木曜日、ホテル近くの広場で、「家畜市」が開かれていた。紐で足や、首をビニール紐で縛られ、繋がれた、羊やヤギ、ロバ、馬、牛達が広場一杯に運び込まれている。何がなし憐れな気がしてならない。特に、生後間もない、まだ臍の緒がついたままの、黒い小ヤギを見たときは、思わず手が出て小ヤギを抱き上げてしまった。何もかも怖かったのであろう、プルプルと震えながら「ウンメー」と赤ちゃんヤギが泣いたときは、私も泣きそうになってしまった。この小ヤギを売りに来た農家は、私の心中を察したのか、「この赤ん坊は大きくなるまで大事に育てられるから大丈夫」と言った。あの旅から丸2年、あの子はもう食べられてしまったのだろうか？ 臍の緒を付けた小ヤギの温もりが、今も懐かしく思い出される。

ラクダに乗って大サハラを！

ドーズは、「砂漠観光」が売り物。だから、大枚70D（6,380円）を投じて、ヴェトウィン



家畜市の小ヤギ

の青年が引くラクダで、サハラ砂漠1泊2日の旅へ。食事や泊まるテント等、ここでの生活の全てをこの青年が世話してくれる。

澄み切った青空と、シミ（？）ひとつ無い白い砂丘を見ていると、言葉にならない感動を覚える。風で風紋が描かれる様子は、1日見ても飽きない。御者の青年の名は「アリ君」34歳。砂漠を歩きながら、ビートの効いたアラビア音楽を口ずさんで私の旅を盛り立ててくれた。彼は、日本にも砂漠の歌はあるかと言う。だから、私も歌った「月の砂漠を♪」。だが、強烈な陽射しを受けて歌う「月の砂漠」は、かなり間が抜けていた。アリ君も「変な歌だね」といい2度と歌えと言わなかった。

彼は独身で、私が何歳かを気にしているようであった。何歳だと思う？と聞くと「35歳」と答えた。60歳を過ぎて30代に見られたのは初めてだ！ 独身の彼に結婚を申し込まれても困る。さりとて、あまり年寄りと思われるのも…。と見栄を張って46歳と答えたら、かなり驚き、以後歳のことは言わなくなった。驚いた事に、彼は、広島・長崎に原爆投下があった事を良く知っていた。TVで見たという。日本は今もあの惨状のままだと思っているようだ。彼曰く、「やったのはアメリカなのに、日本は、アメリカと仲がいい。もう日本人は怒ってはいないのか？それは何故だ？」。地の果てのサハラで、こんな重いテーマを突きつけられるとは思わなかった。更に「ヴェトウィンも屈辱的な歴史がいろいろあった。けれども、心の中では決して許しはしない」と強い口調で言う。原爆に対する、確たる哲学を持っていない、平和ボケしている自分に恥じるばかりであった。

アリ君の説教を聴きながら、ラクダの上の私は、広げた足の、太ももの内側の筋肉が痛くて死にそうであった。それに乾燥している砂漠は意外と寒かった。草も木もない砂漠だが、時々遠くに行く他のキャラバンが見えるせいか、この静寂のサハラで不安感や、寂しさを感じる事はなかった。夜、全く灯りのないサハラのゲル（羊の毛で編んだテント）から見た星空の美しさを言葉で言い表す術を私は知らない。濃紺の空から星が落ちてきて突き刺さる

ような気がした。人間が、アリになったように感じる。この晩、かなり寒いゲルの中で、各国の人達と星を眺め、砂の大地で眠った。旅は本当に奥が深い。

砂漠の旅から帰った時、私はすっかり風邪を引いていた。体温38℃。高熱ではないが、喉は痛み、黄色い鼻汁が出る。ヨレヨレになってホテルに帰ったら、マネジャーが私にだけ、そっと電気ストーブを用意してくれたうえ、熱々のレモンティを入れてくれた。

インドでは、どこへ行っても紅茶と言えば全て甘いミルクティだけであったが、さっぱりとしたレモンティを飲むチュニジアの民に親近感を覚えた。折角の電気ストーブであったが、600ワット2本を同時に点けるとブレーカーが落ちて、ホテル中が真っ暗になってしまった。砂漠で水と電気はかなりの貴重品。軟弱な日本人、ここでも思い切り贅沢をさせて頂いた。ホテル・メディナの宿泊代、1泊20D (1,823円) 朝食付き。

トズール (夏は48℃。太陽は諸悪の根源)

1月6日 (月)。アルジェリアとの国境に近い街トズールもサハラに近いため埃っぽい。日干しレンガで作られた美しいグレーの幾何学模様の建物が、街の大通りやメディナを飾っていて趣がある街だ。これと言って見るものもない街なのだが、ここが一番チュニジアの平均的街並みの気がする。土曜市場で沢山の日本人観光客に出会った。多分リン鉱山の町メトラウイの渓谷やチュニジア最大の塩湖ショット・エル・ジエリドを見に行くため、ここで1泊したと思われる。団体客の多くが、自分が今日どこへ連れて行かれるのかも分からず、はしゃいでいる。

しかし、日本での日常生活の中で、大人がこれほどまでに「はしゃぐ」事はあまりないと思う。やはり海外旅行は、人の心興奮させ、リフレッシュしているに違いない。ここまで来ると物価は安く、スープ、サラダ、メインディッシュで4.4D (400円) くらい。ホテル代も13D (1,185円)。内3D (273円) は暖房代。夏の気温は普通48℃にもなるという。だから、ここでは20℃くらいでは暖房を欲しがるとはい

ないらしい。寒がりの私は、特別料金 (3D) を払って暖房を入れてもらった。機械が古いのか、部屋の中は工場の中のように凄い音がる。かなり気になったので、発想の転換をして、飛行機に乗っていることにした。すると、きちんとしたベッドも、暖かい風呂も、机もある…。結構なお宿に変身した。

フロントの女性に、「今日は陽射しが暖かくて嬉しい」と言ったら、「太陽ほど嫌いな物はない。全ての物を焼き尽くす」と、吐き捨てるように言った。砂漠に近いドーズでは、今、つかの間の涼を楽しんでいるようであった。だから夏の間は、ウツカリ道端で長話でもしていたら、それは即、命取りになる暑さで、死が日常と向かい合っていると言う。そう言えば、JICAで働く人が言っていた。「日本は女性の地位が低い」とアフリカ人達に言われたので、そんな事はない、「原始女性は太陽であった…」と言う諺があるほどだと言ったら、アフリカの人達は「日本の女性は、そんなに大昔から嫌われ者であったのか？」と、真顔で聞かれたとか。

ホテルのベランダから見える荒涼とした「きな粉」を敷き詰めたような更地は、ここに住む人達の「墓地」であった。人が亡くなると穴を掘り土葬にするとする。暫らくの間こんもりしているが、1~2年すると平地になり、人々は大地に帰る。後は誰の墓か分からなくなる。自然で、おおらかな習慣だと思った。

広大な墓地の中を黒衣をまとったご婦人が時折通り抜ける。さながら、禿げ鷹の化身が墓地に舞い降りたようでドキッとする。

ラクダの頭が乾草くわえて

観光客はめったに行かない、この街のメディナの精肉店で、切り落とされたラクダや牛の生首が、草をくわえさせられて、壁に掛けられている。私には息を飲む風景に思えるのだが、これが、ここの生活習慣。「何の肉を売っている店かすぐに判るので合理的」と彼らは言う。牛もラクダも生前は重い荷物を運んで人を助け、最後も人の命を繋いでくれる。憐れさと申し訳なさと胸が一杯。掛かりつけの神を持たないわが身であるが、この世で、人間に生まれて来た事の幸運を感じずにはいられない。ラ

クダや牛さんの神々しいばかりの平和な顔が救いであった。

メディナの中の庶民の暮らし

ラクダの生首を見た後、辛い浮かぬ気持で、メディナの中を歩いていると、道端を掃除中の笑顔の爽やかな30代半ばくらいの、若奥さんと目が合った。軽い気持で、「家の中を見せていただけますか？」とお願いしたら「喜んで、サーどうぞ」と、何の迷いもなく、扉の大扉を開けて中へ招き入れてくれた。門の中は、100㎡ほどもあるパテオ（中庭）になっていて、燦々と陽のあたる場所に「そら豆」が乾してあった。4～5歳くらいの子供達が3人「ままごと」をしていて、それはのどかな風景であった。

若奥さんは、台所から、納屋、使用人の部屋から寝室の中まで隈なく見せてくれたうえ、コーヒーまで振舞ってくださった。家の中は清潔で、よく整頓されている。広々としたリビングにはお花も飾ってあって、まるで私の訪問を待っていてくれたかのようで嬉しさも格別であった。本当のことを言えば、この時、ご主人も出てきて、晩ご飯をも勧められたのだが、それだけは硬く辞退した。旅先で出会うこんな親切は、心底嬉しく、柄にもなく目が潤む。多分この生活は、中流以上の暮らしだと思う。ここの生活について聞きたいことが沢山あったが、彼女は、フランス語に少し英語の混じる言葉であったため、私と意思の疎通を図るには少し無理があった。でも、彼女の温かい心は充分に通じて、立ち去りがたい思い出がまたひとつ、私の心の蓄積となった。

日本では、旅人が、突然家の中を見せて欲しいと言っても、快く招き入れ、寝室まで見せてくれるお宅があるだろうか？とチュニジアの民の無防備とも思える親切に、なぜか切ない気持に襲われた。

ガフサ～メトラウイ

レトロな電車レーザーラージュに乗って

1月12日（日）。チュニジアの旅も終わりに近く、最後の訪問地となったガフサ。

ここから、リン鉱山の町メトラウイまでバスで

20分。メトラウイから、渓谷を走る山岳電車に乗って、大パノラマを見るのがこの観光地の目玉。レトロな雰囲気レーザーラージュ（電車の名前）の車内は、世界各地からの観光客で賑わっている。ヨーロッパ、特に、北欧からの旅人が多いと車掌から聞いた。食堂車も、ラウンジも付いているグリーン車風で、座席が、窓の外側向きに設えられて、景色が良くみえるようになっている。草も木もない、茶色のこの山岳地で、どこからか、水が沸いて来る。乾いた大地を潤している様子を眺めていると、生き生きして来て、人間も動物である事をつくづくと感じる。

この電車には、日本人観光客が多く乗っていたためか、ほろ酔い加減のイタリア人の小母さんに「日本から？ ツアーでしょう？」と聞かれたので、「いいえ、1人旅です」と答えたら、「ウァーこの人、日本から1人で来ているんですって！」と両手を挙げて、後ろにのけ反って同行の仲間に教えていた。あまりに大げさに驚いたので、私は、ムツとして、「別にイタリア人が、のけ反るほどの事でもないでしょう！」と、日本語で言っただけを見たが、日本人高齢者の1人旅が、イタリア人には、かなり珍しく見えたようだ。だが、かく言う彼らも、殆ど団体に旅をしていた。雨が降らないからこの辺りは、砂漠になってしまった。しかし、私達が訪問した折には、前日から、かなり沢山の雨が降った。そのため、電車の出発が1時間遅れると言うハプニングもあったが、水量が多く、轟々と渦を巻いて流れる砂漠の川を見ることが出来たこの日の参加者は、むしろ幸いだったと思う。

チュニジアの旅も終わりに近く…。

1月15日（水）。37日間のチュニジア一周の旅も終わりに近づいた。治安が良いと聞いていたが、世界一良いと思った。人々は穏やかで、申し訳ないくらい親日的であった。チュニジアの皆さん有難う！思いで深い旅でした。

この後、チュニスに戻って友人と会い、カルタゴ観光や、チュニスの市内観光をして、8日間共に過ごした後、私は、次の訪問地、モロッコへと旅立った。

女性特集！

これから滞在地選びをする場合の「期待と満足度」を考える

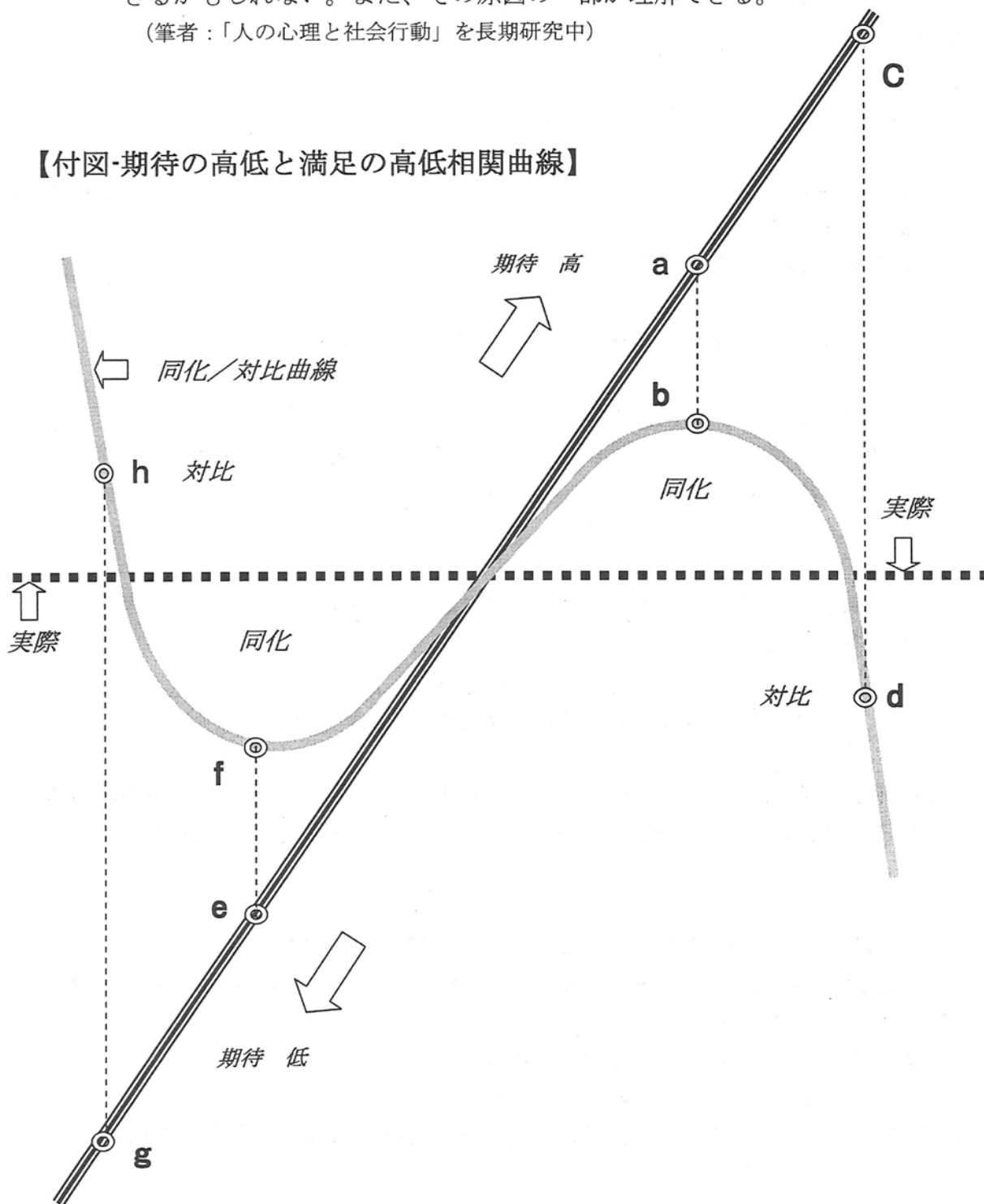
岐阜県在住 会員No.554 笠井 幸司

始めに；本書は、ベテランの会員には無益な情報であるかもしれない。

これから滞在地を探す会員には、彼の地への期待とその満足度は、「自身が内包する心理面」から派生してその満足度は、無意識のうちに変化させていることを知ることによって、「滞在開始後に期待はずれ」を予防できるかもしれない。また、その原因の一部が理解できる。

(筆者：「人の心理と社会行動」を長期研究中)

【付図-期待の高低と満足の高低相関曲線】



1. 期待度と満足度

人の心理と行動を理解して「期待と満足／不満足」の心理的变化を知り、期待度と結果の満足度がどのような相関関係にあるのかを知ろう。

付図の解説

付図は、当初の期待度の高低と結果の満足度の高低を表し、斜線は期待度を表し、右斜め上ほど期待は高く、左斜め下ほど期待は低い。満足度は同化／対比曲線で表してある。曲線域は、ほぼ正規分布としている。

実際の結果は一定（水平線上にあると推定）に設定してある。

① a点は、当初の期待がやや高い場合。

このとき当初に期待した人は、自分の期待度を正当化したい心理や欲求を生み出し、実際の結果（水平線上で一定）を自分の期待に引き寄せ、結果としての満足度をb点と認識する。

結果を変動させ満足度を期待度に引き寄せる心理を同化心理（親和）と言う。

この同化の値は、当初の期待度の値によって変化している。

② c点は、非常に高い期待を持つ場合。

このように当初、非常に高い期待をした場合、実際の結果（水平線上で一定）を自分の期待から遠ざけ、その差を実際以上に大きいと認識し、①の同化心理とは逆の反動が生じ、満足度をd点と認識する。（当然、ぴったり合致もある）

この様に、実際の結果と期待の差を過大評価し結果を変動させる心理を対比心理（対立）と言う。

この対比の値は、当初の期待度の値によって変化している。

この【付図】のモデルは、人の「同化と対比の心理」を表し、曲線の山部は、「同化心理」を、両端は「対比心理」を示している。そして多くの心理学者が認めている。

これは、

○購買意欲 ○職場における立場 ○群集と集団の心理

○正解と思う側へ移動させるクイズでの行動（正解がわからないとき、自分の嗜好や期待する側に移動する）

○異性を自分の方に引き寄せる心理

○災害発生（被災してしまう）の原因

など多くの「人の心理から引き起こされる社会行動」にみられる現象である。

このことから、私達は、長期滞在の候補地として、当初の期待度を

「やや上回る点に位置させ当地を視察する」と心理的に、結果を期待に引き寄せ実際以上の評価（満足度の向上）をしてしまうので注意すべきである。

大きすぎる期待を持って候補地を視察すると、期待と実際のギャップを過大に認識し対比効果（不満足）を招くので注意すべきである。

- ③ やや低めの期待 e 点は、結果を低めの f 点に引き寄せてしまうので得策ではない。（不満足増加）
- ④ 期待が著しく低い g 点の場合は、対比効果 h 点があるが、始めから低すぎる期待は、候補地としての意欲と結びつかない。

《 考 察 1 》

自分が志向する候補地へのこれまでの行動、研究した知識、実体験から他者にその地を勧める場合、注意しないと相手が期待度を変化させてしまい、その結果の満足度を知らず知らずの中に実際以上（以下）の評価をしてしまう事を知っておこう。

このことは、相手を不幸にさせてしまうことにつながりかねない。

《 考 察 2 》

自分と他者が志向する候補地が一致している場合は、自分のこれまでの行動、研究した知識、実体験から他者にその地を勧める場合、他者には「お勧めに値する国（地域）です」といった、やや控えめの、しかし自信のある言い方が他者の心理をつかんだ言い方になるであろう。

2. 滞在地選びの方法を考える

以上、期待度と満足度は、その人の心理で変化していることを知った上で、私達は、【安く・楽しく・安全に】どのように考え、行動すれば失敗しないで、高い満足度を得られる滞在地を見つけることができるのでしょうか。

- ・ 視点を広範囲におき、情報収集～体験してみる
- ・ 一地区集中志向で
- ・ 2, 3の候補地を絞り込んで
- ・ 先輩諸氏からの情報、意見・評価で判断
- ・

等、多くの情報収集や行動計画があります

《 情報収集～評価～判断について 》

机上の研究、先輩諸氏の情報、意見・評価、他者の実体験発表などは、情報でありその情報の正確度、自分の志向性との整合、などを総花的でなく、主体的に判断し、自分にとってその情報は有益かどうかは自分が評価し、有益な情報のみ取り入れるように心掛けることが肝要でしょう。(自分に有益でも他者には無益も当然ある)

人は、文字情報(新聞・関係情報誌など)、メディア情報は正しいと錯覚することが多い、しかし各種の得た情報は単なる情報であり、正しいかどうかは、自分が判断する他はないのである。そして無意識の中、心理的に満足度を変化させている。

3. 私の滞在地選びの方法

国の歴史(日本との関係) 危険度 宗教 文化 食文化 医療 政治(政局)
言語 インフラ 交通(日本との利便性) 情報収集の難易性 等を把握しながら

どこへ、なぜ、誰と、何時、期間、費用、何をして(自身は、自然体験・地域貢献)を要素として評価しながら ①観光旅行で浅く広く情報収集→ ②個人手配旅行→ ③ショートステイ(1週間程度)→ ④ミドルステイ(1ヶ月程度)→ ⑤ロングステイ(3ヶ月以上)と伸ばしながら滞在地を絞り込んでいきます。

今年は、ボルネオ各都市の住環境を概ね把握できたので、「自然環境保護」をこれからのライフワークに加えるべく、植林や国立公園の熱帯雨林と洞窟巡りを兼ねて地元の人々と交流を深めようと行動しています。

以上

東海支部 2005 年度 4 月～9 月の活動状況

東海支部長 横井保夫

東海支部 2005 年度前期の活動状況につき、その概略を報告いたします。

● 東海支部定例会、サロン会、平日サロン会

(懇親会は定例会、サロン会の後、場所を替え開かれます)

開催場所は:

- 1) 定例会、サロン会…愛知県青年会館(3F)会議室
- 2) 懇親会…名古屋観光ホテル(1F)ジャルダン
- 3) 平日サロン会…ホテルアソシア(9F)エスペランス

4 月	定例会	34 名	平日サロン会	27 名
5 月	サロン会	26 名	平日サロン会	23 名
6 月	サロン会	30 名	平日サロン会	9 名
7 月	定例会	23 名	平日サロン会	12 名
8 月	サロン会	13 名	平日サロン会	9 名
9 月	サロン会	29 名	平日サロン会	11 名

《支部定例会等の出席状況(オブザーバーを含む)》

議事内容、特記事項は以下のとおりです:

(敬称略)

2005/4/10(日)4月定例会

- 445 山本信:平成16年度東海支部事業報告
 554 笠井幸司:インドネシア・バリ島旅行の報告
 719 佐伯孝廣:キャメロン・ステイの報告
 094 高橋昭:東京役員会の報告
 487 横井保夫:愛知万博下見会について
 横井保夫、笠井幸司:支部主催のツアー計画
 オブザーバー 伊藤保:ペナン島の素晴らしさ

2005/4/18(月)4月平日サロン会

- 558 チェンマイ支部長 伊沢豊様ご臨席

2005/5/8(日)5月サロン会

- 570 山田善一:東海支部会員数の現状報告(*)

749 山本義典:ペナン島・ツアーの報告

643 鈴木憲介:5/16 愛知万博見学会について

横井保夫、笠井幸司:支部主催のツアー計画

094 高橋昭:Skype(スカイプ)について

* 本年3月末の支部の会員数は80名(前年7月より10名増)

2005/5/16(月)5月平日サロン会

見学会を兼ね、開催場所を愛・地球博会場としました



《愛・地球博会場にて～記念撮影》(写真提供:岸祥介様)

2005/6/12(日)6月サロン会

- 094 高橋昭:南の会支部長会の申し合せ事項
 793 北島長一、栄子:フィリピン・ツアーの報告
 出席者全員:東海支部に対する要望事項
 554 笠井幸司:海外移住は甘くない
 (海外日本人の陥る落とし穴について)
 最後に分科会単位で、討議が行われました。
 (支部主催ツアー、hotmailについて)。

2005/6/20(月)6月平日サロン会

2005/7/10(日)7月定例会

- 094 高橋昭:LS適地としてのブルガリアについて
 563 松井巳和子:マドンナ軍団、チェンマイに滞在
 556 酒井靖夫:ベルギー・ツアーの報告
 出席者全員:東海支部に対する要望事項



《支部主催ツアー～華麗なバリ舞踊》(写真提供:山本義典様)

2005/7/17(日)ミニサロン会

開催場所:ホテルアソシア(9F)エスペランス

(出席者数:9名)

227 バギオ支部長 齊木一様ご臨席

2005/7/19(火)7月平日サロン会

110 パース支部長 藤本靖人様ご臨席

万博ブルガリア館勤務の Bulgarian ミトコ君も出席

2005/8/21(日)8月サロン会

749 山本義典:バリ島・ツアーの報告

741 村田千岳:オーストラリア・ツアーの報告

779 中田宏:ボルネオ・ツアーの報告(*)

出席者全員:東海支部に対する要望事項、

554 笠井幸司:8/31 マレーシア独立記念日の行事
バギオ会友山田勝也様の奥様:バギオ・フラワーフェスタへの協力依頼《連絡先: baguiokejeb@aol.com》

(化粧の大人の浴衣など提供をお願いします)

* ジャングルの動物たちの生態をプロジェクターを使い、リアルに伝えていただきました

2005/8/29(月)8月平日サロン会

495 ペナン支部副支部長 石原彰太郎様ご臨席

2005/9/11(日)9月サロン会

487 横井保夫:支部長挨拶、支部役員会 9/3 の報告

570 山田善一:東海支部メーリングリスト(概要)(*)

554 笠井幸司:同上(詳細)

554 鈴木憲介:ニュージーランドのLS(概論)

オブザーバー三又幸子:同上(体験記)

《基本的なメールのマナー》

- * 個人的な文通は直接相手に送る私信として出しましょう
- * 東海支部限定の話題は東海支部メーリングリストで
- * 南の会全体で共有したい話題は南国メーリングリストで

2005/9/20(火)9月平日サロン会

バギオ会友山田様の奥様、悦子様ご臨席

● 東海支部愛・地球博見学会

5/16(月)、晴天に恵まれ、23名が参加されました

● 支部主催ツアーの参加状況

6月末～8月、ボルネオ、チェンマイ、およびバリ島へのツアーに多数の参加をいただきました

7/09--7/23		554 笠井幸司(御夫妻)
7/09--7/17	コタ・キナバル→サンダカン→ビリ村→コタ・キナバル→クチン	719 佐伯孝廣(御夫妻) 779 中田宏 788 大塚武尚

《支部主催ツアー(ボルネオ)の参加状況》(敬称略)

(*) 8/17--	チェンマイ	589 小坂宇治夫(御夫妻)
6/28--8/25		487 横井保夫
6/28--7/25	チェンマイ→バリ→チェンマイ	549 松本美代子 679 中山初代
6/26--7/25		963 末永譲(御夫妻)
6/28--7/07		563 松井巳和子 704 前田靖代
7/12--7/15	チェンマイ	840 岩田彬
8/04--8/18		154 井野寛紀
8/15--8/25		487 横井範子
7/07--7/14		445 山本信
7/02--7/12	バリ(ウブド)	420 森康人 530 浅野光利
7/09--7/19	バリ(クタ)、バリ(各地)	749 山本義典(御夫妻)

《支部主催ツアー(チェンマイ・バリ)の参加状況》(敬称略)

* 589 小坂宇治夫様(御夫妻)は、年金ビザを取得され、チェンマイにてロングステイを開始されました

関東支部便り

関東支部東京関係地区割り打合わせ会議

(2005年7月31日)

関東支部の地区分けは同じ支部員がサービスの受益に差が出ないようにとの趣旨(情報均等化)で分類したMLの無い会員への連絡網であります。しかし新宿・町田・吉祥寺地区の方々より活動実施に伴い地区割りの問題(所属地区)が生じたので調整をしたいとの要望があり関係各位のご参加をいただき討議致しましたのでご報告申し上げます。

この問題の発生原因はこの地区が各々近接した地域にあり交通の便利な方に所属したいとの希望が出てきたことの為です。

*決議事項

- (1) 地区割りの目的である地区内連絡網機能に所属地区会員の活性化対策(地区会、研修会、懇親会等を通じ同地区会員間のコミュニケーションアップを目指すことを)を付け加えることとした。
- (2) 新地区割りは新宿地区(新宿・品川・吉祥寺の大部分)、上野地区(上野・池袋)、町田地区(町田・一部吉祥寺を含む)の3地区にする。
以上の区分けによる新名簿を作成する。
- (3) 所属地区以外の催しへの参加は自由とする。
- (4) 連絡手段は電話・FAX(経費は支部に請求)で行い、葉書は当面使用しない。
- (5) 地区の活動の会計報告は関東支部へ提出する。
- (6) この打ち合わせ事項は新地区割り名簿配布後(三ヶ月更新予定)から実施する。

サロン会報告

6月の総会以降のサロン会の実施下記

- 1) 7月10日サロン会
- 2) 8月13日サロン会
- 3) 9月は「那須温泉の旅」バス旅行を開催

8月度サロン会報告 8月13日

(メールリンク報告抜粋)

サロン会、懇親会に合計50名の方がご出席されましたので下記ご報告いたします。

サロン会は次の要領により行いました。

1. ご出席者をビジターグループ、新入会員G、その他Gの3グループに分けました。
2. ビジターGには高田理事、小林理事が担当し会の目的・活動案内などオリエンテーションを行い、その後目標とする国に詳しい会員と情報交換を行って頂きました。十分な時間をとりましたので大変喜ばれたようです。
3. 会員番号850～900番台の新入会員Gの方には、阿部(功)さん、宮崎が担当し、阿部さんが「メーリングリスト」に関するエチケット・マナーについて、宮崎が「各海外支部でのマナー」のお話をしました。
海外各支部長から色んなクレームが来ており、これから訪問しようとする方々には最初が大事なため、訪問時の守るべきマナーについて詳しくお話申し上げました。ベテランでも自分で気がつかなくてマナー違反犯すことがあります、きめ細かいマナーの「べからず集」を作ることの要望もありましたので要検討です。
4. その他ベテランGの方々には個々に情報交換・懇親・近況などフリーにお話できる時間を作りひさし振り出席の会員とも自由に話が出来満足を得られたようです。
5. おなじみ「ドクター磯崎健康相談コーナー」も定着しました。今回も数名の方が相談されました。十分な時間をとったご親切なアドバイス大変ありがたく感謝申し上げます。

しかし磯崎ドクターもLSしますので毎回とは行きません、開催時のチャンスを逃さない様にしてください。

9月度一泊バス旅行報告 9月11日～12日

関東支部年間計画のなかで予定していた「一泊バス旅行会」をサロン会を兼ねて「那須高雄温泉」にて9月11日(日)行いまし



たのでご報告致します。参加者：29名でした。

北関東（栃木・群馬地区）のご参加者が7名あり、北関東地区会発足機運が盛り上がりタイミングの良い企画となりました。年内に他に大勢居られるこの地区の会員の方々と発足会を開催予定。到着後温泉に入りリラックス、宴会場では自己紹介を肴に宴は進み日頃お会いできない会員との交流、温泉での文字通り裸のお付き合、帰宅を心配しないで済む懇親会、カラオケ等々で大いに楽しみました。

女性陣は 女性同士の旅友（旅の友達づくり）話で盛り上がり早速何組かの旅行計画がまとまり、具体的な行動計画が話し合われたようです。今後もこの旅友の輪を広げていきましようとして住所や電話番号を交換していました。

翌日は見事な秋晴れに恵まれ途中、那須の牧場、湖での散策を楽しみ帰路につきました。

費用：6,000円（一泊2食、往復バス代、保険料、写真代込み 但し飲み代、昼食2回分は含まず）大変経済的に実施でき好評でした。

今回の旅はツアーコン・司会者・企画・ホテルとの交渉等一切のお世話は市東副支部長が行い、これにボランティアが援助を行うことで実施。今回の旅では一人の遅刻者も事故もなく大変規律も守られ、協力的な会員の方々のレベルの高さに感銘いたしました。

次回 サロン会開催予定

・11月13日(日) ・12月11日(日)

場所：大崎南部労政会館

・問い合わせ連絡先 03-3472-9916

関東支部長 宮崎 哲郎

関西支部便り

関西支部長 三谷 昌鴻

1. 関西支部実情

「南国暮らしの会」関西支部の担当地域は、関西支部役員になった1年ほど前に初めて認識して驚きました。関西とは安物の辞書をひくと「京都と大阪を中心とする地域」となります。関西支部の担当地域は、関西だけでなく、富山新潟を除く北陸、近畿、山口を除く中国、四国となります。関西支部と云うより西日本支部にちかいです。この広い関西支部の会員は約80名でそのうち約30名が関西地域の会員なのです。これでは関西支部会員のなかに関西支部に属する認識のない人がいるやもと、取り越し苦労をしております。

2. 平成17年度支部人事

平成16年度末の3月に一大事件が起きました。会員の多くは既に御承知だと思いますがあらためて報告します。平成16年度とは云っても平成17年度の中ほどまでその尾を引いた事件だったのです。それは、森川支部長が理解できない理由で辞任、そして退会されたのです。この原因を探してみましたが、本人が出てこられないことから真相はヤブの中で、究明には本部役員さんにもいろいろとご迷惑をかけました。考えられる理由はたくさん挙がりましたが、推定されるものの真相は分らずじまいでした。

支部長不在では支部が成立しないため、平成17年6月26日にあらためて新体制を立ち上げました。すなわち、支部長&総務担当を三谷昌鴻（会員No. 147）、副支部長は不在、会計担当を吉田孝輝（会員No. 588）、広報担当を大木研一（会員No. 618）、書記担当&管理担当を若原里美（会員No. 739）、催物担当を丸山健一（会員No. 672）、調査担当を松浦節子（会員No. 395）としました。これれで関西支部の活動に勢いがついたかと思いましたが、平成17年8月8日に催物担当の丸山健一氏が南の会を退会し、失速です。退会の理由は働きながら役員活動は時間不足

だ云うことでした。

関西支部の会員の皆さまにお願いがあります。支部役員としてなにか手伝ってやろうと思われたかはありませんでしょうか。前に書いたように関西支部の会員は少なく、まして京阪神のかたは更に少ないのです。京阪神にお住みのかたは全員が支部役員になって欲しいくらいなのです。老若男女にこだわらず多くのかたの申し越しをお待ちしています。

(メールでOK。関西支部長のアドレスは mm-mitanimitani@nifty.com)

3. 支部活動

森川支部長退会にともなう関西支部役員人事のゴタゴタのため6月に開催すべきだったサロン会を流してしまいました。すなわち、森川支部長退会の原因が明らかにならない以上、支部会員に説明のしようがないと考えました。

平成17年7月3日にかねてより使っていた大阪市立青少年文化創造文化ステーションで関西支部総会を開きました。(参加者：36名) 主要な話は、

- ① 新役員の紹介とあいさつ
- ② 森川支部長退会のいきさつ
- ③ 平成16年度会計報告
- ④ 三谷昌鴻の支部長会義の報告
- ⑤ 持田誼による「ニュージーランド四方山話」の話
- ⑥ 大木研一による「nangoku-west」の解説
- ⑦ 会員による自己紹介

次いで併設のレストランSea Stageにて懇親会を開きました。(参加者：32名)

4. お詫び

サロン会を平成17年9月10日にサロン会を開くべく準備を進め、メールによる召集をかけましたが、土曜日の午前中のため都合の悪い会員が多かったためか、出席希望者が僅少でしたので開催を見送りました。関西支部としては初めての経験でしたので慌てました。関西支部役員としてお詫び申し上げます。

以上

北海道支部便り

平成17年8月25日 北海道支部長 工藤俊一
平成17年度南の会北海道支部総会

日時 5月28日(土) 14:00~17:00

場所 札幌市男女共同参画センター大研修室
議事

1. 会計報告 佐藤 真理子様
2. 情報提供 「ペナン、チェンマイステイ」
工藤支部長
3. 情報提供 「バンコクステイ」
富樫 則子様
4. その他・皆様からのご意見等

※会費 300円/人

※懇親会 PM5:30~ 北の菜路
季大地 011-737-0223
北7条西1丁目NSSビル地下1階
(エルプラザより歩いて5分くらい) 男性 飲み放題付きで3,500円 女性は
2,500円で行いました。参加は新会員11
名を含めて総勢29名年々参加人数は増
加傾向にあり嬉しい限りです。

この日は北海道放送(HBC)の取材も入り
発表にも力が入りました。

※ 報告会

工藤支部長の「ペナン、チェンマイステイ」はペナン島での生活状況チェンマイでの生活状況をプリントにて説明、内容が多すぎて時間オーバーでした。続いて富樫 則子さんの「バンコクステイ」は女一人で長期のバンコクステイ奮闘記を具体的に日常の生活状況を交えて、大変面白く会員に紹介してくれました。予定時間ぎりぎりまで会を終了。5:30分より近くの雰囲気の良い「北の菜路季大地」に集合

ビールで乾杯。益々話が盛り上がり、またの再会を楽しみにお開きにしました。

※ サロン会

賀陽様ご夫妻のペナン島行きを祝して、サロン会を開催いたしました。最近のバリの話も肴に、食事とビール等で盛り上がりました。

場所：ウェルシティ札幌 厚生年金会館

日時：8月6日（土） 16:00~18:00

急だったのでML会員のみの案内でしたが、22名もの参加がありました。

今回はバリ島、チェンマイ等へ出かけていた会員さんがおりましたので、会食しながらでしたが、ビデオ放映での報告を受けました。尚、会員滞在中のバリ島の様子は、随時北海道MLに書き込まれていましたので、現地の事情を知ることが出来ました。

賀陽ご夫妻は8月30日出発、来年の5月一杯ペナン島にコンドミニウムを借りて生活する予定です。サロン会で北海道支部サロン会をバリ島かペナン島でやりましょう。なんて話が冗談でもなく出ていましたのでそんなことが実現するかもしれません。大幅に時間オーバーして、大いに盛り上がったサロン会も無事終了。名残惜しく支部長宿泊の部屋で3次会。終わった時間は定かではありませんでした。

※ 今後の予定

10月サロン会、懇親会予定（日程未定）

バギオ支部便り

会員NO 227 バギオ支部 斎木です。

秋季号原稿の内、支部便りをお送りします。

【バギオ支部便り・日本の歌のコンテスト】

この原稿を書いている今は、9月の初旬ですが、会報秋季号が会員の手元に届くのは、多分10月の後半でしょう。今のバギオはまだ雨期の最中で、台風11号、13号、14号、15号の余波で雨模様の日が多い毎日です。

フィリピンには四季はありませんが、雨期の中にも何か秋の気配を感じるのは私が日本人だからと言うだけではないでしょう。雨に濡れた落ち葉がアスファルトの舗装道路のそこかしこにあります。雨の上った松林を抜ける散歩道にも、人影はまばらで、半袖のT-シャツの上に羽織った薄手のジャンパーの襟を立てて着る若者にも日本の秋の様な肌寒さを感じます。

その雨の中、南の会バギオ支部の支部としての友

好団体である北ルソン比日友好協会日本語スクールが主催する「日本の歌のコンテスト」が9月4日（日）、約200人近くの学生達が参加して、協会の施設アボンで開催されました。

従来から、学生達に日本の歌は機会ある毎に教えていましたが、今までは、日本から来るスポンサー達の年令を考え、童謡や、学童唱歌の曲目が中心でした。今回趣向を変えて、聴く人ではなく、歌う学生達の好きそうな日本の歌を課題曲にしました。

日本語の講座の講師を私の妻がこの1年間続けていた関係で、歌の指導は、会の友好団体「バギオ日本人会」の奥田会長と、南の会バギオ支部として私の妻が担当しました。

選んだ課題曲は5曲で、「上を向いて歩こう」「乾杯」「今日の日はさようなら」「名残雪」「翼を下さい」でした。「翼を下さい」は私の若い頃のNHKのスタジオ101のオープニングの曲で私も久し振りに聞きました。

会の会友の山田さんも手伝ってくれましたが、難しいのでは、と最初はとても心配げでした。コンテストの当日は、歌詞を暗記するルールで、名残雪など、長い歌詞を覚えきれるか、私も不安でした。

6月の最初にハイスクールの生徒達に教え始めた頃は、歌の意味も判らず、全く歌になりませんでした。2回目にはなんと、そこそこの歌に纏まってきました。

日本語教育の一環なので、歌詞の意味を教え、歌うばかりでなく、聞く日本語を知らない人にも判る様な何かをプラスすると言う追加の課題も加わりました。

9月4日の当日、私達の心配をよそに、最初の課題曲「乾杯」が、伴奏なしでスタートし、どこで聞いたのか結婚式の情景を入れながら唄い終えた時には、ぐっと胸に来るものがありました。

5曲全て、予想以上の出来栄で、順位を付けるのが可愛そうに思う程でしたが、優勝は「翼を下さい」でした。9月11日の「基金の日・シスター海野生誕祭」で発表されました。

この企画は、今年が最初でしたが、学生達にも好評だったので、これから毎年企画・実施される事になりそうです。

9月は、1日がバギオデーで、友好団体の日本人会は、パレードに参加し、優秀賞を獲得しました。

南の会にも参加の声が掛りましたが、当日は滞在中の会員がいないので、参加出来ませんでした。

9月3日は、戦後60年記念の一環として、山下將軍降伏記念式典とパレードがバギオであり、何故か日本人会にも参加要請がありました。日本人会は遠慮しました。

9月4日がこの「日本の歌のコンテスト」で、

9月11日が「基金の日」と、9月上旬は、

バギオはいろいろな行事がありました。

バギオの人達は、パレード好きで、毎月何かのパレードがあります。日本人会も結構参加しています。バギオにLSして、有効団体の日本人会や、日系人会の各種行事に参加する事は、楽しい思い出になると私は思います。

来年の2月には、バギオフラワーフェスティバルに日本人会が公式参加しますが、バギオ支部としても協同して、盆踊りや、生け花教室など企画中です。今からでも、参加したい方は、是非手を上げて、バギオにお出で下さい。きっといい思い出になるでしょう。

【バギオ支部便り・連絡】

この度、本部から予算の配分を頂き、支部として、来訪者する会員に貸し出す「携帯」を2台用意しました。貸し出し方法等、まだ検討中ですが、ご希望の方は、バギオ支部 齋木宛、事前にご連絡下さい。

また、バギオ支部は、支部サイドの事情で、マイカーを時として使用しています。マイカー使用時には、万一の事故の際の「損害賠償請求権の放棄」を条件としています。マイカー使用を忌避される方には、タクシー・レンタカーの使用が当然可能です。

初めてバギオを訪問される方には、支部からバギオの地図をプレゼントしています。去年から実施していますが、今年も継続しています。英文ですが、滞在中の一助になるでしょう。

齋木 一

saikihajime@hotmail.com

チェンマイ支部便り

メールリンクより抜粋

チェンマイだより No. 28

2005年9月15日(木)

チェンマイにロングステイして6年になるEさん夫妻がこの度突然帰国。ご主人の持病が思わしくないため日本の主治医にケアされたい由。当地には優秀な病院が多く、ご主人はかねてより当地で骨を埋めてもよいなどと言っていただけに、当地ステイヤーが受けたショックは大きなものがあります。このところロングステイブームで海外に出かける人が増えていますが、それが単身にせよ夫婦連れにせよ健康な間はいいのですが、或る日突然体調を崩し、まして入院なんてことにでもなれば、それが外国であるだけに大変です。

「自己責任」の重みをしっかり肝に銘じたいものです。

《これから当地を目指す方のために》

耳情報のみの下見経験なしで当地に直行し、住みはじめてみて期待と現実のギャップに戸惑い、失望してスゴスゴ帰国する人がいることも事実であります。チェンマイ・その光と影・・・

マス・メディアがあまり触れたがらない「影」の部分に焦点をあて、当地の実情を「7回シリーズ」で如実にお伝えすることで、皆様が当地を考えるうえでの一助になればと考えております。

(今日はその5回目)

(チェンマイ)「困ったもんだ」シリーズその⑤
「治安」編

これまで当地は治安の良いことで知られてきましたが、それがこのところ少しずつ変質しはじめています。大都会バンコクで日本人が被害に会うケースは以前から知られているところですが、それが当地にまでじわじわ広がってくる傾向にあります。独り当地だけがいつまでも治安の良さを維持出来る筈はないんです、どっかの国と同じように。

◆ まずは日本人に気をつけよ

1例； 初めてチェンマイ空港に降り立つ。通関を済ませ荷物も受け取り、カートを押して晴れてロビーへ。宿までのタクシーを拾おうと歩き始めたところで、こざっぱりした身なりの日本人男

性がどこからか現れ、丁寧な口調で「タクシーをお探しで？ どちらまで？ あれ それじゃ私と同じ方角、タクシーは高いから私の車で送らしましょう」とかなんとか。客人は、相手が日本人なので二もなく信用し送ってもらうことに。降り際に謝礼にとお金を差し出してもかたくなに辞退する・・・これがくせもの。男にしてみれば宿はもとより部屋番号まで聞き出したことだし滑り出し好調、あとは明るる日から甘言を駆使して密着行動。観光はもとより部屋探しに至るまで至れり尽くせりの無料出血大サービス、大を射んとすればなんとやら。この男にとって本命は部屋探し・・・自分と提携している家主の部屋・家などを見せて気に入らせ契約へ、ここで本性を現し法外な手数料と家賃を請求する。客人にすれば当地の相場など知るはずがなく言いなりに。

◆ 戸建で盗難被害

このメルマガNo. 25の「住まい編」でも扱いましたが再度取り上げてみましょう。チェンマイ周辺には瀟洒（しょうしゃ）な戸建の新興住宅地が多いが、各住宅地の入り口には大抵24時間態勢でガードマンがいる。が、フィリピンはマニラ辺りのように住宅地の周囲を高い塀で囲んでいるわけではないのでどこからでも進入可能、盗難被害がかなりあるようだ。チェンマイ市内の東北郊外サンサイ地区の新興住宅地に住むK氏、ひと月ほど帰国している間にテレビ・ステレオ・洗濯機を盗まれたとか。トラックを使つての窃盗団による犯行らしい。

◆ 暴行を受ける

去る7月のこと、メーピンホテル近くの飲み屋で或る日本人二人とタイ人が口論し喧嘩にまで発展、日本人はボカボカに殴られ二人とも重傷一人は8針縫ったとか。なお喧嘩の最中に近所の店の主人が拳銃（タイ人は所持自由）を持ち出し、喧嘩を止めさせるべく威嚇発射したらしい。タイ人は大声を出したり手を出すなんてことは滅多にないのだが、本質的にはプライドの高い民族で、人前で見下されたり罵られたりすると豹変、一たんキレルと何をしでかすか分からない不気味さがある。

◆ 当て逃げされ

或る日本人（男性）の話。車でホエイケウロードを西から東に下り、チャンプアック門の処で旧市街に向けて右折しようとしたところ、後ろから来

たセダンに追突され下車して見たところ後部右バンパーが破損。追突車の中年タイ人男性のところへ行き抗議したところこの男やおら開き直り、英語で「此処はタイだ。我々の国だ。お前ら外国人は帰れ！」と逆に嘯み付き、悠々立ち去ったそう。

◆ ひき逃げされる

8月のこと、当地の南郊外ハンドンという処で日本人が運転するバイクが左折しようとしたところ、後ろから来たタイ人運転の車にひき逃げされ死亡した。この被害者がたまたま或るCLL役員の知人だったため、8月例会当日この役員は月例会を休み、葬儀に参列するという痛ましい事故があった。

次回（その⑥）の予告・・・人間模様

「タイ国内ニュースから」

●タイ政府は「キッチン・オブ・ザ・ワールド」と称して、官民挙げて海外のタイ料理レストランを増やすというプログラムを推進しています。これをサポートするものとして、成田空港近くにタイ食材のディストリビューションセンター（配送センター）を設置するようです。先日、日タイ間で合意し、来年9月に発効される予定のFTA（自由貿易協定）では、コメを除くタイの農産物の大半は関税撤廃・関税引下げの恩恵を受けることが出来ます。

☆ お知らせ

① 当地サロン会が開かれる日：

日時・・・毎月第3日曜日・午後6時半

場所・・・チェンマイ プラザホテル前

中華レストラン「チアトンヘン」

下見等諸情報のゲットはこのサロン会で！ 参加ご希望の方は支部までメールでご連絡ください。

② 下見等で来られる会員の方に、必要に応じて連絡・交信用として携帯電話を1～2週間無料で貸し出しています。その代わり通話料として、当地で通用する携帯電話用プリペイドカード（300B分）を1枚当支部に提供して頂きます。

③ 当支部では、当地を訪れる会員さんの利便性を高めるために各方面の業者や施設と提携していますが、これら業者からレポート等の授受は一切ありません。

・ ◎当支部との提携旅行業者：

◇K. K. TRAVEL=K. K. TRAVEL LTD., PART

Email jpsales@chiangmaikk.com

担当者； ジョン (JOHN) さん

(携帯) 01-7965682

TEL. 053-418841 FAX: 053-418326

業務内容： 宿泊全般の手配 国内外の旅行
各種チケットの手配・ゴルフ場への予約・送迎
家探シツアー (1日) 約3000B (約9000円)
◇BO TRAVEL (ボー トラベル)

E-mail: botravel

@loxinfo.co.th

Tel. 053-206874

担当者； 齊藤氏・・・携帯電話； 01-

8841569 業務内容： 各種チケットの
手配 国内外の旅行

家探シツアー (1日) 約3000B (約9000円)

※上の業者にアクセスする場合、「(会員番号)
とお名前」の記載をお忘れなく！

当支部からのお願い

① 当支部へのご用件は nangoku
ML に迷惑をかけることなく、下記の支部
アドレスに直接アクセスしてください。

② 当支部へのお土産等は固辞しますので
悪しからずご了承ください。

★ 当支部がやらないこと：

① 観光ガイド & 住まいの斡旋・・・
(支部がやるべきことではないので)

② 会員など日本人宅見学の仲介・・・
(見学される側が受ける迷惑を考え)

◎ 「南の会」との友好団体： 「C L L (チェンマイ ロングステイ ライフ) クラブ」

場所：チェンマイプラザホテルの横・喫茶店「えびす」の2階・図書室の隣 ご来チェの際には
覗いてみてください。「チェンマイ生活ガイド
ブック」あり。月～金の毎日14:00～16:

00 の間、役員が交代で詰めております。
このメルマガは毎月1日・15日の2回発信予定

発信元： 南の会チェンマイ支部

(責任者：#558・伊沢 豊)

E-mail: izatoyo@hotmail.com

Tel: 09-8521273

新規友好団体

会員の皆様 健やかにお過ごしのことと存じます。
標記の件、「西豪州日本クラブ」理事の藤本様
(南の会パース支部長) から、お互い友好関係を
結び、お互いの情報提供をしようとの提案があり
ました。この提案を17年度第1回理事会に諮り、
「西豪州日本クラブ」との提携が承認されま
した。尚 西豪州日本クラブの会報 (8ページから
10ページ) が毎月発行されております。それは年
間千円の寄付をして頂いた方にEメール添付にて
発信されます。寄付者には受信する事が出来る条
件も合わせて承認されました。皆様に案内いたし
ます。

要注意： この会報は、写真 (カラー) など掲
載されているために容量を食います。受信の際長
時間を要する回線もありますので、もしご希望の
お方は藤本様に試しに送信して貰って下さい。藤
本様宜しくお願い致します。

本南国メールでは添付は出来ない事になってい
るため、添付出来ません。会報受信の件は、下記
の藤本様のメールを拝見され、十分検討の上、結
論を出して下さい

皆様のご健康ご多幸を祈念しております。

南国暮らしの会 理事長 酒匂 景輝

NPO 南国暮らしの会の皆さんへ

今日は110番のパースの藤本です。西オースト
ラリア州パースは春本番、4000種といわれる
WILD FLOWERの季節です。これから2ヶ
月間は観光客の一番多い季節とも言われており
ます。さて、皆さんの中にも、パースに関心をお持
ちの方達も少なからずいらっしゃるのではと推察
しております。現在南の会の会員は小生1人であ
り、現地の西豪州日本クラブの活動を主体に活動
しております。当クラブでは毎月会報を発行して
おり、少しずつですが充実してまいりました。こ
の会報は観光案内ではなくパースに住む日本人の
交流の場として会員に毎月発行しているものです。
そこでこうした会報をお読みいただき、皆なお
友達として接していただく一助になるのではと考
えた次第です。

本件に関しては7月31日の南の会の理事会でご審議頂きご了承を頂くとともに友好団体として相互協力のお約束を頂いております。今回、見本として9月号の会報を添付させていただきましたので、ご一読願えればパースでどんな活動をしているのかは読み取っていただけるのではないかと思います。皆さんがこうした会報をお読みいただき、各種行事にあわせて来豪され、ビジターとして、クラブ行事に参加され友好を深めていただければ、当方の役割も果たせるのではと思います。本来ですと無料が筋かと思いますが、諸経費分として年間1000円程度ご寄付願えないかと思っております。ご連絡は下記にメールでお願い出来れば幸いです。

fujisann@iinet.net.au

南の会 パース支部長 パース在住

日本住所 〒414-0001

伊東市 宇佐美3297-143

藤本 靖人

友好団体

- ☆(財) ロングステイ財団
- ☆ワールドステイクラブ (WSC)
- ☆チエンマイロングステイライフの会 (CLL)
- ☆バンコク日本人会
- ☆バギオ日本人会
- ☆KL (クアラルンプール) 日本人会

次回会報より各団体の近況報告を頂き紹介を定期的に行いたいと期待しております
ご協力の程 宜しくお願い致します。



会報担当より

住所変更された方等 会報送付先を変更される方は必ずご連絡をお願い致します。会報はヤマト運輸を使っておりますので、郵便局に住所変更届けをされても届きませんのでご注意ください。

前回夏季号発送作業に下記の方々のご協力を頂きました ご報告と御礼申し上げます
(敬称略順不同) 岩瀬光子 渡辺亜雄 平澤 信 高田勝弘 小林 孝 大野悦子
佐藤サツキ 加藤すみ子 安藤純子 有馬百合子 菊地範夫 龍野 宏

[表紙の写真作者ご紹介]

345番 藤巻 雄二様 ブーゲンビリア 他
885番 小山 澄男様 ご自宅バラ園

編 集 後 記

秋季号発行に当たり、寄稿いただきました皆様、投稿をお勧め頂いた皆様、
ならびに編集ご指導、ご協力いただいた皆様有難うございました。お蔭様で何とか
発行にこぎつけました。心から感謝お礼申し上げます。
編集は素人でパソコン苦手の私ですので悪戦苦闘でした、今回の女性特集が今後の
女性会員（家族会員を含む）の更なる会報寄稿など会活動参加へのきっかけになれば
望外の喜びです。

秋季号担当240番 菊地範夫

◇次回「新年号」は、1月下旬発行となります。

原稿締め切りは12月10日が目安です。

この会報は皆様の会報です。いろいろなご意見をお寄せ下さい。

会報編集委員会

会員番号	117	龍野 宏	047-492-1178
会員番号	327	市東 明義	03-3415-6611
会員番号	740	渡辺 亜雄	0474-25-3652
会員番号	281	村松 幸子	03-3919-0803 (新年号担当)
会員番号	462	小林 孝	047-445-1842
会員番号	240	菊地 範夫	044-287-0087

記事の無断転載・複製を禁じます。

発行者 特定非営利活動法人 (NPO法人)
「南国暮らしの会」

理事長 酒匂 景輝

〒140-0002 東京都品川区東品川3-22-20-1208
TEL 03-3472-9916 FAX 03-3472-9954

NANGOKUNANGOKUNANGOKU



NANGOKUNANGOKUNANGOKU